



MUSIC SYNTHESIZER

MODX6+

MODX7+

MODX8+

取扱説明書




安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源アダプターについて



警告



禁止

ヤマハ製電子楽器以外に使用しない。
電源アダプターは、ヤマハ製電子楽器専用です。他の用途には、ご使用にならないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。



禁止

電源アダプターは、室内専用のため屋外および水滴のかかる環境では、使用しない。また、水の入った物、花瓶などを機器の上に置かない。
内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。



注意



必ず実行

製品は電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに製品の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

楽器本体について

警告

電源 / 電源アダプター



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの(70ページ)を使用する。

異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

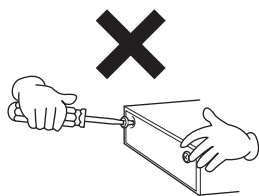
感電やショートのおそれがあります。



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末の修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上ろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末の修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源アダプター



たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。

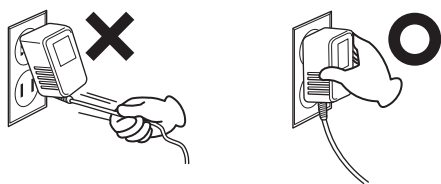
禁止



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

必ず実行

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

必ず実行

感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方がけがをしたりする原因になります。

禁止



この製品を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行う。

必ず実行

この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方がけがをしたりする原因になります。



本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。

必ず実行

コードをいためたり、お客様やほかの方が転倒したりするおそれがあります。



この製品を電源コンセントの近くに設置する。

必ず実行

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。



- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(画面表示が消えている)でも微電流が流れています。[⏻](スタンバイ/オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

ご使用上の注意

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱い/お手入れに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。iPad、iPhone、iPod touchのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためiPad、iPhone、iPod touchの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- 手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を含ませた柔らかい布を固くしぼってご使用ください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。

■ データの保存に関する注意

● 編集したパフォーマンスデータ

本体にセーブせずに電源を切ると消えてしまいます。オートパワーオフ機能(19ページ)により電源が切れた場合も同様です。

● MIDI設定、システム設定

画面を切り替えたときにデータが保存されます。画面を切り替えずに電源を切ったり、オートパワーオフにより電源が切れるとデータが消えてしまうので、ご注意ください。

保存しておきたいデータは、本体またはUSBフラッシュメモリーに保存してください(60ページ)。

ただし、本体に保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBフラッシュメモリーに保存してください(60ページ)。USBフラッシュメモリーの取り扱いについては、61ページをご覧ください。

お知らせ

● データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この製品に内蔵または同梱されたコンテンツは、ヤマハ(株)が著作権を有する、またはヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物です。製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出し、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

※上記コンテンツとは、コンピュータープログラム、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。

※上記コンテンツを使用して音楽制作や演奏を行い、それらを録音や配布することについては、ヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

● 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- この製品には、XGフォーマット以外の音楽/サウンドデータを扱う機能があります。その際、元のデータをこの楽器に最適化して動作させるため、オリジナルデータ(音楽/サウンドデータ)制作者の意図どおりには再生されない場合があります。ご了承のうえ、ご使用ください。

● 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- 本書では、MODX6+、MODX7+、MODX8+をあわせて「MODX+」として表記しています。
- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- []は、パネル上にあるボタン類や端子、LCD画面上のボタンを示します。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Apple、macOS、Mac、iPhone、iPad、iPod touch、Logicは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- AbletonはAbleton AGの商標です。
- IOSは、米国およびその他の国におけるCisco社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

ヤマハ製品では、機能や操作性向上のために、予告なくファームウェアをアップデートすることがあります。製品の機能を十分に生かしてお楽しみいただくため、最新バージョンにアップデートすることをおすすめします。最新のファームウェアは、下記ウェブサイトからダウンロードすることができます。

<https://jp.yamaha.com/support/>

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

(bottom_ja_02)

開発チームからのメッセージ

このたびは、ヤマハミュージックシンセサイザーMODX+をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。MODX+は、フラッグシップシンセサイザーMONTAGEの生み出した新しい音表現を、より多くの人々に体験していただけるような楽器を目指しました。

Sounds サウンド

MODX+は、MONTAGEに搭載された新しい音源システム「Motion Control Synthesis Engine」を搭載しました。高品位なAWM2サウンドと、ダイナミックなFM-Xサウンドを、多彩なコントローラーを使って連続的に変化させることが可能です。

また、MONTAGEサウンドを使った音作りで、より積極的にリズムパートを楽しめるよう、リズムパターン機能を新たに搭載しました。「Motion Control」のリズミカルな音変化を手軽に作り出せます。

Design デザイン

スーパーノブやタッチパネル搭載の大型カラーLCDなど、MONTAGEの表現力や視認性はそのままに、軽量かつ持ち運びやすいデザインにしました。MONTAGE直系の音表現を、あなたのライブ演奏へ持ち出すことができます。

MODX+を通じて、皆様の音楽活動がよりよいものになることを心よりお祈りしています。

ヤマハMODX+ 開発チーム一同

このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この楽器はライブ演奏や音楽制作にお使いいただけるシンセサイザーです。

この楽器に搭載された機能を十分に活かし、演奏をお楽しみいただくため、本書をよくお読みになってからご使用ください。

また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管していただきますようお願いいたします。

取扱説明書について



取扱説明書(本書)

MODX+の基本機能について説明しています。MODX+の使い方全般を知りたい場合にご活用ください。さらに詳しい情報や操作方法は、リファレンスマニュアルをご参照ください。



PDFマニュアル

● リファレンスマニュアル

MODX+の内部構造、他機器との接続方法例について、詳細に説明しています。冊子の取扱説明書には掲載されていない、より詳細な情報を知りたい場合は、このマニュアルをご活用ください。

● シンセサイザーパラメーターマニュアル

シンセサイザーでよく用いられるパラメーターやエフェクトタイプ/パラメーター、MIDIメッセージなどについて説明しています。まずは取扱説明書およびリファレンスマニュアルをお読みいただき、パラメーターやエフェクトなどについてさらに詳しく知りたい場合にこのマニュアルをご活用ください。

● データリスト

パフォーマンス、ウェーブフォーム、エフェクトタイプ、アルペジオタイプなどの本体内蔵コンテンツのリストや、MIDIインプリメンテーションチャートなどの資料を掲載しています。

PDFマニュアルの活用方法

リファレンスマニュアル、シンセサイザーパラメーターマニュアル、データリストは、電子ファイル(PDF形式)になっています。これらのPDFマニュアルは、ヤマハ ダウンロードのウェブサイトからご覧いただけます。インターネットに接続して以下のウェブサイトの「取扱説明書」ページを開き、「製品名またはキーワード」テキストボックスにモデル名「MODX+」と入力して「検索」をクリックします。

ヤマハ ダウンロード

<https://jp.yamaha.com/support/>

これらの電子ファイルは、コンピューターを使ってご覧いただくことができます。コンピューターでご覧いただくソフトウェアとして「Adobe® Reader®」を使うと、用語をすばやく検索したり、必要な部分のみ印刷したり、リンクをクリックして該当する項目を開いたりすることができます。特に用語検索とリンク機能は、電子ファイルならではの便利な機能です。ぜひご活用ください。

最新のAdobe Readerは下記のURLよりダウンロードできます。

<https://www.adobe.com/jp/products/reader/>

付属品について

- 電源アダプター
- 取扱説明書(本書)
- CUBASE AI DOWNLOAD INFORMATION (CUBASE AIダウンロードについて)
- 保証書

特長

■ 多様な音楽ジャンルをカバーする、徹底強化されたハイクオリティな音色

MODX+は、AWM2音源とFM-X音源を組み合わせで使用できます。

AWM2音源は、MONTAGEと同等となる約5 GB (16ビットリニア換算時)の波形を持ち、ピアノをはじめ、すべてのカテゴリー音色のクオリティを強化しています。

また、1.75 GBのユーザーフラッシュメモリーも標準搭載。外部の音色ライブラリーを取り込み、内蔵音源のように使用できます。

FM-X音源は、定番のFMサウンドから新世代のサウンドまで、幅広い音変化を生かした表現ができます。

→ 音色(パフォーマンス)を選ぶ(22ページ)

■ 多彩なエフェクトシステム

各パートのインサージョンエフェクト(最大12パート+A/Dパート)、インサージョンエフェクトの前後にある3バンドと2バンドのパートEQ(イコライザー)、マルチバンドコンプを含むマスターエフェクトや5バンドのマスターEQなど、多彩なエフェクトシステムを搭載しています。

パートごとのインサージョンエフェクトにはVCM (Virtual Circuitry Modeling)エフェクトやポコーダーなど、さまざまなタイプを設定できます。

→ 編集(エディット)する(37ページ)

■ 新しい音表現を可能にするモーションコントロール機能

モーションコントロール機能は、モーション(リズムカルな音変化と多次元音変化)を生み、その変化をリアルタイムにコントロールする、まったく新しい音表現を実現した機能です。モーションコントロール機能として、以下の3つを用意しています。

- 1) **スーパーノブ**: 多次元音変化を生み出すコントローラー。音やビートの変化を、光の変化と動きで表現します。
- 2) **モーションシーケンサー**: モーションをシーケンシャル(連続的)に動作させます。
- 3) **エンベロープフォロワー**: モーションをオーディオ入力のテンポに同期させます。

■ リズムパターン機能

リズムパートを使った積極的な音作りのために、リズムパターン機能を搭載しました。リズムパートを素早くアサインして、エンベロープフォロワーなどの機能を使って「Motion Control」のリズムカルな音変化を手軽に作り出せます。

■ 新しい音楽シーンを彩る豊富なアルペジオタイプとモーションシーケンス

10,000を超える豊富なアルペジオタイプと、時間変化により音に躍動感をあたえるモーションシーケンスを組み合わせることで、より高い表現力を持つフレーズを演奏できます。アルペジオタイプとモーションシーケンス、パートボリュウムなどの他のパラメーターの組み合わせを、シーンとして8つ保存できます。曲の展開に合わせた「シーン」を瞬時に呼び出せるようになりました。

→ 演奏する(26ページ)

■ ライブパフォーマンスをアシストする機能

ライブパフォーマンスで使用する音色を簡単に登録、呼び出しができるライブセット機能を搭載しました。曲の進行順に必要な音色を登録しておくことで、音色選択に迷うことなく快適にライブパフォーマンスを行えます。

また、音色切り替え時の音切れをなくすSSS (シームレスサウンドスイッチング^{*1})機能を搭載しました。発音中のエフェクトを完全に保持したまま、次の音色にスムーズに切り替えます。

*1 パフォーマンスあたり最大4パートまでの音色で効果可能

→ オリジナルのライブセットを作る(35ページ)

■ より使いやすくなったユーザーインターフェース

演奏者は、直感的に使えるタッチパネルと操作が確実でショートカット設定にも適したスイッチを志向にあわせて使い分けることにより、ストレスのない高効率なオペレーションが行えます。また、面発光スイッチは状態によって光り方が3種類に変化します。現在有効なスイッチが一目でわかるので、操作に迷わず演奏に集中できます。

■ 持ち運びに便利なコンパクトデザインと、本格的な鍵盤を搭載

持ち運びを考えたコンパクトなサイズと重量を実現しつつ、鍵盤に関しては、MODX6+は61鍵、MODX7+は76鍵のセミウェイテッド鍵盤、MODX8+は88鍵のGHS鍵盤を採用し、軽量ながらも、本格的な弾き心地を実現しました。

■ 快適なシステム接続性

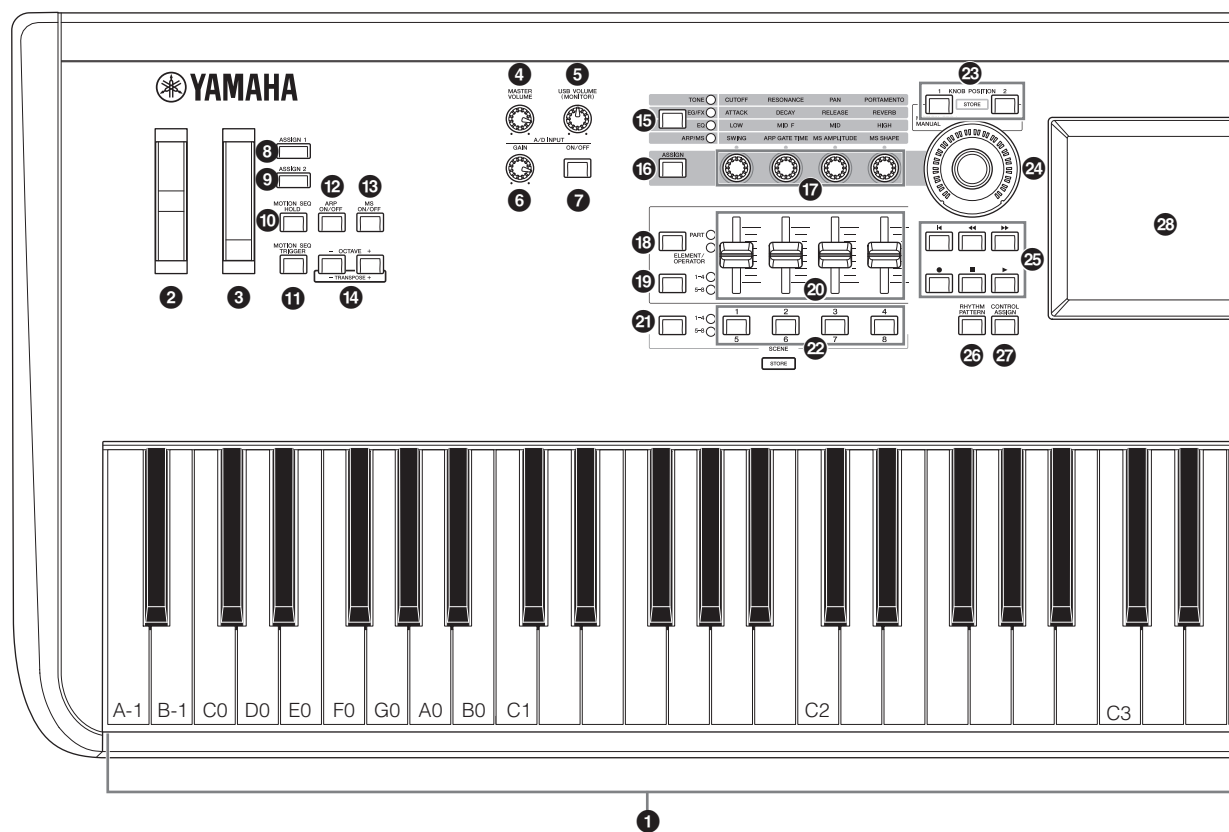
4 ch In/10 ch OutのUSBオーディオインターフェースを搭載し、MODX+の高品位サウンドを簡単かつ確実にMac/PCに録音できます(サンプリング周波数は44.1 kHz)。また、iOSデバイスとの接続も対応しています。

目次

安全上のご注意	2	マスターキーボードとして使う	49
ご使用上の注意	5	マスターキーボード(ゾーン)機能の設定をする	49
開発チームからのメッセージ	6	マイクやオーディオ機器を活用する	50
取扱説明書について	7	A/D INPUT [L/MONO]/[R]端子からの入力信号を 鳴らしながら演奏する	50
付属品について	7	本体のさまざまな設定をする	51
特長	8	電源を入れたときの状態を設定する	51
各部の名称と機能	10	ボタンの半点灯状態を設定する	51
フロントパネル	10	さまざまな機能のオン/オフを設定する	51
リアパネル	16	マスターチューンを変更する	52
ご使用前の準備	18	ペロシティーカーブを変更する	53
電源の準備	18	ライブセットの文字サイズを変更する	53
スピーカーやヘッドホンの準備	18	外部MIDI機器と接続して使う	54
電源を入れる/切る	18	MIDI [IN]、[OUT]端子で外部MIDI機器と接続する	54
オートパワーオフ機能	19	[USB TO DEVICE]端子で外部MIDI機器と接続する	54
工場出荷時の状態に戻す(イニシャライズ オールデータ)	19	コンピューターと接続して使う	55
基本操作と画面表示	20	コンピューターとの接続準備	55
音色(パフォーマンス)を選ぶ	22	コンピューターを活用した音楽制作	57
ライブセットからパフォーマンスを選ぶ	23	本体の設定をセーブ/ロードする	60
パフォーマンスを切り替える	23	本体の設定をUSBフラッシュメモリーにセーブする	60
楽器の種類でパフォーマンスを選ぶ (カテゴリーサーチを使う)	24	USBフラッシュメモリーにセーブした本体の設定を ロードする	60
オーディションフレーズを聞く	25	[USB TO DEVICE]端子で ご使用上の注意	61
演奏する	26	シフト機能一覧	62
パフォーマンスプレイの表示画面	26	メッセージリスト	63
パートのオン/オフを切り替える	27	困ったときは	65
アルペジオを使う	28	仕様	70
モーションシーケンサーを使う	28	索引	72
コントローラーを使って音色を変化させる	29	ユーザーサポートサービスのご案内	74
ノブを使って音色を変化させる	30	保証とアフターサービス	75
スーパーノブを使って音色を変化させる	31		
ミキシングをする	33		
シーン機能を使う	34		
オリジナルのライブセットを作る	35		
パフォーマンスをライブセットに登録する	35		
ライブセットに登録したパフォーマンスを並べ替える	35		
編集(エディット)する	37		
パフォーマンスをエディットする	37		
パートをエディットする	38		
パートのエフェクトをエディットする	39		
パフォーマンスのパート構成例	40		
パートを組み合わせるパフォーマンスを作る	41		
リズムパターンを使う	43		
録音/再生する	45		
用語解説	45		
MIDI録音(ソング録音)する	45		
ソングを再生する	47		
オーディオ録音する	48		
オーディオファイルの再生	48		

各部の名称と機能

フロントパネル



① 鍵盤

MODX6+は61鍵、MODX7+は76鍵、MODX8+は88鍵で構成されています。アコースティックピアノのように、弾き方の強弱でパフォーマンスの音量や音色をコントロールできるイニシャルタッチがついています。

② ピッチベンドホイール

ピッチベンド効果のアップ/ダウンをコントロールします。その他、さまざまな機能を割り当てて使用できます。

③ モジュレーションホイール

モジュレーション効果をコントロールします。その他、さまざまな機能を割り当てて使用できます。

④ [MASTER VOLUME] (マスターボリューム)ノブ

マスターボリュームを調節します。ノブを右へ回すほど、OUTPUT [L/MONO]、[R]端子や[PHONES]端子からの出力が大きくなります。

⚠ 注意

大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

⑤ [USB VOLUME (MONITOR)] (USBボリューム(モニター))ノブ

[USB TO HOST]端子からのオーディオ入力のうち、OUTPUT [L/MONO]、[R]端子や[PHONES]端子へ直接出力される音量を調節します。

⑥ A/D INPUT [GAIN] (A/Dインプットゲイン)ノブ (50ページ)

A/D INPUT [L/MONO]、[R]端子からの入力信号のゲインを調節します。右に回すほど、ゲインが大きくなります。

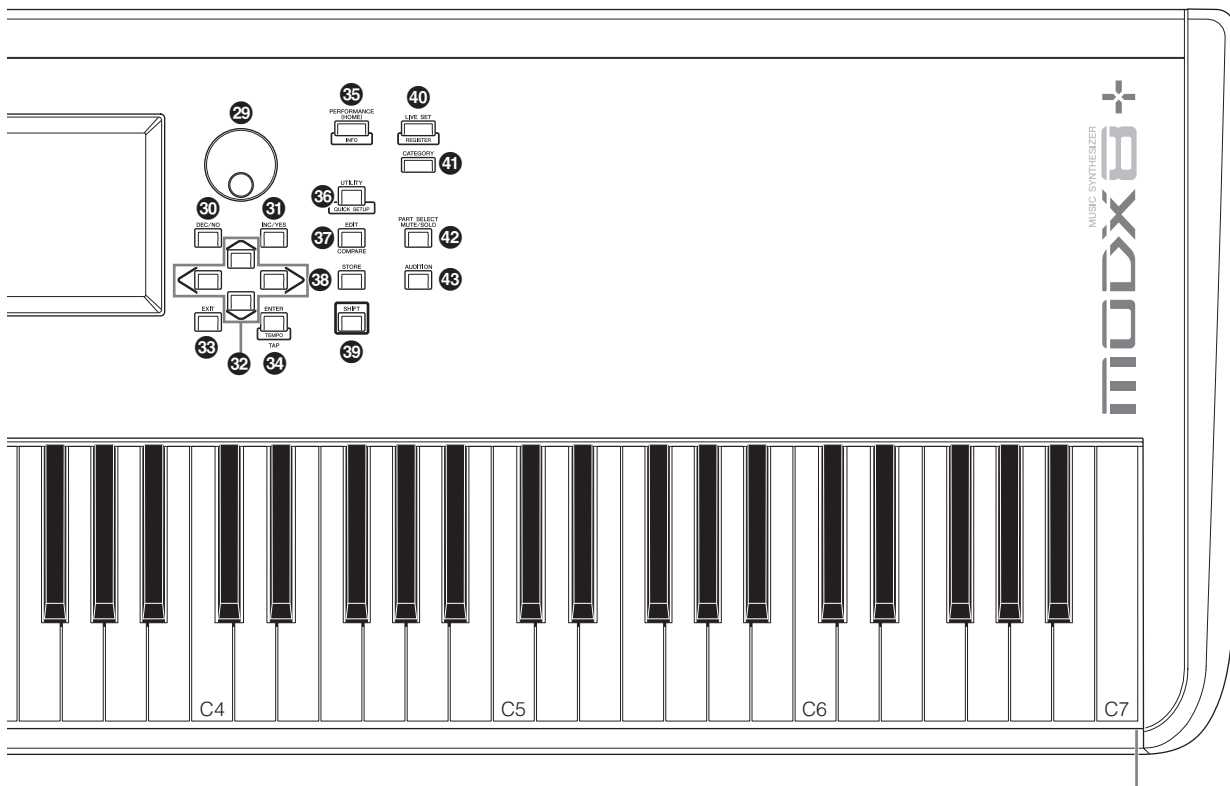
NOTE

A/D INPUT [L/MONO]、[R]端子に接続する機器の出力レベルに応じて、[UTILITY] → [Settings] → [Audio I/O] → [A/D Input]の設定を変える必要があります。マイクなどの出力レベルの低い機器を接続した場合は「Mic」（マイク）に、オーディオ機器や電子楽器などの出力レベルの高い機器を接続した場合は「Line」（ライン）に設定します。

⑦ A/D INPUT [ON/OFF] (A/Dインプット オン/オフ)ボタン(50ページ)

A/D INPUT [L/MONO]、[R]端子からの入力を有効にするか無効にするかを切り替えます。オンのときはボタンが点灯、オフのときはボタンが消灯します。

イラストは代表してMODX8+を掲載しています。



**⑧ [ASSIGN 1]、⑨ [ASSIGN 2]
(アサインナブルスイッチ1、2)ボタン**

より多彩な表現を実現するために、リアルタイムにエレメント/オペレーターを変化させるボタンとして機能します。また、さまざまな機能を割り当てて使用できます。オンのときはボタンが点灯、オフのときはボタンが消灯します。

**⑩ [MOTION SEQ HOLD]
(モーションシーケンサーホールド)ボタン**

モーションシーケンサー再生時にこのボタンを押すとオンになり、モーションシーケンサーの出力値が持続します。オンのときはボタンが点灯、オフのときはボタンが消灯します。

**⑪ [MOTION SEQ TRIGGER]
(モーションシーケンサートリガー)ボタン**

モーションシーケンサーのトリガーレシーブパラメーターをオンにしておくと、このボタンを押すことでモーションシーケンサーが再生されます。オンのときはボタンが点灯、オフのときはボタンが消灯します。

⑫ [ARP ON/OFF] (アルペジオ オン/オフ)ボタン

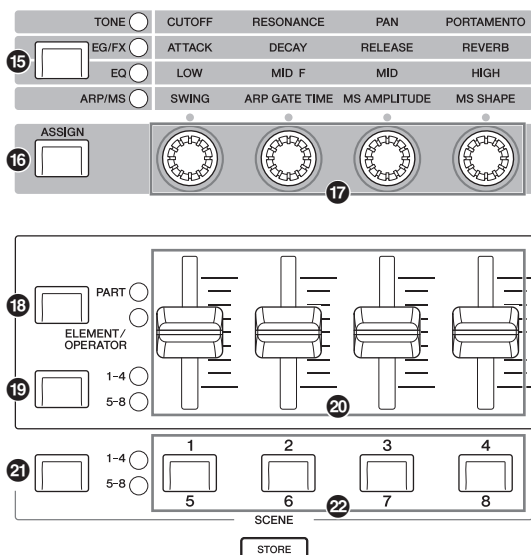
アルペジオを再生させるかどうか、このボタンをオン/オフすることにより設定できます。各パートでアルペジオスイッチがオフに設定されている場合、このボタンをオンにしても、そのパートでアルペジオは再生されません。オンのときはボタンが点灯、オフのときはボタンが消灯します。

**⑬ [MS ON/OFF]
(モーションシーケンサー オン/オフ)ボタン**

モーションシーケンサーを有効にするかどうか、このボタンをオン/オフすることにより設定できます。各パートおよび各レーンでモーションシーケンサースイッチがオフに設定されている場合、このボタンをオンにしても、そのパートでモーションシーケンサーは再生されません。オンのときはボタンが点灯、オフのときはボタンが消灯します。

⑭ OCTAVE (オクターブ) [-]/[+]ボタン

これらのボタンを押すたびに、鍵盤を1オクターブずつダウン/アップさせることができます。また、[SHIFT]ボタンを押したままこれらのボタンを押すと、トランスポーズ[-]/[+]ボタンとして機能します。ボタンを押すたびに、鍵盤を1半音ずつダウン/アップさせることができます。2つのボタンを同時に押すと標準の音の高さ(0)に戻ります。変更しているオクターブによって、ボタンの点灯状態が変わります。



15 ノブファンクション [TONE]/[EG/FX]/[EQ]/[ARP/MS]ボタン

ノブの機能を切り替えます。ランプが点灯している段の機能が選択されます。

ノブの機能は、パフォーマンスコントロール状態(30ページ)では全パート共通に働き、パートコントロール状態(30ページ)では選択したパートに対して働きます。

選択されている機能のランプは点灯、選択されていない機能のランプは消灯します。

16 [ASSIGN] (アサイン)ボタン

ノブをAssign 1~4として使うか、5~8として使うかを切り替えます。

割り当てられた機能は、パフォーマンスコントロール状態(30ページ)では全パート共通に働き、パートコントロール状態(30ページ)では選択したパートに対して働きます。

Assign 1~4のときはボタンが点灯、Assign 5~8のときはボタンが点滅します。

17 ノブ1~4 (5~8)

パネルの4つのノブを回すことで、演奏中のパートの音色やアルペジオ再生、モーションシーケンサーに関する設定など、さまざまなパラメーターを調節できます。左上にあるノブファンクション[TONE]/[EG/FX]/[EQ]/[ARP/MS]ボタン、[ASSIGN]ボタンを押すことにより、ノブの機能を切り替えます。[ASSIGN]ボタンが点灯または点滅のときは、アサインノブとして機能します。

18 スライダーファンクション[PART](パート)/ [ELEMENT/OPERATOR] (エレメント/オペレーター)ボタン

パネルの4つのコントロールスライダーをパートの操作に使うかエレメントの操作に使うかを選びます。ボタンを押すたびに「PART」と「ELEMENT/OPERATOR」が切り替わります。選択されているほうのランプが点灯します。

19 スライダーセレクト[1-4]/[5-8]ボタン

パネルの4つのコントロールスライダーをパートまたはエレメントの[1]~[4]として使うか、パートまたはエレメントの[5]~[8]として使うかを選びます。ボタンを押すたびに[1-4]と[5-8]が切り替わります。[1-4]または[5-8]の場合は、選択されているほうのランプが点灯します。

[SHIFT]ボタンを押したままスライダーセレクト[1-4]/[5-8]ボタンを押すと、[9]~[12]または[13]~[16]へと切り替わります。[9]~[12]または[13]~[16]の場合は、選択されているほうのランプが点滅します。

20 コントロールスライダー 1~4 (5~8/9~12/13~16)

16個のパート(1~4/5~8/9~12/13~16)のボリュームやノーマルパート(AWM2)を構成する8つのエレメントもしくはノーマルパート(FM-X)のオペレーター、ドラムパートのキーのボリュームを、それぞれ調整します。

NOTE

- コントロールスライダーがすべて0になっている場合(すべて下がりきっている場合)、本体の音が鳴らない可能性があります。鍵盤を弾いても音が鳴らない場合、ソングを再生させても音が鳴らない場合などは、コントロールスライダーの位置を上げてみてください。
- [MASTER VOLUME]ノブでは、本体から出力されるオーディオ音声のボリュームを調節します。それに対して、コントロールスライダーではパートのエレメント/キー/オペレーターやパフォーマンスの各パートのボリュームを、パラメーターの設定値として変更することになります。したがって変更された値は、パフォーマンスデータとして保存(ストア)できます。

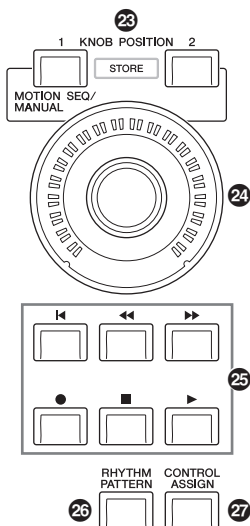
21 シーンセレクト[1-4]/[5-8]ボタン

パネルの4つのSCENEボタンをシーン[1]~[4]ボタンとして使うか、シーン[5]~[8]ボタンとして使うかを選びます。ボタンを押すたびに[1-4]と[5-8]が切り替わります。選択されているほうのランプが点灯します。

22 SCENE (シーン) [1/5][2/6][3/7][4/8]ボタン

それぞれのボタンにパートのパラメーター値やミュート、ミキシングの設定の一部などを、シーンとして記録できます。シーンセレクト[1-4]/[5-8]ボタンで[1-4]を選ぶと、シーン番号1~4、[5-8]を選ぶとシーン番号5~8を選べます。

シーン機能に対応したパラメーターを編集し、[SHIFT]ボタンを押したままSCENE [1/5]~[4/8]ボタンを押すと、それぞれのボタンにその情報を記録することができます。ボタンを押すことにより、選択したボタンに記録された情報が復元されます。選択されているボタンは点灯、情報が記録されたボタンは半点灯、情報が何も記録されていないボタンは消灯します。



23 KNOB POSITION (ノブポジション) [1]、[2] ボタン

Assign 1~8の値をそれぞれのボタンに記録し、ワンタッチで切り替えられます。

[SHIFT]ボタンを押したままKNOB POSITION [1]ボタンを押すとValue1、KNOB POSITION [2]ボタンを押すとValue2にその情報を記録することができます。

KNOB POSITION [1]と[2]を同時に押すと、Super Knob Motion Seqのオンとオフが切り替わります。

24 スーパーノブ

ノブに割り当てられたパラメーター (Assign 1~8)の値を同時にコントロールできます。

NOTE

フットコントローラー (FC7)をご利用することで、足元からスーパーノブをコントロールすることができます。33ページをご参照ください。

25 シーケンサートランスポートボタン

ソングシーケンスデータの再生/録音をコントロールします。

[◀](トップ)ボタン

ソングの先頭小節まで戻します。

[◀◀](リワインド)ボタン

ソングの再生位置を1小節ずつ戻します。

[▶▶](フォワード)ボタン

ソングの再生位置を1小節ずつ進めます。

[●](レコード)ボタン

ソングをレコーディングするページに切り替えます(レコーディング画面)。レコーディング画面でこのボタンを押してレコードセットアップ画面に切り替えると、ボタンが点滅します。[▶](プレイ)ボタンを押して、録音が始まるとボタンが点灯します。

[■](ストップ)ボタン

ソングの再生やレコーディングを止めます。

また、鍵盤から指を離しても再生され続けるアルペジオ(アルペジオ ホールド スイッチがオン状態)を止めたり、トリガーを受け取るモーションシーケンスを止めることもできます。

[▶](プレイ)ボタン

ソングを再生したり、ソングのレコーディングを開始したりします。再生やレコーディングを開始すると、ボタンがテンポに合わせて点滅します。

26 [RHYTHM PATTERN](リズムパターン)ボタン

リズムパターン画面(43ページ)を表示します。使いたいリズムパターンを選んでから[PERFORMANCE (HOME)]ボタンか[EXIT]ボタンを押すと確定できます。

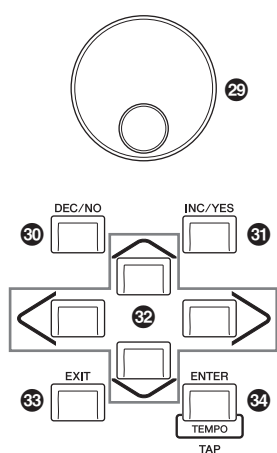
もう一度このボタンを押すと、選択がキャンセルされ、画面が閉じます。

27 [CONTROL ASSIGN] (コントロールアサイン) ボタン

コントローラーに割り当て可能なパラメーターを画面内で選択しているときに、このボタンを押し、コントローラーを操作すると、そのコントローラーの設定画面が開きます。

28 タッチパネルLCD (液晶ディスプレイ)

さまざまな情報を表示します。画面をタッチすることで表示内容を操作できます。



29 データダイヤル

画面中のカーソルがある位置の値を、変更するときに使います。右に回す(時計回り)と値が増加し、左に回す(反時計回り)と値が減少します。設定レンジの広いパラメーターは、ダイヤルを速く回すほど、変化量が大きくなります。

30 [DEC/NO] (デック/ノー)ボタン

画面中のカーソルがある位置の値を、1つずつ減らす(DEC = decrement)ことができます。また、ストアやジョブを中止する場合の確認(NO)に使用します。設定レンジの大きいパラメーター値を変更する場合、[SHIFT]ボタンを押したまま[DEC/NO]ボタンを押すことで、値を10ずつ減らすことができます。

31 [INC/YES] (インク/イエス)ボタン

画面中のカーソルがある位置の値を、1つずつ増やす(INC = increment)ことができます。また、ストアやジョブを実行する場合の確認(YES)に使用します。設定レンジの大きいパラメーター値を変更する場合、[SHIFT]ボタンを押したまま[INC/YES]ボタンを押すことで、値を10ずつ増加させることができます。

32 カーソルボタン

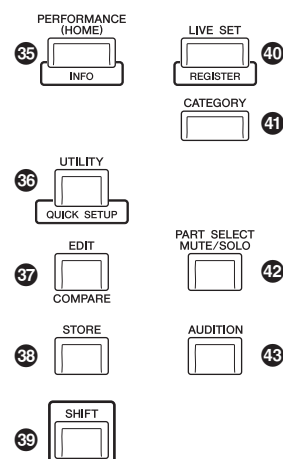
画面中のカーソルを上下左右に移動させる場合に使用します。

33 [EXIT] (エグジット)ボタン

MODX+の画面に表示される機能は階層構造になっています。設定中に1つ上の階層画面に戻るときに、このボタンを使います。

34 [ENTER] (エンター)ボタン

選択した項目の画面を呼び出すときに、このボタンを使います。また、各ジョブやストア操作の実行と確認(YES)にも使用します。[SHIFT]ボタンを押したままこのボタンを押すと、テンポセッティング画面を開きます。



35 [PERFORMANCE (HOME)] (パフォーマンス(ホーム))ボタン

パフォーマンスプレイ画面に戻るときに、このボタンを使います。パフォーマンス画面のときはボタンが点灯し、ユーティリティー画面ではボタンが半点灯します。

パフォーマンスプレイ画面でパフォーマンスネームにカーソルがある場合、このボタンを押すことで[View]ボタンで表示される詳細情報の表示と非表示の切り替えができます。[SHIFT]ボタンを押したままこのボタンを押すと、オーバービュー画面を開きます。

36 [UTILITY] (ユーティリティー)ボタン

システム全体の設定を行うユーティリティー画面を表示します。ユーティリティー画面のときはボタンが点灯し、それ以外の画面ではボタンが半点灯します。

[SHIFT]ボタンを押したままこのボタンを押すと、クイックセットアップ画面を開きます。

[UTILITY]ボタンを押したまま[PART SELECT MUTE/SOLO]ボタンを押すと、タッチパネルのキャリブレーション画面を開きます。

37 [EDIT] (エディット)ボタン

パフォーマンス(22ページ)、ライブセット(35ページ)を編集する画面を表示します。また、パフォーマンスのパラメーター編集集中に、このボタンを押すことで、編集前と編集後の音を聞き比べることもできます(コンペア機能)。エディット画面のときはボタンが点灯し、コンペア機能中は点滅します。

38 [STORE] (ストア)ボタン

ストア画面を表示します。ストア画面のときはボタンが点灯し、それ以外の画面ではボタンが半点灯します。

39 [SHIFT] (シフト)ボタン

他のボタンと組み合わせることで、いろいろな動きをします。実行できる機能については、「シフト機能一覧」(62ページ)をご参照ください。

40 [LIVE SET] (ライブセット)ボタン

自分の好きなパフォーマンスだけをまとめて登録できる「ライブセット」を呼び出すボタンです。

また、[SHIFT]ボタンを押したままこのボタンを押すと、現在選択されているパフォーマンスをライブセットに登録する画面を開きます。よく使うパフォーマンスをライブセットに登録しておけば、ライブ時などにすばやくパフォーマンスを切り替えることができます。

ライブセット画面のときはボタンが点灯し、それ以外の画面では、ライブセット機能が有効な場合は半点灯、無効な場合は消灯します。

41 [CATEGORY] (カテゴリー)ボタン

カテゴリーサーチ機能(24ページ)を呼び出すときに押すボタンです。

パフォーマンスプレイ画面で、このボタンを押すとパフォーマンスカテゴリーサーチ画面を開き、全体のパフォーマンスを選択できます。

パートにカーソルがある場合は、[SHIFT]ボタンを押したままこのボタンを押すことで、パートカテゴリーサーチ画面を開き、現在選択されているパートの音色を選択できます。

カテゴリーサーチ画面のときはボタンが点灯し、それ以外の画面では、カテゴリーサーチ機能が有効な場合は半点灯、無効な場合は消灯します。

42 [PART SELECT MUTE/SOLO] (パートセレクトミュート/ソロ)ボタン

パート選択したり、ミュートやソロのオンとオフを切り替えるときに押すボタンです。パフォーマンスプレイ画面でこのボタンを押すと、パートセレクトウィンドウが表示されます。

ボタン	操作
1-8	パート1~8を表示
9-16	パート9~16を表示
Select	パート選択表示に切り替え
Mute	ミュート設定表示に切り替え
Solo	ソロ設定表示に切り替え

ミュート状態のパートには「M」、ソロ状態のパートには「S」と表示されます。

パートセレクトウィンドウを閉じるには、ボタンをもう一度押すか、画面上の「×」をタッチします。

パートセレクトウィンドウの表示中はボタンが点灯、非表示のときはボタンが半点灯します。ユーティリティー画面やライブセット画面など、パートセレクトを使わない画面ではボタンが消灯します。

43 [AUDITION] (オーディション)ボタン

パフォーマンスプレイやライブセット、カテゴリーサーチ画面でこのボタンを押すと、選択中のパフォーマンスの音色によるフレーズ(オーディションフレーズ)を再生/停止します。オンのときはボタンが点灯、カテゴリーサーチ画面など、オーディション機能が有効な場合にボタンが半点灯します。

パフォーマンスプレイ画面またはライブセット画面表示中に[SHIFT]ボタンを押したままこのボタンを押すと、演奏中の誤操作を防止するためのパネルロックをオン/オフできます。

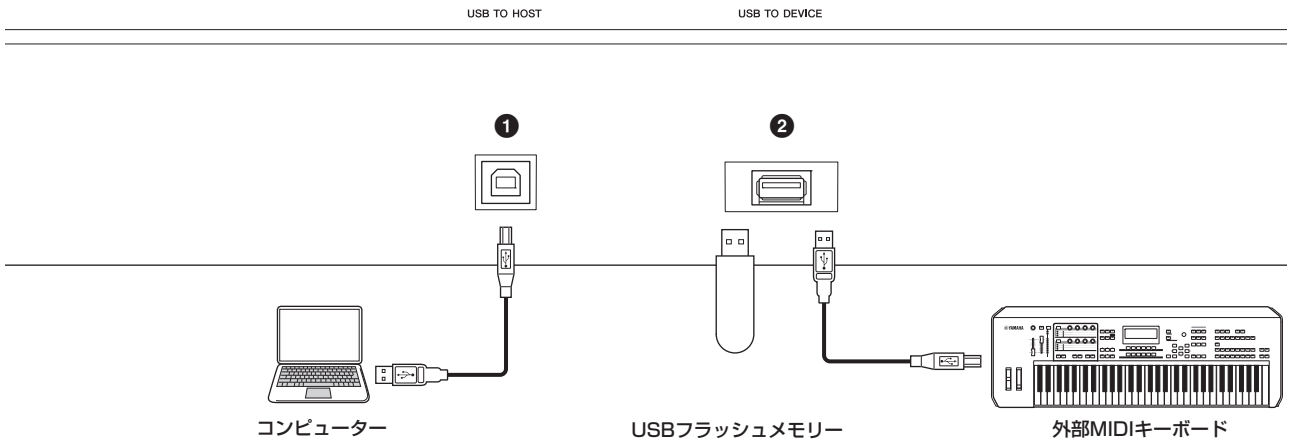
NOTE

パネルロック中は、特定の操作(鍵盤、ペダル、マスターボリューム、スーパースト、ピッチベンドホイール、パネルロックオフ)のみが可能です。それ以外の操作は、タッチパネルの操作も含め、すべて無効になります。

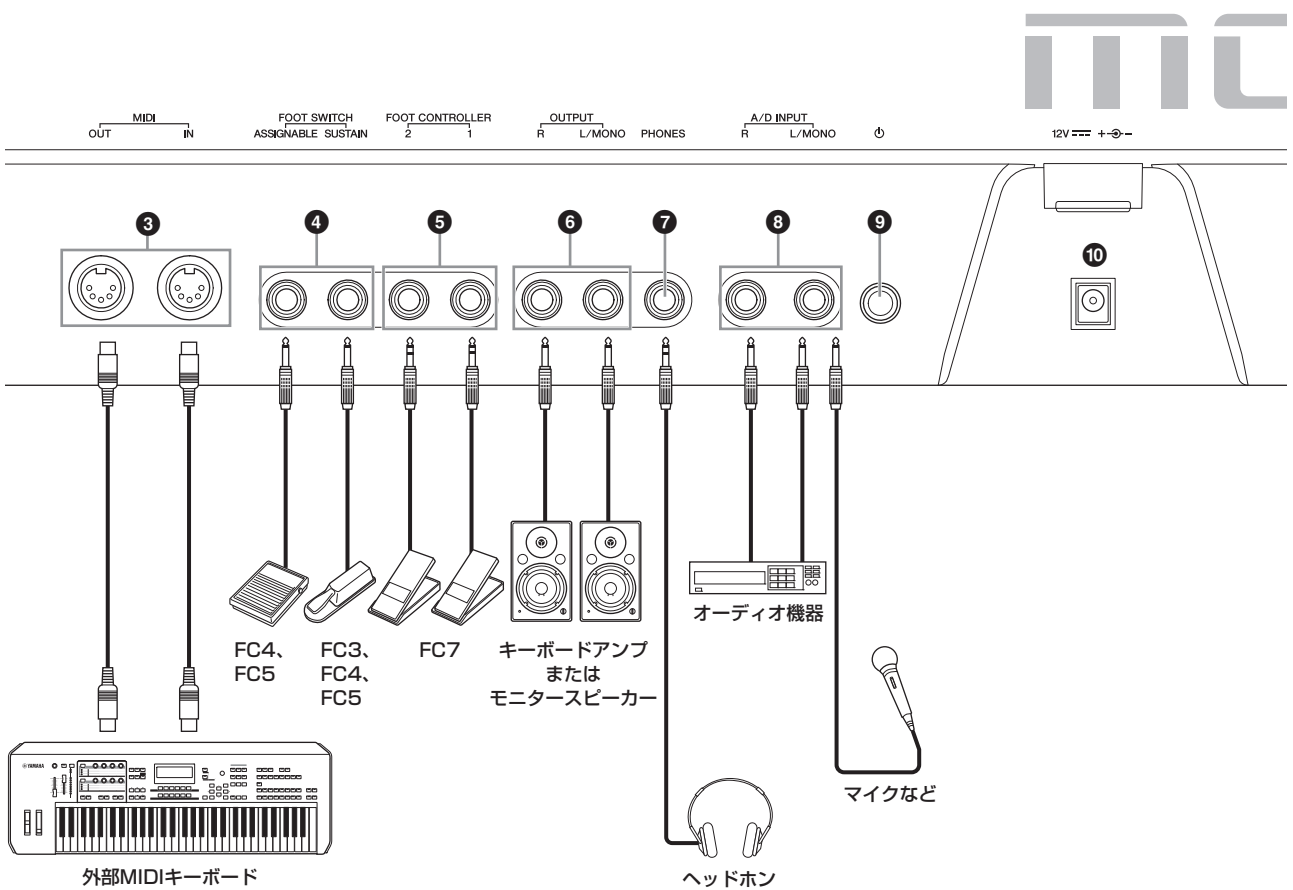
リアパネル

■ リアパネル左寄り

イラストは代表してMODX8+を掲載しています。



■ リアパネル右寄り



■ リアパネル左寄り

① [USB TO HOST]端子

本体とコンピューターのUSB端子とを、USBケーブルで接続するために使います。これにより、コンピューターと本体とでMIDIデータ、オーディオデータの送受信ができます。MIDIケーブルでの送受信と違って、USBケーブルではポート信号(56ページ)を扱えます。MODX+で扱えるポートについては、56ページをご参照ください。

NOTE

オーディオデータの送信は、最大10チャンネル(5ステレオチャンネル)です。オーディオデータの受信は、最大4チャンネル(2ステレオチャンネル)です。

② [USB TO DEVICE]端子

本体とUSBフラッシュメモリー (61ページ)、または外部MIDI機器(54ページ)を接続するために使います。本体で制作したデータをUSBフラッシュメモリーに保存(セーブ)したり、またUSBフラッシュメモリーから本体へデータを読み込むこと(ロード)ができます。フラッシュメモリーと本体とのデータのやりとりは、[UTILITY] → [Contents] → [Store/Save] (または[Load])で行います。

NOTE

- 本機では、USB対応のハードディスクドライブやCD-ROMドライブ、またUSBハブなどは使用できません。
- 本機では、USB 1.1~3.0の機器がご使用できますが、機器への保存や機器からの読み込みにかかる時間は、データの種類や本機の状態により異なります。

■ リアパネル右寄り

③ MIDI [IN]、[OUT]端子

MIDI [IN]端子は外部MIDI機器から送信されるMIDIメッセージを受信します。外部MIDI機器からMODX+をコントロールしたり、音源部を鳴らしたりすることができます。

また、MIDI [OUT]端子からはMODX+の演奏情報やパネルのコントローラーやノブなどの操作情報をMIDIメッセージとして送信します。MODX+で他のMIDI音源を鳴らしたり、外部のMIDI機器をコントロールできます。「MIDI IN/OUT」設定(54ページ)が「USB」のときは、これらの端子は外部MIDI機器とコンピューターを接続するために使えます(56ページ)。

④ FOOT SWITCH [ASSIGNABLE]、[SUSTAIN] (フットスイッチ アサインابل、サステイン)端子

別売のフットスイッチFC3、FC4、FC5を接続します。[SUSTAIN] (サステイン)端子に接続したフットスイッチはサステイン専用に使います。

[ASSIGNABLE] (アサインابل)端子に接続したフットスイッチには、サステイン以外にもさまざまな機能を割り当てることができます。

[SUSTAIN]端子にはフットスイッチFC3、FC4、FC5を、[ASSIGNABLE]端子にはフットスイッチFC4、FC5を使用できます。

NOTE

- 本書では、FC3AなどのFC3相当品とFC3をまとめて、「FC3」と記載します。
- 本書では、FC4AなどのFC4相当品とFC4をまとめて、「FC4」と記載します。

⑤ FOOT CONTROLLER [1]、[2] (フットコントローラー 1、2)端子

別売のフットコントローラーFC7を接続します。パートエディットでさまざまな機能を割り当てることで、音色、音量、ピッチなどを足元でコントロールできます(リファレンスマニュアルをご参照ください)。

⑥ OUTPUT [L/MONO]、[R] (アウトプット左/モノラル、右)端子

MODX+のオーディオ信号を出力する端子(標準ジャック)です。モノラル出力したい場合は、[L/MONO]端子だけに接続します。

⑦ [PHONES] (ヘッドホン)端子

ヘッドホンを接続します。ステレオ標準ジャックです。常にOUTPUT [L/MONO]、[R]と同じ信号が出力されます。

⑧ A/D INPUT [L/MONO]、[R] (A/Dインプット左/モノラル、右)端子

本体へ外部オーディオ信号を入力する端子(標準ジャック)です。マイクや、CDプレーヤーなどのオーディオ機器、シンセサイザーなどの電子楽器を接続し、入力音声をオーディオ入力パートとして鳴らすことができます。

さらにMODX+では、ボコーダーを内蔵音源のエフェクトとして機能させることができます。ボコーダーを使用するときは、この端子にマイクを接続し、マイクから入力する音声などのオーディオ信号によって、ボコーダーのかかりかたをコントロールできます。

またエンベロープフォロワー機能やABS (オーディオビートシンク)機能を使う場合にも、この端子を使用します。

エンベロープフォロワーとは、入力信号の波形のエンベロープ(振幅包絡)を抽出する機能のことで、音色を変化させるコントローラーとして使います。

NOTE

- ギター、ベースなどを接続の場合は、ピックアップがアクティブタイプのものなら直接接続できますが、パッシブタイプのはエフェクターを介して接続してください。
- ボコーダー、エンベロープフォロワーともにA/D INPUT [L/MONO] [R]端子だけではなく、すべてのパート出力によるコントロールができます。

ABS (オーディオビートシンク)とは、この端子に入力されるオーディオのビートを検出し、それとモーションシーケンサーやアルペジオを同期させる機能です。

接続にはモノラル標準プラグを使います。オーディオ機器などでステレオ入力の場合は[L/MONO]、[R]端子に接続し、マイクなどモノラル入力の場合は[L/MONO]端子に接続します。エンベロープフォロワー機能やABS機能の詳細については、リファレンスマニュアルをご参照ください。

⑨ [⏻](スタンバイ/オン)スイッチ

電源のスタンバイ/オン スイッチです。

⑩ DC IN (DCイン)端子

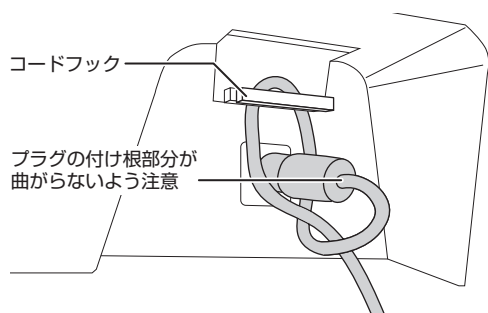
付属の電源アダプターを接続する端子です。

ご使用前の準備

電源の準備

次の順番で、付属の電源アダプターを接続します。

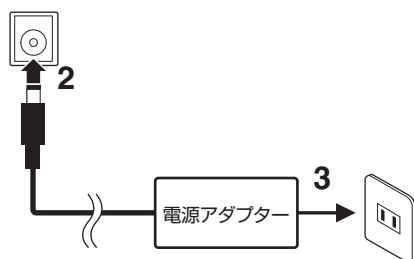
- 1 本体の[⏻](スタンバイ/オン)スイッチがスタンバイの状態(■)になっていることを確認します。
- 2 付属の電源アダプターのコードを、リアパネルにあるコードフックに図のように(参考例)セットし、プラグをDC IN端子に接続します。



注記

電源アダプターのコードをコードフックにセットすることによって、誤ってコードを引っ掛けた場合でも抜けにくくなります。ただし、この状態でコードを強く締めこんだり、コードを引っ張ったりすることは、コード表面の摩擦やフックの破損につながりますのでご注意ください。

- 3 電源アダプターのもう一端のプラグを電源コンセント(AC100V)に接続します。

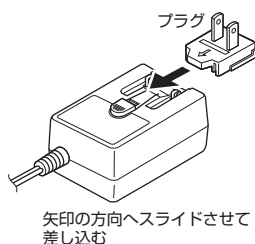


NOTE

電源アダプターを外すときは、逆の手順で行ってください。

警告

- 電源アダプターは、必ず指定のもの(70ページ)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねる場合がございますので、十分にご注意ください。
- プラグが外れるタイプの電源アダプターは、必ずプラグを装着した状態で使用、または保管してください。プラグ部分だけをコンセントに差し込むと、感電や火災の原因になります。
- プラグが外れた場合は、内部の金属部分に触れないように注意して、カチッと音がするまで完全に差し込んでください。また異物が入らないようにご注意ください。感電やショート、故障の原因になります。

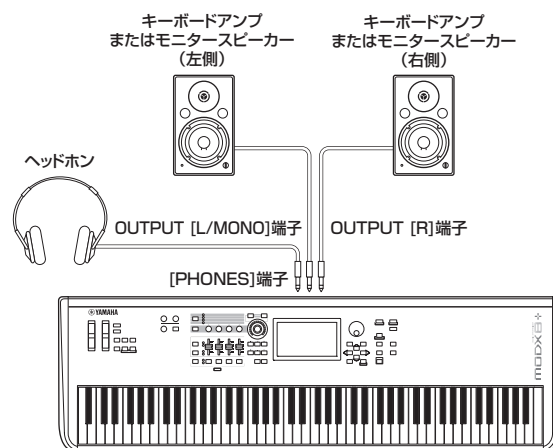


注意

- 本体はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- [⏻](スタンバイ/オン)スイッチがスタンバイの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは、必ず電源アダプターを電源コンセントから抜いてください。

スピーカーやヘッドホンの準備

音を鳴らすための準備をします。キーボードアンプやモニタースピーカー、ヘッドホンをご用意いただき、下図のように接続します。接続の際には、接続する機器をよく確認して別途ケーブルをご用意ください。



電源を入れる/切る

電源を入れる前に、MODX+とキーボードアンプやモニタースピーカーのボリュームが、0になっていることを確認します。キーボードアンプやモニタースピーカーに接続しているときは、次の順番で電源をオン/オフしてください。

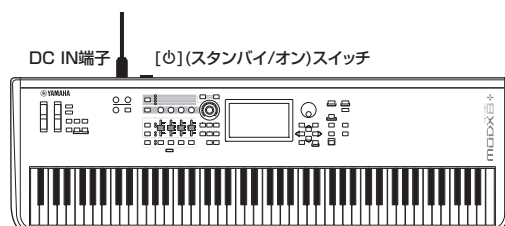
電源を入れるとき

ボリュームを0 → MODX+をオン(■)(画面が表示され、ボタンが点灯します) → アンプまたはスピーカーをオン

電源を切るとき

ボリュームを0 → アンプまたはスピーカーをオフ → MODX+をスタンバイ(■)(画面が消え、ボタンが消灯します)

MODX+の[⏻](スタンバイ/オン)スイッチは、鍵盤側から見てリアパネル左寄りのDC IN端子の右にあります。



オートパワーオフ機能

オートパワーオフとは、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、本体が一定時間操作されないと自動的に電源が切れる機能です。

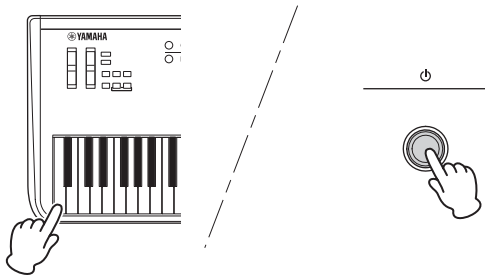
オートパワーオフの設定

電源が自動的に切れるまでの時間が変更できます。

設定手順	[UTILITY] → [Settings] → [System] → [Auto Power Off]
設定値(分)	off (オートパワーオフ解除)、5、10、15、30、60、120
初期設定(分)	off

オートパワーオフの簡単解除

左端の鍵盤を押したまま電源を入れると、「Auto power off disabled.」と表示され、オートパワーオフ機能が解除されます。この場合、解除の設定は自動的に保存されます。



注記

- 電源が切れた状態でも微電流が流れています。完全に電源を切るには、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体の状態によっては、一定時間操作せずにオートパワーオフの設定時間が経過しても電源が切れない場合があります。使用後は、手動で本体の電源を切ってください。
- アンプ、スピーカー、コンピューターなどの外部機器を本体に接続した状態で一定時間操作しない場合は、外部機器損傷を防ぐために、取扱説明書の手順に従って外部機器と本体の電源を切ってください。接続した状態で自動的に電源が切れるのを避けたい場合は、オートパワーオフを解除してください。
- オートパワーオフで電源が切れた場合、保存していないデータは消去されます。電源が切れる前に、必ずストア(保存)を実行してください。
- 本体のオートパワーオフ設定が「off」の場合は、外部に保存したシステムデータを本体にロードしても、システムデータの設定にかかわらず本体の設定は「off」のままになります。本体のオートパワーオフの時間が設定されている場合は、本体にロードしたシステムデータの設定に書き換わります。

NOTE

- オートパワーオフの設定時間はおよその目安です。
- オートパワーオフで電源が切れたあと電源を入れなおす場合は、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチをいったんスタンバイの位置(■)に戻してから、もう一度[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押してください。
- イニシャライズ オールデータを実行すると、オートパワーオフの設定が初期値(off)に戻ります。

工場出荷時の状態に戻す (イニシャライズ オールデータ)

注記

イニシャライズ オールデータを実行すると、現在のユーザーメモリのパフォーマンス、ソングなどのデータや、ユーティリティー画面でのシステム設定の内容が、すべて工場出荷時の設定に書き換えられてしまいます。大切なデータを失わないようにご注意ください。また、必要な設定内容は、前もってUSBフラッシュメモリーに保存することをおすすめします(60ページ)。

- [UTILITY]ボタンを押すか、画面右上の[UTILITY]アイコンをタッチして、ユーティリティー画面を表示します。**
- 画面左の[Settings]タブをタッチし、次に[System]タブをタッチします。**
システム全般を設定する画面が表示されます。
- 画面右下の[Initialize All Data](イニシャライズ オールデータ)ボタンをタッチします。**
実行を確認するダイアログ画面が表示されます。
実行を中止する場合は、画面上の[Cancel No]ボタンをタッチするか、[DEC/NO]ボタンを押します。
- 画面上の[Yes]ボタンをタッチするか、[INC/YES]ボタンを押して、イニシャライズ オールデータを実行します。**

基本操作と画面表示

MODX+の画面は、タッチパネルです。画面上の設定/選択したい項目に、直接指で触れて操作できます。また、データダイヤルやその他のボタンも画面の操作に使います。

画面(タッチパネル)の見かた

ここでは、MODX+を起動したときにはじめに開くライブセット画面と、ホーム画面であるパフォーマンスプレイ画面を用いて、全画面で共通に表示されるナビゲーションバーと画面選択タブについて説明します。

NOTE

電源を入れたときの状態は変更できません。
設定のしかたは51ページをご参照ください。

ライブセット(Live Set)画面



① HOME (ホーム)アイコン

パフォーマンスプレイ画面に移動します。

② EXIT (エグジット)アイコン

パネル上の[EXIT]ボタンと同様の機能です。設定中に1つ上の階層画面に戻るときに、このアイコンを使います。

③ INFORMATION (インフォメーション)エリア

選択中の画面名などの情報を表示します。

④ EFFECT (エフェクト)アイコン

エフェクトスイッチ画面を開きます。インサーションエフェクト/システムエフェクト/マスターエフェクトのいずれかがオフになると、アイコンが消灯します。

⑤ QUICK SETUP (クイックセットアップ)アイコン

ローカルコントロール オン/オフ、MIDI IN/OUT設定を表示します。

ローカルコントロールオンの場合は鍵盤のアイコンが点灯し、ローカルコントロールオフの場合は鍵盤のアイコンが消灯します。

MIDI IN/OUT設定がMIDIの場合は、MIDI端子のアイコンが表示されます。MIDI IN/OUT設定がUSBの場合は、USBアイコンが表示されます。

アイコンをタッチするとクイックセットアップ画面を開きます。

⑥ TEMPO SETTINGS (テンポセッティング)アイコン

現在選択されているパフォーマンスのテンポを表示します。アイコンをタッチするとテンポセッティング画面を開きます。

⑦ UTILITY (ユーティリティー)アイコン

アイコンをタッチするとユーティリティー画面のうち、直前に開いた画面を開きます。

パフォーマンスプレイ画面



⑧ LIVE SET (ライブセット)アイコン

アイコンをタッチするとライブセット画面を開きます。

⑨ 画面選択タブ

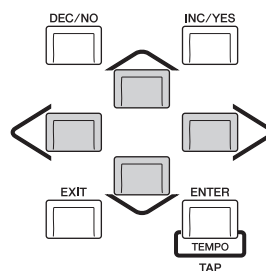
それぞれのタブをタッチすると対応した画面が開きます。

⑩ View (ビュー)ボタン

各パートに関する情報を詳細表示するか(On)/しないか(Off)を設定します。表示される情報はカーソルの位置やスライダーファンクションの設定によって切り替わります。

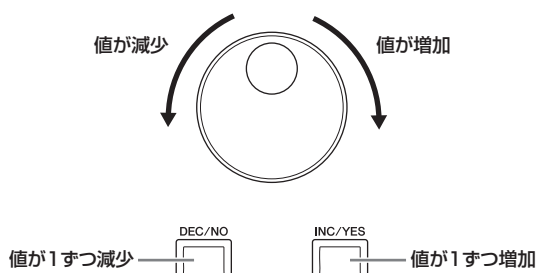
カーソル移動

4つのカーソルボタン(上下左右)を使って、画面上のカーソル(反転表示部分)を上下左右方向に順番に移動させることができます。カーソルが置かれている位置の値を、データダイヤルや[INC/YES]ボタン、[DEC/NO]ボタンで変更します。



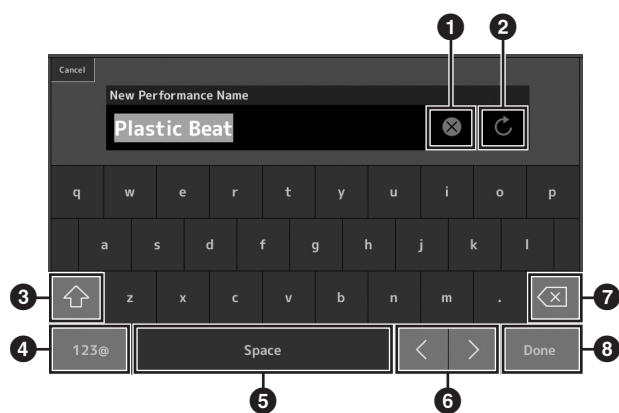
値の変更/設定

データダイアルを右方向(時計回り)に回すと値が増加し、左方向(反時計回り)に回すと値が減少します。
[INC/YES]ボタンを押すたびに値が1ずつ増加し、[DEC/NO]ボタンを押すたびに値が1ずつ減少します。
設定レンジの大きいパラメーター値を変更する場合、[SHIFT]ボタンを押したまま[INC/YES]ボタンを押すことで、値を10ずつ増加させることができます。逆に[SHIFT]ボタンを押したまま[DEC/NO]ボタンを押すことで、値を10ずつ減らすことができます。



文字入力

パフォーマンスネームやソングネームなど、文字を入力するパラメーターをタッチ、もしくはカーソルを移動し[ENTER]ボタンを押すと、以下の画面が表示され、文字を入力する状態になります。



- 1 すべての文字を削除します。
- 2 この画面を表示したときの文字列に戻します。
- 3 大文字/小文字を切り替えます。
- 4 記号入力に切り替わります。
- 5 カーソル位置にスペースを挿入します。([INC/YES]ボタンを押すことでも同様の操作ができます。)
- 6 カーソルを移動します。
- 7 一文字削除します。([DEC/NO]ボタンを押すことでも同様の操作ができます。)
- 8 文字入力を完了し、この画面を閉じます。

鍵盤入力とテンキー入力

特定のパラメーターでは、鍵盤を押さえて数値を入力する方法(鍵盤入力)や画面にテンキーを表示させて数値を入力する方法(テンキー入力)が使えます。鍵盤入力は値としてノートまたはベロシティーを入力するパラメーターで有効となり、テンキー入力は値を入力するパラメーターで有効となります。対象のパラメーターをタッチ、もしくはカーソルを移動し[ENTER]ボタンを押すと、以下のメニューが開きます。



- 1 鍵盤入力が有効となります。
鍵盤を押すと、押した鍵盤のノートまたはベロシティーが入力されます。
- 2 テンキー入力の画面が開きます。
このとき、テンキーによる数値の直接入力のほか、データダイアル、[INC/YES]ボタン、[DEC/NO]ボタンによる数値の増減ができます。

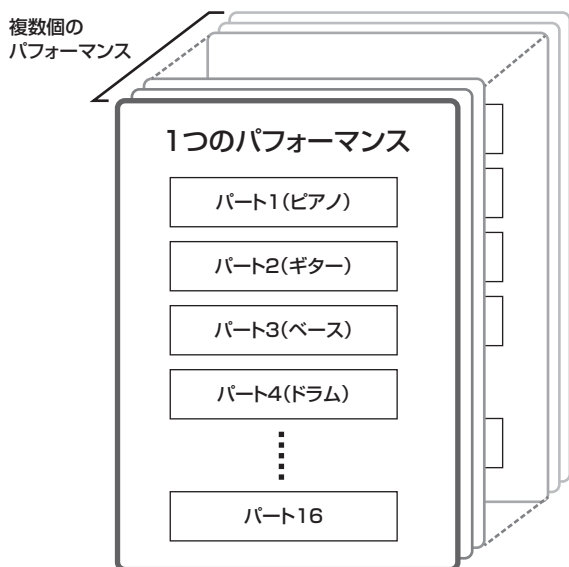
テンキー入力画面



- 3 すべての数字を削除します。
- 4 この画面を表示したときの数値に戻します。
- 5 最下位の数字を削除します。
- 6 数値入力を完了し、この画面を閉じます。

音色(パフォーマンス)を選ぶ

MODX+は16パートで構成されており、各パートにはMODX+のサウンドの基本となる楽器音が割り当てられています。それらの音色セットをパフォーマンスと呼び、MODX+ではこのパフォーマンスを選ぶことで音色を切り替えます。



パフォーマンスを構成するパートには、以下の3種類があります。

ノーマルパート(AWM2)

ピアノ、オルガン、ギター、シンセサイザーなどさまざまな楽器の音色のパートです。鍵盤の音階に合った音の高さで発音します。

ノーマルパート(FM-X)

FM-X音源による音色のパートです。鍵盤の音階に合った音の高さで発音します。

ドラムパート

リズムパートを演奏する場合に使う音色のパートです。各ノートナンバー(鍵盤)にいろいろな打楽器が割り当てられています。

また、パフォーマンスには大きく分けて以下の2種類があります。

シングルパートパフォーマンス

単独のパートから構成されるパフォーマンスです。単体の楽器の音色を鳴らしたい場合はこちらを選択します。

マルチパートパフォーマンス

複数のパートから構成されるパフォーマンスです。複数の楽器の音色をレイヤー/スプリットさせて鳴らしたい場合はこちらを選択します。

MODX+には、パフォーマンスを記憶させるためのバンクが用意されています。バンクの種類には、大きく分けてプリセットバンク、ユーザーバンク、ライブラリーバンク、GMバンクがあります。各バンクは、記憶されているパフォーマンスや役割が下記のように異なります。

プリセットバンク

あらかじめ本体に内蔵されたパフォーマンスが入っています。プリセットバンクには、パフォーマンスを保存できません。

ユーザーバンク

パフォーマンスエディットで作ったパフォーマンスを保存(ストア)しておくバンクです。初期は空の状態となっています。

注記

ユーザーバンクのパフォーマンスは、上書きされると消えてしまいます。エディットしたパフォーマンスを保存する場合は、大事なユーザーパフォーマンスに上書き保存しないようにご注意ください。

ライブラリーバンク

ライブラリーとして本体に追加されたパフォーマンスが入っています。初期は空の状態となっています。

(ライブラリーの追加はライブラリーファイルを読み込むことで行います。)

GMバンク

GM音色として規定されたパートが入っています。

GM音色

GMとは、メーカーや機種が異なった音源でも、ほぼ同じ系統の音色で演奏が再現されることを目的に設けられた、音源の音色配列やMIDI機能に関する一定の基準のことです。本体のGMバンクは、GM対応のソングデータがほぼ正常に再生できることを目的にしており、GMに完全に対応しているわけではありません。

各バンクには、パフォーマンスが種類別に記憶されています。

NOTE

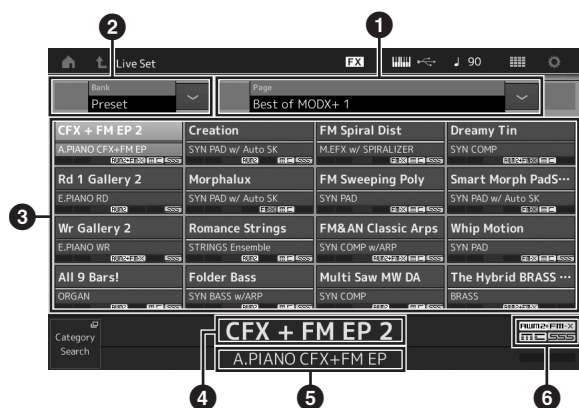
- パフォーマンスについて詳しくは、PDFファイル「リファレンスマニュアル」の「MODX+のしくみ」をご覧ください。
- パフォーマンスの一覧は、PDFファイル「データリスト」をご覧ください。

はじめて電源を起動した後に表示されるトップ画面では、プリセットバンクのライブセットが表示されます。ライブセットとは、パフォーマンスを任意の順番に並べたリストのことで、1ページあたり16個のパフォーマンスを並べることができます。あらかじめ用意されているライブセットから、さまざまなパフォーマンスを選んで演奏してみましょう。

ライブセットからパフォーマンスを選ぶ

1 [LIVE SET]ボタンを押します。

ライブセット画面が開きます。



1 ページ(画面上的)[^][V]ボタンでページ切り替え)

NOTE

[SHIFT]+[INC/YES]または[DEC/NO]でも同様の操作が可能です。

2 プリセットバンク/ユーザーバンク(画面上的)[^][V]ボタンで切り替え)

3 パフォーマンスリスト

4 選択中のパフォーマンスネーム

5 スロットネーム

6 フラグ

フラグの表記と意味

表記	意味
AWM2	AWM2音源のパートのみで構成されるパフォーマンス
FM-X	FM-X音源のパートのみで構成されるパフォーマンス
AWM2+FM-X	AWM2音源のパートとFM-X音源のパートから構成されるパフォーマンス
MC	モーションコントロールをフィーチャーしたパフォーマンス
SSS	Seamless Sound Switching (シームレス サウンド スイッチング)に対応したパフォーマンス

NOTE

- Seamless Sound Switching (シームレス サウンド スイッチング)とは、パフォーマンスを別のパフォーマンスに切り替えたときに、音切れすることなく自然につなぐ技術です。SSSは1~4パートから構成されるパフォーマンスには有効ですが、5~16パートを使っているパフォーマンスには無効となります。
- フラグ表記で、「FM-X」の背景がグラデーションになっている場合、そのパフォーマンスがスマートモーフ情報を持っていることを示します。スマートモーフは、複数のFM-X音色の間を、機械学習を使ってなめらかに変化させることができる機能です。詳しくは、リファレンスマニュアルをご参照ください。

2 画面上的好きなパフォーマンスをタッチして選びます。

NOTE

ライブセットに登録したパフォーマンスを並べ替える方法は35ページをご参照ください。

3 鍵盤を弾いてみましょう。

パフォーマンスを切り替える

1 [PERFORMANCE (HOME)]ボタンを押します。

パフォーマンスプレイ画面が表示され、現在選択されているパフォーマンスネームが確認できます。

パフォーマンスネーム



2 パフォーマンスネームにカーソルを合わせ、データダイアルや[INC/YES]、[DEC/NO]ボタンでパフォーマンスを選択します。

NOTE

- [SHIFT]ボタンを押したまま[INC/YES]ボタンを押すと、パフォーマンスナンバーの値が10増加します。
- [SHIFT]ボタンを押したまま[DEC/NO]ボタンを押すと、パフォーマンスナンバーの値が10減少します。

3 鍵盤を弾いてみましょう。

楽器の種類でパフォーマンスを選ぶ (カテゴリサーチを使う)

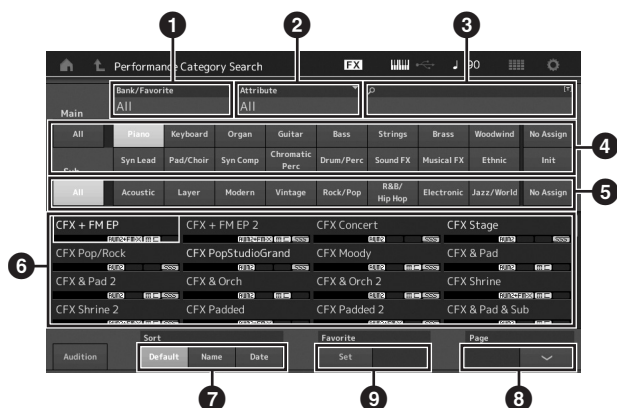
MODX+のパフォーマンスは、カテゴリごとに分類されています。カテゴリは、パフォーマンスをピアノ、オルガンといった楽器の種類や音のキャラクター別に分けたものです。カテゴリサーチは、特定のカテゴリを指定して、その中から使いたいパフォーマンスをすばやく探すことができる便利な機能です。

1 [CATEGORY]ボタンを押します。

カテゴリサーチ画面が表示されます。

NOTE

パフォーマンス名をタッチしたときに表示されるメニューから[Category Search]を選択して、カテゴリサーチ画面を開くこともできます。



1 バンク

2 アトリビュート

NOTE

アトリビュートとはパフォーマンスの属性のことで、音源方式やパフォーマンスのパート構成などにより分類されます。

3 キーワード検索

4 メインカテゴリ

5 サブカテゴリ

6 選択したカテゴリのパフォーマンスリスト

NOTE

現在選択中のパフォーマンスは白色、シングルパートのパフォーマンスは緑色、マルチパートのパフォーマンスは青色で表示されます。

7 ソート順の切り替え

8 パフォーマンスリストのページ切り替え

9 お気に入りリストへの追加と削除

2 メインカテゴリ (4)をタッチし、選択します。

NOTE

- [Bank]/[バンク(1)]をタッチし、表示された候補の一覧からバンクの種類を選択することで、パフォーマンスリストのフィルタリングができます。
- [Attribute]/[アトリビュート(2)]をタッチし、表示された候補の一覧からアトリビュートの種類を選択することで、パフォーマンスリストのフィルタリングができます。
- 画面の[Set]/[フェーバリット セット(9)]にタッチし、フェーバリットマークをつけることで、お気に入りの音色をすばやく見つけることができます。

3 サブカテゴリ (5)をタッチし、選択します。

選択したカテゴリのパフォーマンスリスト(6)が表示されます。

4 パフォーマンスをタッチし、選択します。

5 HOMEアイコン/EXITアイコンをタッチし、パフォーマンスを確定します。

カテゴリサーチ画面が閉じます。

NOTE

[ENTER]ボタン、[EXIT]ボタンもしくは[PERFORMANCE (HOME)]ボタンを使って確定させることもできます。

パフォーマンスのカテゴリ表記と意味

表記	意味
Piano	ピアノ
Keyboard	キーボード(エレクトリックピアノやクラビなど)
Organ	オルガン
Guitar	ギター
Bass	ベース
Strings	ストリングス(バイオリンなどの弦楽器および弦楽器アンサンブル)
Brass	ブラス(トランペットなどの金管楽器)
Woodwind	木管楽器
Syn Lead	シンセリード(メロディーやソロを演奏するのに適したシンセ音)
Pad/Choir	シンセパッド(拡がりや厚みのあるシンセ音)
Syn Comp	シンセコンプ(コンピング奏法を行うのに適したシンセ音)
Chromatic Perc	クロマティックパーカッション(マリンバやグロッケンなど音階を持った打楽器)
Drum/Perc	ドラムパーカッション
Sound FX	サウンドエフェクト(効果音)
Musical FX	ミュージカルエフェクト(音階を持った効果音)
Ethnic	エスニック(民族楽器)
No Assign	ノーアサイン(未分類)
Init	イニシャライズ(初期化)

6 鍵盤を弾いてみましょう。

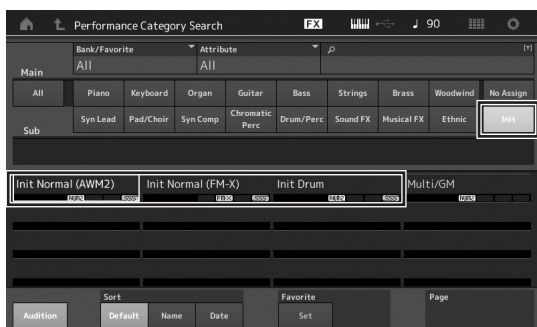
イニシャルサイズパフォーマンスを選ぶ

以下の手順でイニシャルサイズパフォーマンスを選ぶことができます。

1 カテゴリーサーチ画面でメインカテゴリーの [Init] をタッチします。

2 パフォーマンスリストにイニシャルサイズパフォーマンスのみが表示されます。

[Init Normal (AWM2)]はノーマルパート(AWM2)のイニシャルサイズパフォーマンス、[Init Normal (FM-X)]はノーマルパート(FM-X)のイニシャルサイズパフォーマンス、[Init Drum]はドラムパートのイニシャルサイズパフォーマンスです。



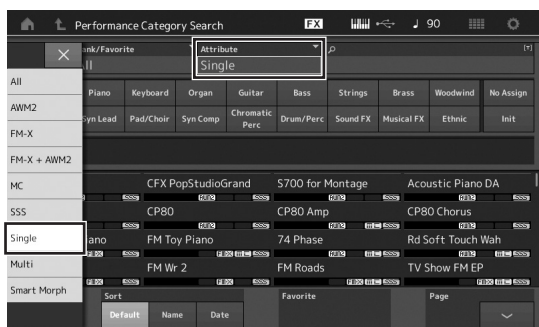
3 パフォーマンスを選びます。

シングルパートパフォーマンスをフィルタリングする

アトリビュートを使ってシングルパートパフォーマンスをフィルタリングしてみましょう。

1 カテゴリーサーチ画面で [Attribute] (アトリビュート) をタッチします。

2 画面左のメニューから [Single] をタッチします。



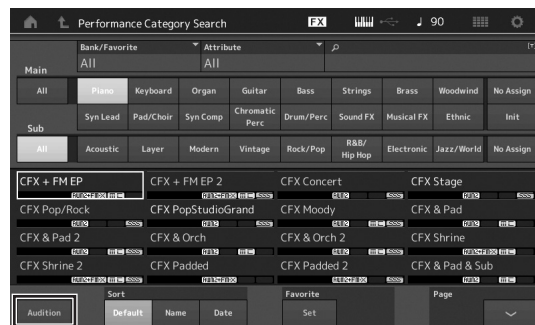
3 パフォーマンスリストにシングルパートパフォーマンスのみが表示されます。

オーディションフレーズを聞く

MODX+では、音色を選ぶ際、オーディションフレーズを再生させることで内蔵されているパフォーマンスの音色を簡単に確認できます。

1 カテゴリーサーチ画面で、画面上の [Audition] ボタンをタッチします。

現在選択されているパフォーマンスによるオーディションフレーズが再生されます。



オーディションボタン

オーディションフレーズの再生中にパフォーマンスを切り替えると、切り替わったパフォーマンスのオーディションフレーズが再生されます。

2 再度 [Audition] ボタンをタッチすると、オーディションフレーズの再生が停止します。

NOTE

- パネル上の[AUDITION]ボタンを押すことでオーディションフレーズの再生/停止ができます。
- パフォーマンス画面、ライブセット画面でも[AUDITION]ボタンを押すことで、オーディションフレーズの再生/停止ができます。

演奏する

MODX+では、最大8個のパートを重ねて迫力や厚みのある音を出すことができます。[PERFORMANCE (HOME)]ボタンを押して演奏してみましょう。

パフォーマンスプレイの表示画面

この時点で鍵盤を弾くと、現在画面上に表示されているパフォーマンスの音が出ます。

また、パフォーマンスプレイ画面に表示されている各項目は以下のとおりです。画面上のアイコンをそれぞれタッチすることで、操作できます。



- 1 パフォーマンスネーム
- 2 フラグ
- 3 ノブの機能
- 4 パートネーム
- 5 パートのモーションセンサー オン/オフを切り替え
- 6 パートのアルペジオ オン/オフを切り替え
- 7 パートのノートリミット
- 8 パートのキーボードコントロール オン/オフを切り替え
- 9 パートのミュート オン/オフを切り替え
- 10 パートのソロ オン/オフを切り替え
- 11 パート1~8のボリューム
- 12 メーター (オーディオ出力レベル)
- 13 各パートに関する情報の詳細表示 オン/オフを切り替え

パートのオン/オフを切り替える

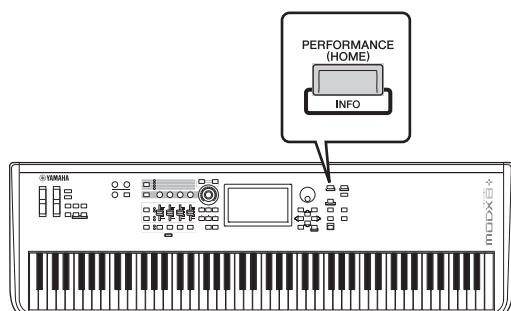
パフォーマンスを構成する8パートの発音を次の操作でオン/オフできます。

パートのオン/オフを切り替える(ミュート機能)

パートをオフにして発音しない状態にすることをミュートと呼びます。

1 [PERFORMANCE (HOME)]ボタンを押します。

[PERFORMANCE (HOME)]ボタンが点灯し、パートごとのオン/オフを切り替える状態になります。



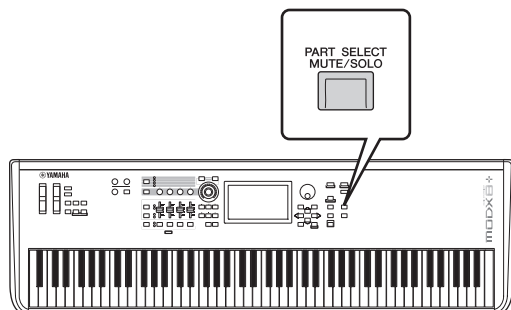
2 画面上的[MUTE]ボタンにタッチすると、そのパートがミュートされます。

同じボタンをもう一度タッチすると、ボタンが消灯してミュートが解除されます。複数のボタンをタッチすると、複数のパートをミュートできます。

[PART SELECT MUTE/SOLO]ボタンを使ってもパートをミュートすることができます。

1 パフォーマンス画面が表示された状態で[PART SELECT MUTE/SOLO]ボタンを押します。

画面にパートセレクトウィンドウが表示されます。



2 パートセレクトウィンドウ内の[MUTE]ボタンにタッチします。

3 ミュートしたいパートと同じ番号のボタンをタッチすると「M」と表示され、対応するパートがミュートされます。

複数のパートをミュートすることも可能です。

4 「MUTE」を選んだ状態で「M」と表示されているボタンをタッチすると、「M」の表示が消えるとともに、対応するパートのミュートが解除されます。

特定のパートだけをオンにする(ソロ機能)

特定のパートだけを発音状態にすることをソロと呼びます。

1 [PERFORMANCE (HOME)]ボタンを押します。

2 画面上的[Solo]ボタンをタッチすると、そのパートがソロになります。

[SOLO]ボタンが点灯し、ソロ機能が有効になります。同じボタンをもう一度タッチすると、ボタンが消灯してソロが解除されます。

[PART SELECT MUTE/SOLO]ボタンを使ってもパートのソロ機能を設定することができます。

1 パフォーマンス画面が表示された状態で[PART SELECT MUTE/SOLO]ボタンを押します。

画面にパートセレクトウィンドウが表示されます。

2 ソロに設定したいパートを選びます。

3 パートセレクトウィンドウ内の[Solo]ボタンにタッチします。

現在選択中のパートに「S」と表示され、ソロ状態になります。

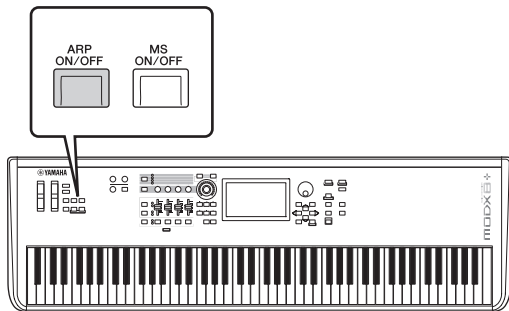
4 「S」と表示されているボタンをタッチすると「S」の表示が消えるとともにソロが解除されます。

アルペジオを使う

MODX+にはアルペジオ機能が搭載されていて、鍵盤を押さえるだけでリズムパターンやコードバックを演奏させることができます。

アルペジオをオン/オフする

アルペジオのオン/オフを切り替えるには、パネルの[ARP ON/OFF]ボタンを押します。



アルペジオの種類の変更や演奏中の切り替えかたについては、「シーン機能を使う」(34ページ)をご覧ください。

アルペジオは、ライブパフォーマンスでの表現の幅を広げるツールとしてだけでなく、楽曲制作でも目的の楽器や音楽ジャンルにぴったり合ったバックグフレーズを作成するツールとして機能します。あらかじめ、音色やフレーズに合わせてパートごとに、最大8つまで、好きなアルペジオタイプを設定しておくことができ、同時に8パートまでのアルペジオ設定を有効にできます。

また、アルペジオ再生させるノートリミット(キーの範囲)やベロシティリミット(鍵盤を押す強さの範囲)を設定したり、アルペジオ再生の仕方やプレイエフェクトを設定することもできます。

NOTE

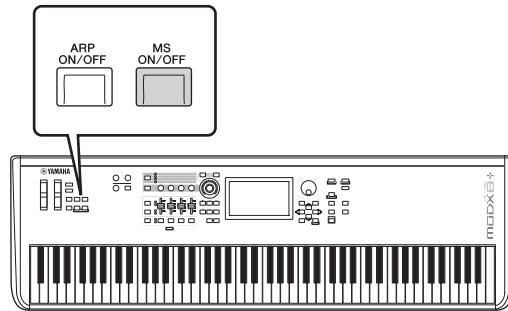
アルペジオ機能のしくみについては、リファレンスマニュアルをご参照ください。

モーションシーケンサーを使う

モーションシーケンサーとは、あらかじめ作成したシーケンスによってパラメーターを操作し、音色を変化させる機能です。

モーションシーケンサーをオン/オフする

モーションシーケンサーのオン/オフを切り替えるには、パネルの[MS ON/OFF]ボタンを押します。



モーションシーケンサーの種類の変更や演奏中の切り替えかたについては、「シーン機能を使う」(34ページ)をご覧ください。

モーションシーケンサーを使うと、パフォーマンスのテンポやアルペジオ、接続した機器のリズムに同期させるなど曲の展開に応じたリズムカルな音の変化をインタラクティブかつリアルタイムに作り出すことができます。

曲の展開やシーンに合わせてレーン(系統)ごとに8つ、好きなシーケンスタイプを設定しておくことができます。

また、1パートにつき最大4レーンのモーションシーケンサーが使用でき、パフォーマンス全体で同時に8レーンまでを使用できます。

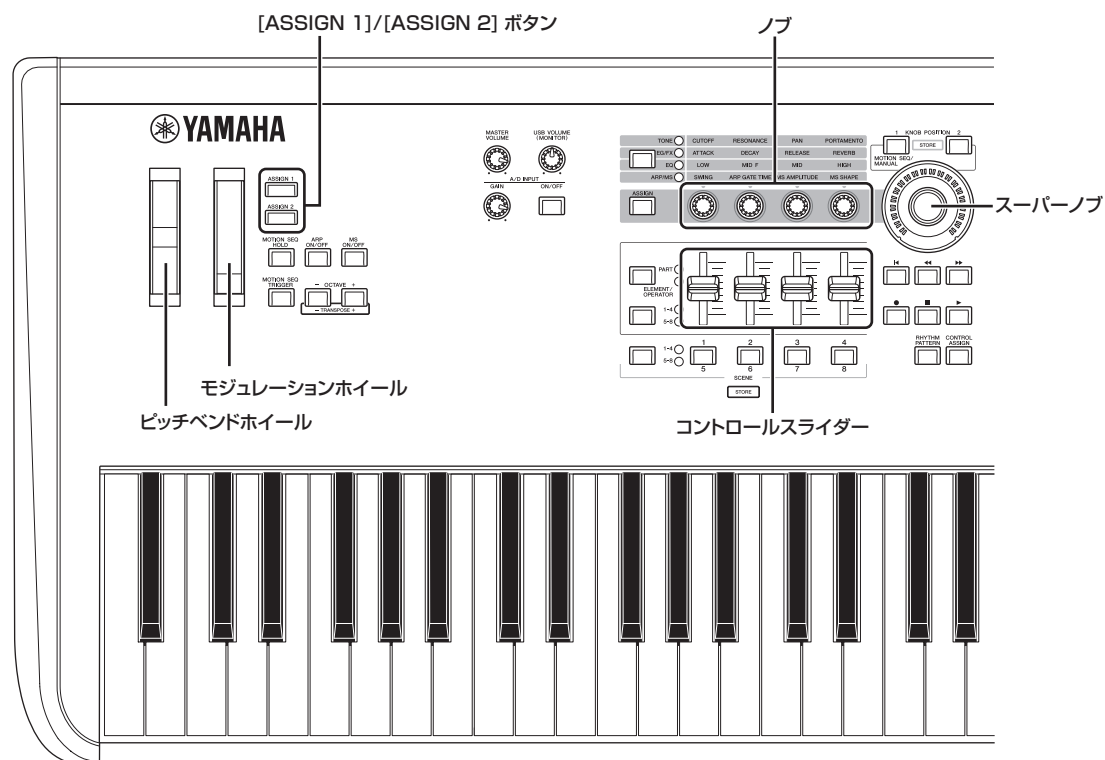
アルペジオと同様にシーケンスを再生させるベロシティリミット(鍵盤を押す強さの範囲)を設定したり、シーケンス再生の仕方やステップ数などを設定したりすることもできます。

NOTE

モーションシーケンサーのしくみについては、リファレンスマニュアルをご参照ください。

コントローラーを使って音色を変化させる

MODX+には、ピッチベンドホイールやモジュレーションホイール、アサインابلスイッチボタン1/2、スーパーノブ、ノブ、コントロールスライダーなど、多くのコントローラーが装備されていて、音にさまざまな変化をつけることができます。



ノブを使って音色を変化させる

ノブ1~4 (5~8)を操作すると、選択中のパフォーマンスまたはパートのパラメーターやエフェクトのかかり具合をコントロールすることで音色を変化させることができます。ノブの機能は、ノブファンクションボタン、[ASSIGN]ボタンで切り替えることができます。パフォーマンス全体をコントロールする方法と、特定のパートをコントロールする方法があります。

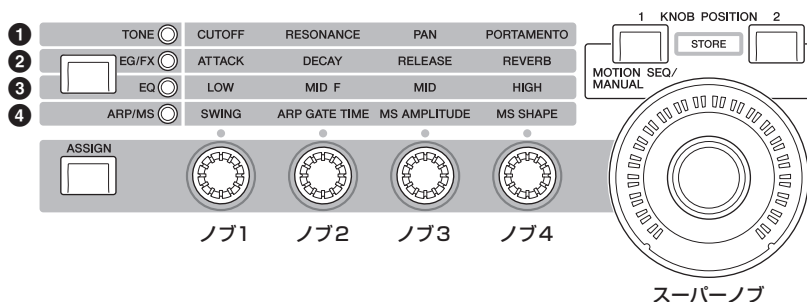
● パフォーマンス全体をコントロールする方法

画面内でパフォーマンスネームにカーソルを置くか、[PART SELECT MUTE/SOLO]ボタンを押して「Common」を選び、本体を「パフォーマンスコントロール状態」にしてから、ノブ1~4 (5~8)を操作します。

● 特定のパートをコントロールする方法

画面内でパートネームにカーソルを置くか、[PART SELECT MUTE/SOLO]ボタンを押して1から16のいずれかを選び、本体を「パートコントロール状態」にしてから、ノブ1~4 (5~8)を操作します。

1 ノブファンクション[TONE]/[EG/FX]/[EQ]/[ARP/MS]ボタンもしくは[ASSIGN]ボタンを押して、切り替えたい機能に該当するボタンを点灯させます。



- ① [TONE]: 音色設定に関する機能に切り替えます。
- ② [EG/FX]: エンベロープジェネレーターやエフェクト設定に関する機能に切り替えます。
- ③ [EQ]: イコライザー設定に関する機能に切り替えます。
- ④ [ARP/MS]: アルペジオやモーションシーケンサーの再生に関する機能に切り替えます。

画面に、ノブ1~4 (5~8)に割り当てられている機能とその機能の現在の値が表示されます。



2 鍵盤を弾きながら、本体のノブ1~4 (5~8)のいずれかを回します。

画面上の各パラメーターの値が変化し、操作した機能が音色に効果します。

スーパークnobを使って音色を変化させる

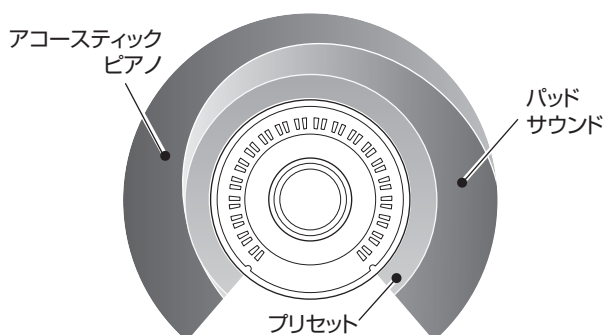
スーパークnobを使うと、8つのノブに割り当てられた全パート共通のAssign 1~8の機能の値を同時にコントロールできます。

スーパークnobとモーションシーケンサーを組み合わせることで、複雑な音の変化を実現できます。

スーパークnobはノブファンクションボタンや[ASSIGN]ボタンを押さなくても、常に有効な状態となっています。

スーパークnobの設定例

ここでは、プリセットパフォーマンスから、アコースティックピアノとパッドサウンドを選択してレイヤー音色を作成し、もともと設定されているそれぞれのスーパークnobの効果は保持しつつ、モーフィング効果を付加する例を説明します。



レイヤー音色設定

1 パート1の音色を選びます。

- 1-1. [CATEGORY]ボタンを押して、「CFX PopStudioGrand」を選びます。

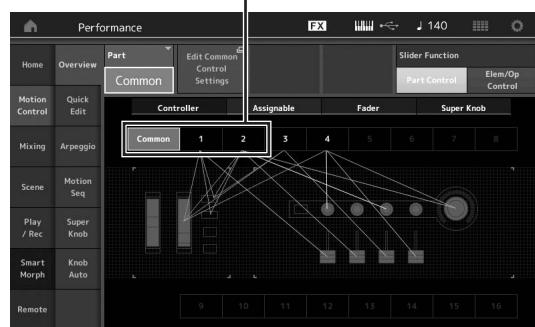
2 パート2の音色を選びます。

- 2-1. パフォーマンスプレイ画面でパート2を選択し、[SHIFT]ボタンを押したまま[CATEGORY]ボタンを押して、「Ethereal」を選びます。

3 設定を確認します。

- 3-1. [Motion Control]タブ → [Overview]タブをタッチします。モーションコントロールのオーバービュー画面が開きます。
- 3-2. パートの[Common]、[1]、[2]をタッチして、Assignableのノブ6と7には緑の線が繋がっていない(未使用である)ことを確認します。必要に応じて[ASSIGN]ボタンを押し、表示を切り替えると、ノブ5~8の状態が確認できます。

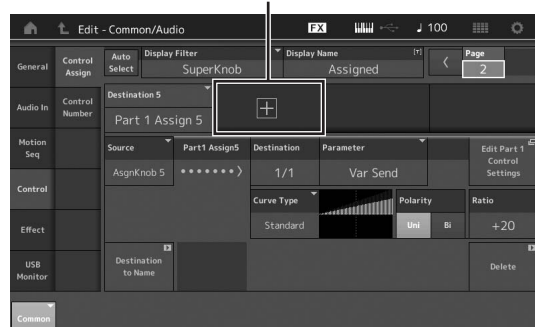
3-2



4 パート1の音色のパラメーターを設定します。

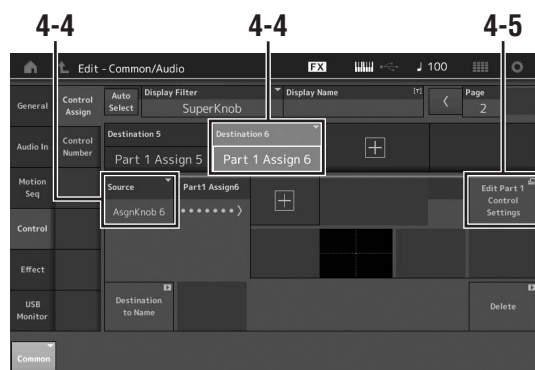
- 4-1. [Super Knob]タブをタッチします。モーションコントロールのスーパークnob画面が開きます。
- 4-2. [Edit Super Knob]ボタンをタッチします。COMMON/オーディオエディットのコントロールアサイン画面が開きます。
- 4-3. [+]ボタンをタッチします。[+]ボタンが表示されていない場合は、[>]ボタンをタッチしてPage 2に切り替えてから[+]ボタンをタッチします。

4-3



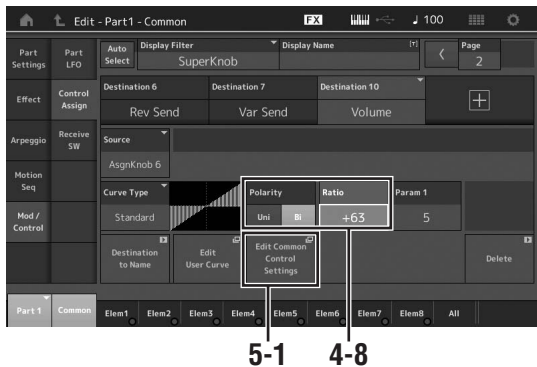
Destination 6が追加されます。

- 4-4. [Destination 6]タブを選んだ状態で、SourceをAsgnKnob 6、[Destination 6]をPart 1 Assign 6に設定します。



- 4-5. [Edit Part 1 Control Settings]ボタンをタッチします。エレメント共通エディットのコントロールアサイン画面が開きます。

- 4-6. [+]ボタンをタッチします。
[+]ボタンが表示されていない場合は、[>]ボタンをタッチして Page 2 に切り替えてから[+]ボタンをタッチします。
- 4-7. [Destination 10]タブをタッチして、Part ParamからVolumeを選びます。
- 4-8. 必要に応じてその他のパラメーターを調節します。
ここでは、カーブポラリティー (Polarity)を「Bi」、カーブレシオ(Ratio)を「+63」などにします。



5 パート2の音色のパラメーターを設定します。

- 5-1. [Edit Common Control Settings]ボタンをタッチします。
コモン/オーディオエディットのコントロールアサイン画面が開きます。
- 5-2. [+]ボタンをタッチします。
Destination 7が追加されます。
- 5-3. [Destination 7]タブを選んだ状態で、SourceをAsgnKnob 7、[Destination 7]をPart 2 Assign 7に設定します。
- 5-4. [Edit Part 2 Control Settings]ボタンをタッチします。
パート1と同じように設定します。
ここでは、カーブポラリティー (Polarity)を「Bi」、カーブレシオ(Ratio)を「-64」などにします。

以上で設定できました。

● 微調整する場合

[Edit Common Control Settings]ボタンをタッチしてDestination 6と7を切り替え、Curve TypeやRatioなどを調整する。

もしくは

KNOB POSITION [1]を押してから、左いっばいにスーパーノブを回し切ったときの音をノブ6と7を回して設定し、[SHIFT]+[1]でストアする。次にKNOB POSITION [2]を押してから、同様に右いっばいに回した状態を設定し、[SHIFT]+[2]でストアする。

スーパーノブの効果を設定する

ここではスーパーノブの操作によって変化するパラメーターの値を確認する手順を説明します。

- 1 **[PERFORMANCE (HOME)]ボタンを押します。**
ボタンが点灯し、全パート共通の設定ができる状態になります。
- 2 **[View]ボタンがオフの状態**で**[ASSIGN]ボタンを押して、Common Assign1-4またはCommon Assign5-8を選びます。**
Common Assign1-4を選ぶと[ASSIGN]ボタンが点灯、Common Assign5-8を選ぶと[ASSIGN]ボタンが点滅します。
画面にノブ1~4 (5~8)に割り当てられている機能が表示され、それらの現在の値が表示されます。
- 3 **鍵盤を弾きながら、スーパーノブを回します。**
画面上の各パラメーターの値が連動して変化し、すべての機能が音色に反映されます。

NOTE

スーパーノブの設定方法はリファレンスマニュアルをご参照ください。

スーパーノブに割り当てられているパラメーターを確認する

スーパーノブにどのパラメーターが割り当てられているかはスーパーノブ画面で確認します。

- 1 **パフォーマンスプレイ画面で画面左の[Motion Control]タブをタッチします。**
- 2 **画面左内側の[Super Knob]タブをタッチします。**
スーパーノブ画面が表示されます。
- 3 **スーパーノブ画面の[Edit Super Knob]をタッチします。**
コントロールアサイン画面が表示されます。

ここでスーパーノブの詳細設定を1画面で確認できます。
設定の変更が必要な場合は、ここで設定を変更します。

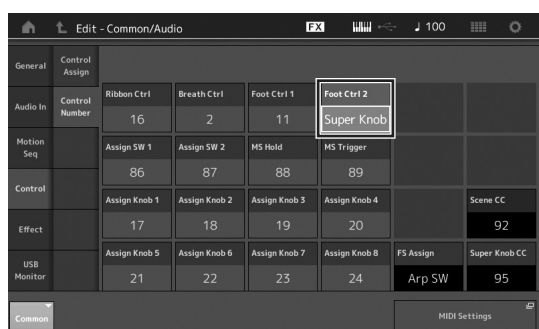
NOTE

コントロールアサイン画面は、パフォーマンスエディット画面を開いたあと、画面左の[Control]タブ → [Control Assign]タブをタッチしても開けます。

スーパーノブを足元でコントロールする

以下の手順でフットコントローラー (FC7)を使ってスーパーノブをコントロールできます。

- 1 フットコントローラー (FC7)をFOOT CONTROLLER [1]端子もしくはFOOT CONTROLLER [2]端子に接続します。
- 2 パフォーマンスプレイ画面でカーソルをパフォーマンスネームに合わせ、[EDIT]ボタンを押します。
- 3 画面左の[Control]タブ → [Control Number]タブをタッチします。
- 4 フットコントローラー (FC7)を接続した端子に応じて「Foot Ctrl1」もしくは「Foot Ctrl2」を「Super Knob」に設定します。

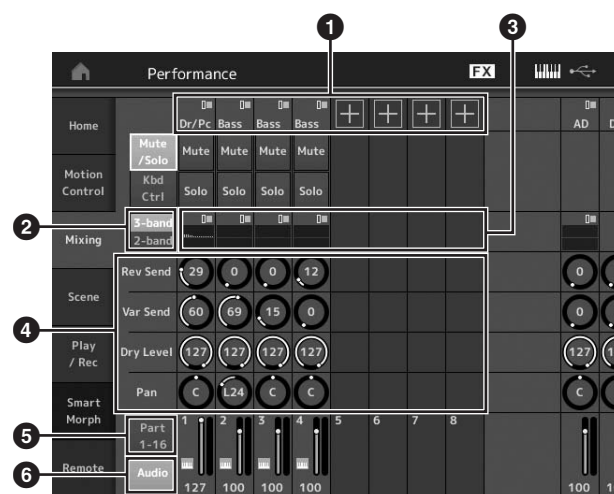


ミキシングをする

ミキシングとは、パフォーマンスを構成する16パートにおいて、各パートごとにさまざまな設定ができる機能です。各々のパートのパン、ボリューム、その他の設定の確認や、各ミキシングパラメーターの設定を調節します。

ミキシングをする基本手順

- 1 パフォーマンスプレイ画面で画面左の[Mixing]タブをタッチします。
ミキシング画面が表示されます。



- 1 各パートのメインカテゴリ
- 2 3-band EQ/2-band EQの表示切り替え
- 3 各パートのEQ設定
- 4 各パートのパラメーター値
- 5 1～16パート表示に切り替え
- 6 オーディオパート表示(9～16パート非表示)に切り替え

- 2 [PART SELECT MUTE/SOLO]ボタン → [1]～[16]ボタンをタッチして、設定の確認や調整を行いたいパートを選びます。

NOTE

画面上の[Audio]ボタン(6)を押すことにより、オーディオパートが表示されます。このパートではA/D INPUT [L/MONO]、[R]端子から入力される音声(ADパート)や、[USB TO HOST]端子から入力される音声(Digitalパート)*に関するパラメーターを設定できます。

*デバイスポートのうち、「Digital L/R」に設定された音声

- 3 各パートのパラメーターにカーソルを移動し、データダイヤルを回して値を変更してみましょう。

NOTE

- ・パートの設定について、さらに細かく変更する場合には、ミキシング画面から[EDIT]ボタンを押してエディット画面に入ります。
- ・ミキシングパラメーターの詳細やミキシングエディットについては、リファレンスマニュアルをご参照ください。

シーン機能を使う

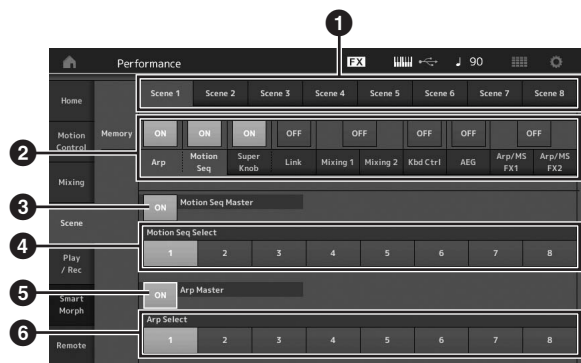
シーンとは、8つの[SCENE]ボタンそれぞれにアルペジオタイプやモーションシーケンスタイプ、パートのパラメーター値などの設定を記録する機能です。

ひとつのパフォーマンスの中で、曲の展開に応じてアルペジオタイプやモーションシーケンスタイプなどを同時に切り替えたり、異なる表情の音色に切り替えたい場合に便利です。

シーンを設定する手順

1 パフォーマンスプレイ画面で画面左の[Scene]タブをタッチします。

シーン画面が表示されます。



- ① シーン1～8切り替え
- ② 各機能シーン設定のオン/オフ切り替え
- ③ 全パートのモーションシーケンサーのオン/オフ切り替え
- ④ 選択中のシーンに記録されているモーションシーケンスタイプ
- ⑤ 全パートのアルペジオのオン/オフ切り替え
- ⑥ 選択中のシーンに記録されているアルペジオタイプ

NOTE

③～⑥は、②のタブで「Arp」「Motion Seq」を選択しているときのみ表示されます。この部分は、選択しているタブ(機能)に応じて表示が変わります。

2 シーン1～8の設定をします。

②の[Memory]をオンにした機能やモーションシーケンスタイプ、アルペジオタイプの情報は、選択中の[SCENE]ボタンに自動で記録されます。SCENE [1]～[8]ボタンを押すことにより、シーン1～8が切り替わり、各ボタンに記録された情報が復元されます。

NOTE

シーン機能は、シーン画面以外でも設定できます。シーン画面で設定できるパラメーターがアサインされているノブやコントロールスライダーなどでパラメーターを変更した後、[SHIFT]ボタンを押したままSCENE [1]～[8]ボタンを押すことで、シーン1～8をそれぞれのボタンに記録できます。

3 必要に応じてパフォーマンスを保存します(37ページ)。

注記

保存(ストア)をせずに別のパフォーマンスを選んだり電源を切ったりすると、シーンの設定内容は消えてしまいます。

オリジナルのライブセットを作る

ライブのときに、曲に合わせてパフォーマンスを瞬時に切り替えたいときは、ライブセットを使うと便利です。MODX+では、お気に入りのパフォーマンスを並べることで簡単にオリジナルのライブセットを作ることができます。

パフォーマンスをライブセットに登録する

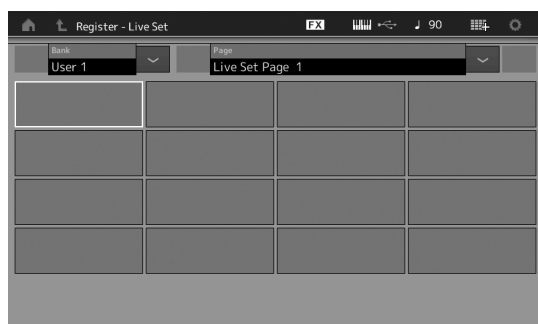
パフォーマンスのライブセットへの登録は以下の手順で操作します。

注記

- 編集中的パフォーマンスをライブセットに登録する場合は、先にパフォーマンスを保存(ストア)してください(37ページ)。
- 保存(ストア)をせずに別のパフォーマンスを選んだり電源を切ったりすると、編集中的の内容は消えてしまいます。

- 1 登録したいパフォーマンスを選びます。
- 2 [SHIFT]ボタンを押したまま[LIVE SET]ボタンを押します。

ライブセット画面が表示されます。



- 3 任意の slot)をタッチすると、そのslot)に選択中のパフォーマンスが登録されます。

ライブセット画面

空きslot)に登録されたパフォーマンス 空きslot)



NOTE

ライブセットには、パフォーマンスに加えて、ソングやパターン、オーディオファイルに登録できます。登録されたソングなどは、ライブセット画面上で再生できます。詳しくは、リファレンスマニュアルをご参照ください。

ライブセットに登録したパフォーマンスを並べ替える

ライブセットに登録したパフォーマンスの順番を並べ替えたいときは、ライブセットエディット画面から行います。

- 1 ライブセット画面で、[EDIT]ボタンを押します。
ライブセットエディット画面が表示されます。
(プリセットバンク/ライブライブラリーバンクのライブセットを開いているときは表示されません。)
- 2 移動元のslot)を選択し、画面上の[Swap]ボタンをタッチします。
[Swap]ボタンが点灯し、有効になります。



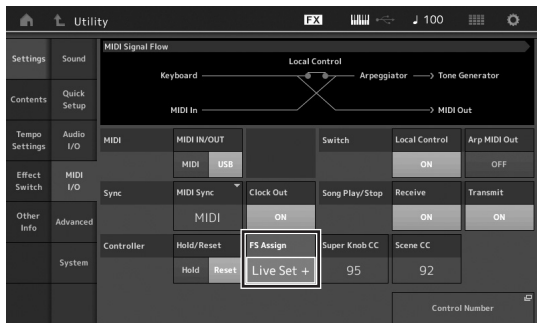
- 3 移動先のslot)を選択します。
移動元と移動先のslot)の中身が入れ替わります。

ライブセットに登録したパフォーマンスを足元で切り替える

以下の設定により、フットスイッチ(FC4、FC5)を使ってパフォーマンスを切り替えることができます。

- 1 フットスイッチ(FC4、FC5)をFOOT SWITCH [ASSIGNABLE](フットスイッチアサインナブル)端子に接続します。
- 2 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開いたあと、画面左の[Settings]タブ → [MIDI I/O]タブをタッチします。
- 3 「FS Assign」を「Live Set +」または「Live Set -」に設定します。

フットスイッチを踏むと「Live Set +」では順方向にパフォーマンスが切り替わり、「Live Set -」では逆方向にパフォーマンスが切り替わるようになります。



編集(エディット)する

MODX+では、編集画面からパートやパフォーマンス、エフェクト、アルペジオなど、さまざまな設定を編集(エディット)することができます。ここではパートを組み合わせるパフォーマンスを作る手順についても説明します。

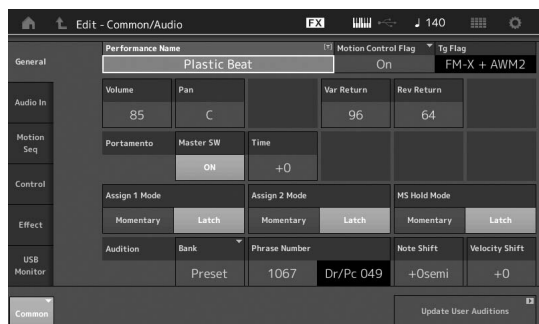
パフォーマンスをエディットする

パフォーマンス全体に関するさまざまな設定項目(パラメーター)を編集する操作をパフォーマンスエディットといい、パフォーマンスエディット画面で行います。

パフォーマンスをエディットする基本手順

- 1 パフォーマンスプレイ画面でカーソルをパフォーマンス名に合わせ、[EDIT]ボタンを押します。
- 2 画面左の[General]タブをタッチして、パフォーマンスエディットを行います。

パフォーマンスエディット画面



パフォーマンスの保存(ストア)

エディット作業が終わったら、作成したパフォーマンスを本体メモリーに保存します。このように、本体のメモリーに保存することをストアといいます。

[STORE]ボタンを押して、パフォーマンスを保存しましょう。

注記

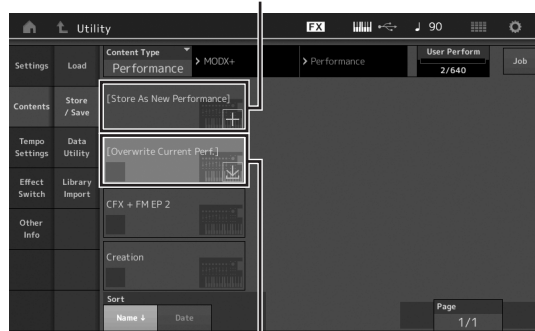
- 保存(ストア)をせずに別のパフォーマンスを選んだり電源を切ったりすると、エディットの内容は消えてしまいます。
- ユーザーバンクにあるストア先のパフォーマンスは、上書きされると消えてしまいます。エディットしたパフォーマンスを保存する場合は、大事なユーザーパフォーマンスに上書き保存しないようご注意ください。大切なデータは、あらかじめUSBフラッシュメモリーに保存(セーブ)しておくことを、おすすめします。セーブの操作については60ページをご参照ください。

NOTE

パフォーマンスエディット中に[PART SELECT MUTE/SOLO](パートセレクト ミュート/ソロ)ボタンによりパートを選択すると、パートエディットに切り替わります。

- 1 [STORE]ボタンを押してストア画面を表示します。

パフォーマンスを新規保存



すでに保存されているパフォーマンス

- 2 パフォーマンスの保存先を設定します。
新規にパフォーマンスを保存する場合は[Store As New Performance]の「+」をタッチします。
NOTE
すでに保存されているパフォーマンスを上書きする場合は、[Overwrite Current Perf.]をタッチするか、対象のパフォーマンスをタッチします。
- 3 文字入力画面が表示され、保存するパフォーマンスの名前を設定します。
名前の設定方法について詳しくは、「基本操作と画面表示」の「文字入力」(21ページ)をご参照ください。
- 4 文字入力画面の「Done」を選択すると、ストアが実行されます。

NOTE

すでに保存されているパフォーマンスを上書きする場合は、手順2のあとに実行確認の画面が表示されるので、「YES」を選択するとストアが実行されます。

パートをエディットする

パートを構成するさまざまな設定項目(パラメーター)の値を変更してパートを作り変える操作をパートエディットといい、エレメントコモン/キーコモン/オペレーターコモンエディット画面とエレメント/キー/オペレーターエディット画面で行います。パートエディットは、パートの種類によってパラメーターが異なります。

ノーマルパート(AWM2)エディット

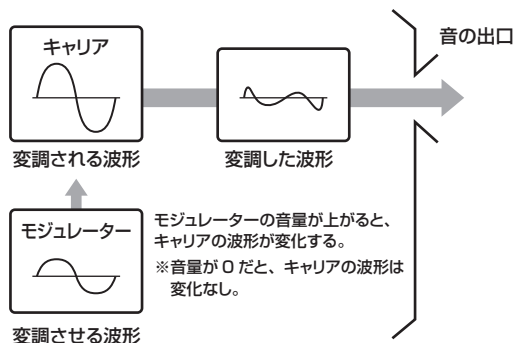
鍵盤の音階どおりに発音する「ノーマルパート(AWM2)」は、最大8個のエレメントで構成されています。エレメントとは、パートを構成する最小単位です。ノーマルパート(AWM2)のエディットは、8つのエレメントに共通のパラメーターを設定する「エレメントコモンエディット」と、エレメントごとのパラメーターを設定する「エレメントエディット」の2種類に分かれます。

エレメントは、楽器音などの波形(ウェーブ)にさまざまなパラメーター(エフェクト、EGなど)を付加して作られています。MODX+のノーマルパート(AWM2)は、エレメントを最大8個組み合わせて作られています。

ノーマルパート(FM-X)エディット

FM-X音源による音色が割り当てられた「ノーマルパート(FM-X)」は、最大8個のオペレーターで構成されています。ノーマルパート(FM-X)のエディットは、8つのオペレーターに共通のパラメーターを設定する「オペレーターコモンエディット」と、オペレーターごとのパラメーターを設定する「オペレーターエディット」の2種類に分かれます。

FM-X音源の「FM」とは「Frequency Modulation」(フリクエンシーモジュレーション)のことで、周波数を変調するという意味です。音のもととなる波形の周波数を別の波形を使って変調させることで、新しい波形を作り出す方式です。波形を発生させる装置は「オペレーター」と呼び、MODX+ではオペレーターを8つ使います。変調される側のオペレーターを「キャリア」、変調する側のオペレーターを「モジュレーター」と呼び、8つのオペレーターはキャリアとモジュレーターのどちらにも使うことができます。オペレーターの組み合わせを変えたり、さらにレベルやエンベロープなどの他の要素を調整することで、音に複雑な変化を与えることができます。



ドラムパートエディット

各鍵盤にいろいろな打楽器が割り当てられた「ドラムパート」のエディットは、全キーに共通のパラメーターを設定する「キーコモンエディット」と、キーごとのパラメーターを設定する「キーエディット」の2種類に分かれます。

キーには、ドラムやパーカッションの楽器音が割り当てられています。割り当てる楽器音の種類を変えたり、ピッチやEQを調節することで、さまざまなドラムパートを作成できます。
MODX+のドラムパートは、キーを最大73個組み合わせることによって作られています。

パートをエディットする基本手順

1 パフォーマンスプレイ画面でカーソルをエディットしたいパートに合わせ、[EDIT]ボタンを押します。

[PART SELECT MUTE/SOLO]ボタンからも選べます。

2 画面左の[Part Settings]タブ → [General]タブをタッチして、パートエディットを行います。

● ノーマルパート(AWM2)を選択している場合

エレメントコモンエディットを行うには、エレメント [Common]タブにタッチします。
エレメントエディットを行うには、[Elem1]~[Elem8]タブのうち、エディットしたいエレメントのナンバータブを押します。

● ドラムパートを選択している場合

キーコモンエディットを行うには、ドラムキー [Common]タブにタッチします。
キーエディットを行うには、[BD]~[Crash]タブのうち、エディットしたいドラムパーツ(BD、SDなど)のナンバータブを押します。
[Drum Key]タブにタッチしてから[BD]~[Crash]タブを切り替えることで、C1~C#2の鍵盤にアサインされているキーを選択できます。それ以外の鍵盤にアサインされているキーを選択するには画面の「Keyboard Select」をオンにし、エディットしたいキーがアサインされている鍵盤を押します。

● ノーマルパート(FM-X)を選択している場合

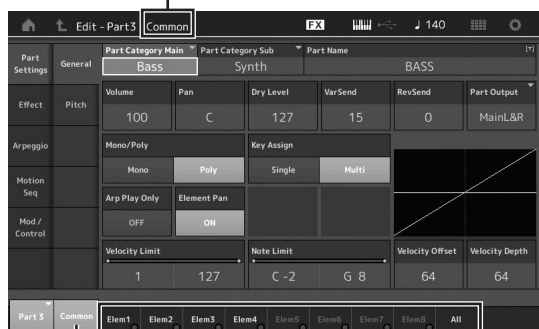
オペレーターコモンエディットを行うには、オペレーター [Common]タブにタッチします。
オペレーターエディットを行うには、[OP1]~[OP8]タブのうち、エディットしたいオペレーターのナンバータブを押します。

NOTE

パートパラメーターについて詳しくは、PDFファイル「リファレンスマニュアル」のパート説明箇所をご参照ください。

● エlement共通エディット画面

Element共通エディット画面であることを示しています。



Element共通エディットとElementエディットを切り替え

画面構成はキー/オペレーター共通エディット画面も同様です。

● Elementエディット画面

Elementエディット画面であることを示しています。



画面構成はキー/オペレーターエディット画面も同様です。

3 必要に応じてパフォーマンスを保存します。

パートのエフェクトをエディットする

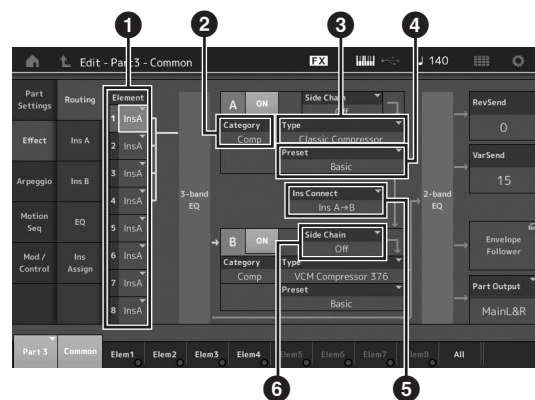
MODX+には数多くのエフェクトが内蔵されています。このエフェクトを活用することで、パートにさまざまな効果をかけられます。プリセットパートのエフェクトを変更するだけでも、まったく違ったパートに仕上げることができます。ここではパートにかけるエフェクトタイプや設定を変更し、ユーザーパフォーマンスとして保存する手順を説明します。

1 パフォーマンスプレイ画面でカーソルをエディットしたいパートに合わせ、[EDIT]ボタンを押します。

2 Element [Common] タブをタッチします。

3 画面左の [Effect] タブ → [Routing] タブをタッチします。

Element共通エディットのエフェクト画面が表示されます。



- 1 各Element/キーの出力先
- 2 インサージョンエフェクトAのカテゴリー
- 3 インサージョンエフェクトAのタイプ
- 4 インサージョンエフェクトAのプリセット
- 5 インサージョンエフェクトAとBの接続方法
- 6 サイドチェーン/モジュレーターパートの選択

4 各Element/キーの出力先(1)を設定します。

5 インサージョンエフェクトAのエフェクトカテゴリー(2)とエフェクトタイプ(3)、エフェクトプリセット(4)を選びます。

6 インサージョンエフェクトAとBの接続方法(5)を設定します。

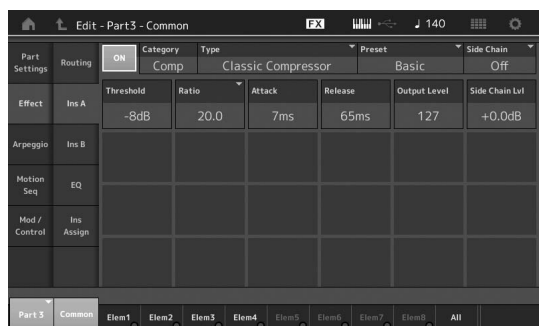
7 インサージョンエフェクトBのサイドチェーン/モジュレーター(6)を設定します。

NOTE

サイドチェーン/モジュレーターとは、通常の入力とは別系統の入力のことです。特定のエフェクトタイプでこれらを指定することができます。MODX+では選択中のパートと異なるパートやオーディオの入力信号により、エフェクトのかかり具合をコントロールできます。エフェクトタイプによりサイドチェーン、モジュレーターと呼ばれる方が異なります。

8 画面左内側の[Ins A]タブをタッチします。

手順4で選択されたエフェクトパラメーターを細かく設定できる画面が表示されます。

**9 必要に応じて各パラメーターを設定します。**

エフェクトによってさまざまなパラメーターが用意されていますので、イメージに近い音になるまで微調整をしましょう。

コンペア機能

エディットした音色をエディット前の音色に一時的に切り替えることができる機能で、エディットによってどう音が変わったか聞き比べることができます。

エディット画面を表示した状態で、[EDIT]ボタンを押します。[EDIT]ボタンが点滅し、エディット前の状態に一時的に戻ります。[EDIT]ボタンをもう一度押すと、エディット後の状態に戻ります。

10 同様にインサクションエフェクトBもエディットします。**11 必要に応じてパフォーマンスを保存します。****パフォーマンスのパート構成例**

パフォーマンスを選んで演奏してみると、アルペジオが鳴り出すものや、鍵盤の位置によって別の音が鳴るもの、いくつもの音が重なって鳴るものなど、さまざまな種類のものがあります。中には、どう演奏していいのかわからないようなものもあるかもしれません。そういう場合には、そのパフォーマンスのパートの組み合わせ方を理解すると活用方法が見えてきます。ここでは、基本となる4種類のパートの組み合わせ方をご紹介します。

パフォーマンスの構成1**レイヤー**

1つの鍵盤を押さえることで、2つ以上のパートが同時に鳴るようにする方法です。

たとえば、立ち上がりの早さの違う数種類のストリングスをレイヤーさせて音に厚みを出したり、ピアノ系のパートとパッド系のパッドをレイヤーさせたりなど、多彩なパフォーマンスを作成できます。

**パフォーマンスの構成2****スプリット**

鍵盤の位置(音域)によって、別のパートが鳴るようにする方法です。

たとえば、低音域にストリングス、高音域にフルートを割り当てておくと、左手でストリングスを演奏しながら右手でフルートを弾くなど、1人で同時に複数の音色を演奏することが可能になります。



パフォーマンスの構成3 ベロシティーズプリット

複数のパートを重ね、鍵盤を弾く強さ(ベロシティー)で別のパートが鳴るようにする方法です。

たとえば、弱いベロシティーではゆっくりと立ち上がる柔らかいストリングが、中ぐらいのベロシティーでは立ち上がり早いストリングが、強いベロシティーではオーケストラヒット系の迫力あるストリングス音が、それぞれ鳴るように設定しておく、鍵盤を弾く強さによって多彩な演奏が実現できます。

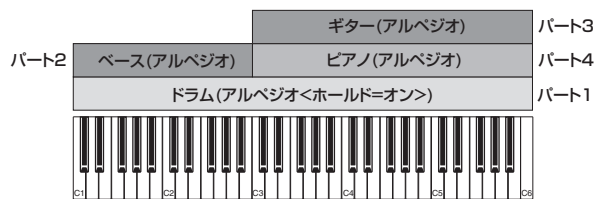


パフォーマンスの構成4 アルペジオ

アルペジオを利用して、1人でバンドアンサンブルを実現する方法です。

MODX+では、パフォーマンスを構成する8つのパートに対して、別々のアルペジオを同時に割り当てられます。そこで、別のアルペジオを割り当てた4種類のパートをレイヤーすることで、4種類の楽器が異なったパートを演奏しているアンサンブル演奏が実現できます。

たとえば、ドラム、ベース、ギター、ピアノを下記のように配置し、それぞれの楽器に合ったアルペジオを設定しておきます。すると、低音域の鍵盤を押さえるとベースのリズム、高音域の鍵盤を押さえるとピアノとギターのコードバックキック、鍵盤すべての音域でドラムの音が演奏されます。すると、曲のコード進行に合った鍵盤を押さえるだけで、その曲の伴奏パートが完成します。さらに、画面上のMotion Control → Arpeggioでアルペジオの種類を切り替えると、イントロからAメロ、サビ、エンディングまで、バリエーションに富んだ演奏も可能です。



パフォーマンスについて、基本的な4種類の構成をご紹介しましたが、この4つを組み合わせることでさらに多彩なパフォーマンスを作成できます。いろいろなパフォーマンスを試して、どのような組み合わせ方が用いられているか確認してみましょう。それぞれのパフォーマンスについて、パフォーマンスの構成を探り出し、演奏方法や活用方法を見つけ出してみてください。

パートを組み合わせてパフォーマンスを作る

例として2つのパートを組み合わせてパフォーマンスを作る方法を説明します。

パフォーマンスを選ぶ

パート1にピアノ音色を割り当てましょう。

1 パフォーマンスプレイ画面でカーソルをパート1のパートネームに合わせ、[SHIFT]ボタンを押したまま[CATEGORY]ボタンを押します。パートカテゴリーサーチ画面が表示されます。

2 パフォーマンスリストから[Full Concert Grand]を選びます。

3 [EXIT]ボタンを押します。

パートを重ねる(レイヤー)

パート2に好きな音色を割り当てて、パート1とパート2の2つの音色を重ねて発音させてみましょう。

1 パフォーマンスプレイ画面でパート2のパートネームにカーソルを移動し、[SHIFT]ボタンを押したまま[CATEGORY]ボタンを押して好きな音色を選びます。

2 鍵盤を弾いてみましょう。パート1のピアノ音色と、パート2の自分で割り当てた音色が重なって発音されます。

3 [EXIT]ボタンを押します。

次は、音色ごとに鍵盤の領域を分けてみましょう。

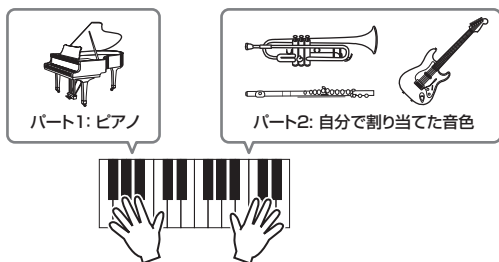
鍵盤の領域を分ける(スプリット)

パート1の音色を低音域の鍵盤に割り当て、パート2の音色を高音域の鍵盤に割り当て、異なる音色を同時に演奏してみましょう。



- ① ノートリミット ロー (パートの発音鍵域の最低音)
- ② ノートリミット ハイ (パートの発音鍵域の最高音)

- 1 パート1のノートリミット ハイ(②)をタッチ、もしくはカーソルを移動し[ENTER]ボタンを押します。
- 2 画面左の[Keyboard]メニューをタッチし、オンに切り替えます。
- 3 鍵盤を押し、パート1の最高音を設定します。
パート1のRange欄のキーナンバーと目盛りが発音域に合わせて変わります。
- 4 パート2のノートリミット ロー (①)をタッチ、もしくはカーソルを移動し[ENTER]ボタンを押します。
- 5 鍵盤を押し、パート2の最低音を設定します。
パート2のRange欄のキーナンバーと目盛りが発音域に合わせて変わります。
- 6 画面左の[Keyboard]メニューをタッチし、オフに切り替えます。
- 7 鍵盤を弾いてみましょう。
左手でパート1のピアノ音色、右手でパート2の自分で割り当てた音色を弾いてみましょう。

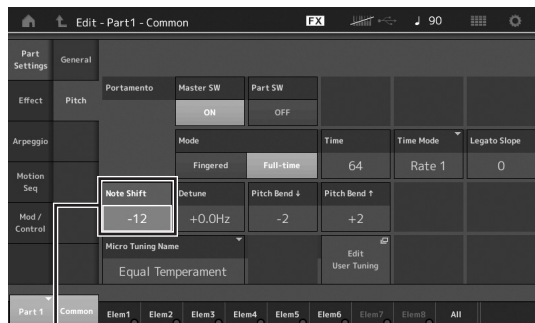


- 8 スライダーファンクション[PART]/[ELEMENT/OPERATOR]ボタンで「PART」を選びます。
- 9 コントロールスライダー 1と2を使って、パート1とパート2の音量を調整します。

スプリット時に片方のパートのピッチを1オクターブ下げる

パート2のピッチを1オクターブ下げて演奏してみましょう。

- 1 カーソルをパート2に合わせ、[EDIT]ボタンを押して、パートエディットに入ります。
- 2 画面左の[Part Settings]タブ → [Pitch]タブをタッチします。



ノートシフト

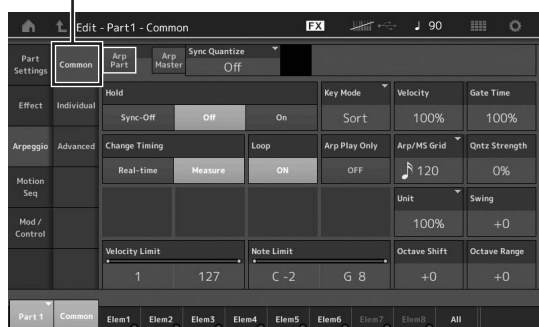
- 3 「Note Shift (ノートシフト)」を選択し、ピッチを調整します。
半音単位でピッチを調整できます。1オクターブ下げるためには「-12」と設定します。
- 4 鍵盤を弾いてみましょう。

アルペジオの設定を変更する

パフォーマンスのアルペジオの設定を変更してみましょう。演奏したい曲のジャンルに合ったリズムやバックギングパターンを選びましょう。

- 1 カーソルをパート1に合わせ、[EDIT]ボタンを押して、エレメントコモンエディット画面を開きます。
- 2 画面左の[Arpeggio]タブ → [Common]タブをタッチします。
すべてのアルペジオタイプに共通なアルペジオ設定を表示する画面が表示されます。
この中に「Hold」(ホールド)というパラメーターがあります。これは、「On」に設定すると鍵盤から指を離してもアルペジオが鳴り続ける設定です。ドラムやパーカッションによるリズム演奏など、鳴らし続けたいパートは「On」に設定しておく便利です。

[Common]タブ

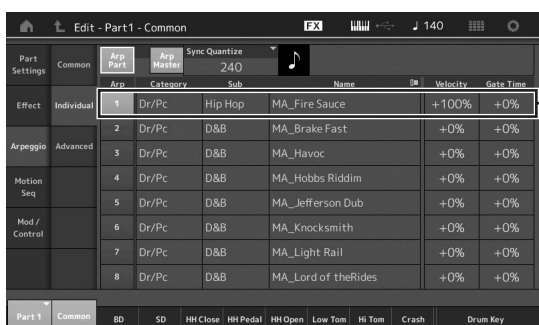


3 [Individual]タブをタッチし、アルペジオタイプごとの設定画面を開きます。

4 アルペジオタイプをタッチし、画面左の[Category Search]メニューを選択します。(「CATEGORY」ボタンを押すことでも同様の操作ができます。)

カテゴリでは楽器の種類を、サブカテゴリでは音楽ジャンルの種類を選ぶ、という手順でアルペジオを選びます。タイプには、AメロやBメロ、サビ、ブリッジなど、曲の各部を構成するバリエーションが含まれているので、鍵盤を押さえて、アルペジオを再生しながら選びましょう。

アルペジオタイプの設定



1つのアルペジオタイプの設定が終わったら、他のアルペジオタイプも設定しましょう。

5 必要に応じてパフォーマンスを保存します。

リズムパターンを使う

[RHYTHM PATTERN](リズムパターン)ボタンを使うと、現在のパフォーマンスにリズムパートを簡単に追加することができます。また、リズムパターンとエンベロープフォロワーを組み合わせて、さらに音色を変化させることができます。

ここでは、「Supertrance」というパフォーマンスに「8Z Trans Basics 1」というリズムパターンを追加し、エンベロープフォロワーを使って音色を変化させる例を説明します。

リズムパートを簡単に追加する

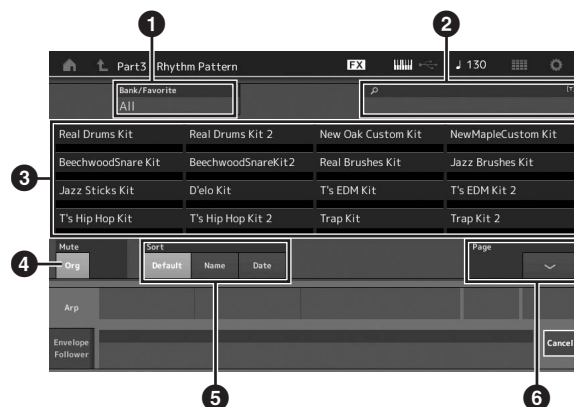
1 リズムパートを追加したいパフォーマンスを選びます。

ここでは「Supertrance」を選びます。

2 [RHYTHM PATTERN](リズムパターン)ボタンを押します。

リズムパターン画面が表示されます。

パート1～8のすべてのパートが使用中の場合は、「Part Full」と表示され、リズムパターンは追加できません。



1 バンク/フェーバリット

2 ネームサーチ

3 キット選択

4 ミュート

5 ソート

6 ページ切り替え

3 リズムパターンリストから使いたいリズムパターンのキットをタッチします。

ここでは「8Z Trans Basics 1」をタッチします。リズムパートが追加されます。

4 鍵盤を弾くとリズムが鳴ります。

5 [PERFORMANCE (HOME)]ボタンまたは [EXIT]ボタンを押して、リズムパターンを確定します。

リズムパターン画面が閉じます。

NOTE

HOMEアイコンをタッチしても確定させることができます。

6 リズムパターンを止めるには、[ARP ON/OFF]ボタンまたは[■](ストップ)ボタンを押します。

NOTE

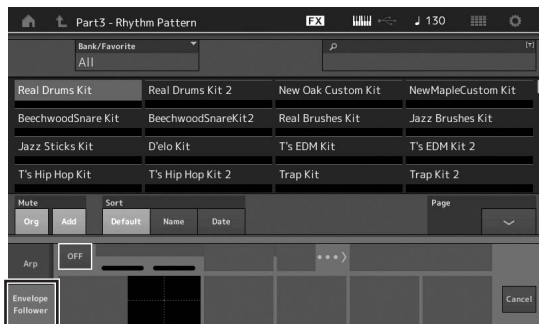
画面上の[Arp Hold On]ボタンをタッチしてもリズムパターンを止められます。

エンベロープフォロワーを設定する

エンベロープフォロワーとは、入力信号の波形のエンベロープ(振幅包絡)を抽出する機能のことで、音色を変化させるコントローラーとして使います。たとえば、リズムパターンを割り当てたパートのエンベロープフォロワーを「ソース(Source)」として使い、他のパートの音色を変化させるというようなことができます。たとえば、ある特定の音色が鳴る間に別の音色の音量を下げる場合(ダッキング)などに使うと便利です。

1 リズムパターン画面下の[Envelope Follower]タブをタッチします。

エンベロープフォロワー画面が表示されます。



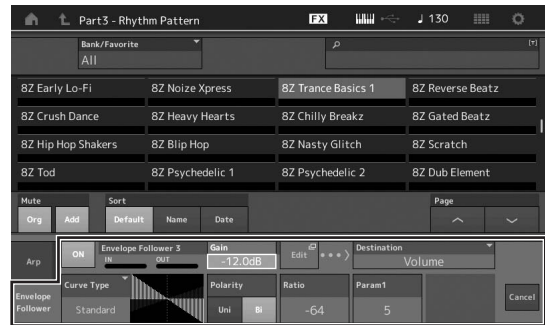
2 エンベロープフォロワースイッチをオンにします。

ここで鍵盤を弾くとエンベロープフォロワーの効果を確認できます。



3 必要に応じて、設定を調節します。

ここでは、カーブポラリティー (Polarity)を「Bi」、カーブレシオ(Ratio)を「-63」、ゲイン(Gain)を「-12dB」などにします。



より細かい調節をしたい場合には画面の[Edit]ボタンをタッチして、エンベロープフォロワーの設定画面を開きます。

リズムパターンのキットやアルペジオタイプを選びなおしたいときは、[RHYTHM PATTERN]ボタンを押してリズムパターン画面に戻ります。キットやアルペジオタイプを選びなおしても、エンベロープフォロワーの設定は保持されます。

録音/再生する

MODX+では、本体に「ソング」や「パターン」としてMIDIデータの録音ができ、USBフラッシュメモリーを接続すればMODX+本体の演奏をUSBフラッシュメモリーにオーディオ録音することもできます。

用語解説

ソング

ソングは、鍵盤やコントローラーによる演奏をMIDIイベントとして各トラックに録音した、MIDIシーケンサーデータです。MODX+には最大で128ソング保存できます。

トラック

トラックとは、演奏を録音するためのメモリーのことで、1つのトラックには1パート分の楽器の演奏が録音できます。MODX+のソングには、16トラックが用意されていて、16パート分の演奏を録音/再生可能です。

リアルタイム録音

メトロノームに合わせて実際に鍵盤やコントローラーを演奏してデータを入力する方法です。リアルタイム録音には、Replace (リブレース)、Overdub (オーバーダブ)、Punch (パンチ)の3つの方法があります。

- Replace: 元のデータを消して上書き録音します。
- Overdub: 元のデータを残したまま重ね録音します。
- Punch: 元のデータの指定した範囲を部分的に上書き録音します。

パターン

パターンとは、イントロ、Aメロ、Bメロ、エンディングなどのシーンごとに同じ演奏を繰り返す場合の、ひとまとまりの演奏のセットです。各シーンの演奏をそれぞれ録音してから組み合わせることで、効率的に曲作りをしたり、ライブ中に臨機応変な再生ができます。

MODX+では、1パターンあたり、16トラックで8シーンまで録音でき、最大で128パターン保存できます。

MIDI録音(ソング録音)する

MODX+には、曲を作るためのシーケンサー 2種類(ソング、パターン)が内蔵されています。シーケンサーとは、楽器の演奏を演奏データ(MIDIデータ)として記録する機能のことです。思いついたフレーズをMODX+に録音し、DAWで仕上げればビッグバンドやオーケストラの演奏なども1人で作り上げることができます。

ソングのシーケンサーは1曲をまるごと記録します。パターンシーケンサーは、シーンごとに録音した演奏を組み合わせることで曲を制作できます。

ここでは、ソングのシーケンサーを使った、ソングへの録音方法を紹介します。パターン録音とパターンシーケンサーの詳細については、リファレンスマニュアルをご参照ください。

トラックに録音する

ここからは、実際に曲を入力しながら操作を体験してみましょう。まずは、トラック1にメロディーを録音します。では、録音の準備からはじめましょう。

1 パフォーマンスプレイ画面で画面左の[Play/Rec]タブをタッチします。

レコーディング画面が表示されます。

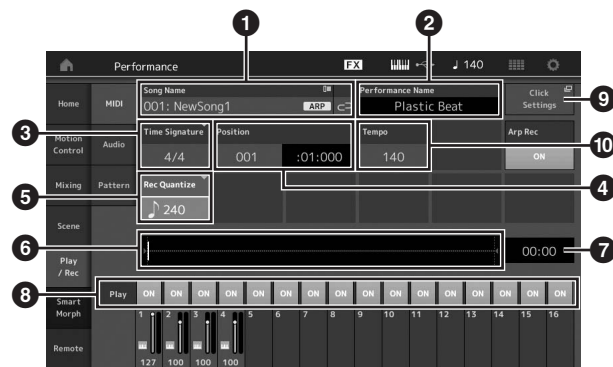
2 画面左内側の[MIDI]タブをタッチします。

3 [●](レコード)ボタンを押します。

レコードセットアップ画面が表示されます。

NOTE

パフォーマンス画面で[●](レコード)ボタンを押すことで1~3の手順を一度にまとめて操作できます。



- 1 ソングネーム
- 2 選択中のパフォーマンスネーム
- 3 拍子
- 4 ポジション(再生/録音開始位置)
- 5 クオンタイズ
- 6 シーケンス全体に対するポジションを表示
- 7 シーケンス全体の時間
- 8 トラックごとの再生オン/オフ切り替え
- 9 テンポセッティング画面へのショートカット
- 10 テンポ変更

4 レコードセットアップ画面で、下記の設定を行います。

- 4-1. 「Time Signature (拍子)」(3)にカーソルを移動し、作成する曲の拍子を設定します。ここでは「4/4」に設定します。
- 4-2. 「Rec Quantize (クオンタイズ)」(5)で「240(♪)」に設定します。クオンタイズとは、正確に弾いているつもりでも、タイミングが微妙に遅れたり早かったりするズレを補正し、タイミングをジャストにそろえる機能です。ここでは、演奏するソングに出てくる最も短い音符の長さを設定します。

5 入力の準備ができたなら、[▶](プレイ)ボタンを押してリアルタイム録音をスタートします。

[▶](プレイ)ボタンを押すとプリカウントが鳴るので、その後演奏を開始してください。

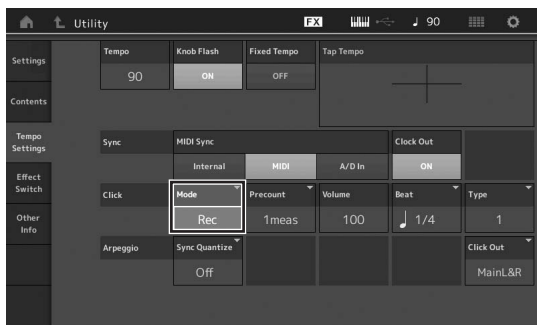
6 最後まで録音できたら、[■](ストップ)ボタンを押して、録音をストップします。

間違ってしまったら、[■](ストップ)ボタンを押して録音をストップし、もう一度初めから録音しなおしましょう。何度でも弾き直せるので、うまく演奏できるまでトライしてください。

クリックを聞きながら録音する

以下の手順で、MIDI録音時にクリック音を鳴らすことができます。

- 1 [UTILITY] → [Tempo Settings] (またはその他の画面内のClick Settingsボタン)でテンポ設定画面を開き、クリックの「Mode」を「Rec」に設定します。

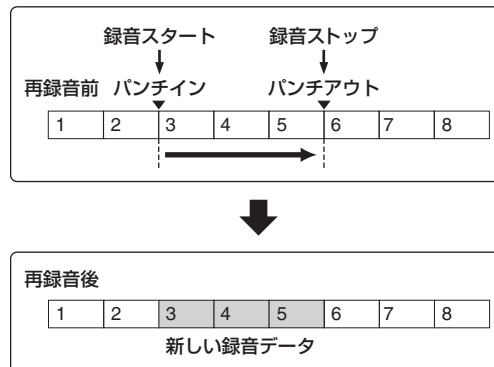


NOTE

「Mode」を「Rec/Play」に設定するとMIDI録音/再生時にクリック音が鳴ります。「Always」に設定すると常にクリック音が鳴る状態になります。

部分的に録音をやり直す(パンチイン/アウト録音)

一度録音したトラックを部分的に録音し直す方法として、パンチイン/アウト録音があります。録音をスタートすると再生が始まり、パンチインの小節で自動的に録音状態に入り、パンチアウトの小節で自動的に再生状態に戻ります。たとえば、8小節のソングの中で3小節~5小節の間を録音し直したい場合は以下ようになります。

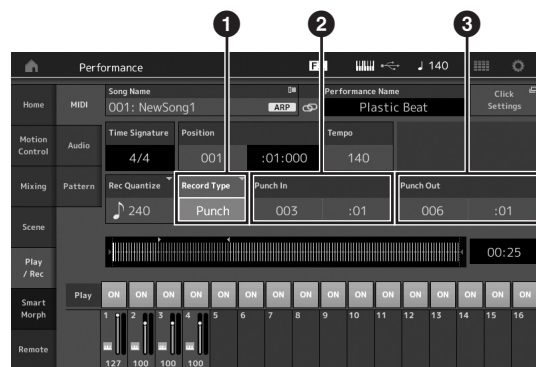


NOTE

パンチイン/アウト録音はリブレース録音方式になります。

上図のパンチイン/パンチアウト録音を実行するには、レコードセットアップ画面であらかじめ以下のパラメーターを設定します。

- 1 レコードタイプ「Record Type」 = 「Punch」
- 2 パンチイン(再録音開始小節：拍) = 003:01
この小節：拍から該当トラックの再生音が消え、鍵盤演奏が録音されます。
- 3 パンチアウト(再録音終了小節：拍) = 006:01
この小節：拍から通常再生に戻ります。



直前に実行した録音を取り消す(アンドゥー/リドゥー)

アンドゥーは、直前に実行した録音を取り消して、実行前の状態に戻します。リドゥーは、アンドゥーで取り消した操作を再び実行します。

- 1 アンドゥー (何も録音していない状態では表示されません。)

タッチすると実行を確認するダイアログ画面が表示されます。実行を選択すると直前に実行した録音を取り消して、実行前の状態に戻します。



- 2 リドゥー (アンドゥーしていない状態では表示されません。)

タッチすると実行を確認するダイアログ画面が表示されます。実行を選択するとアンドゥー実行前の状態に戻します。

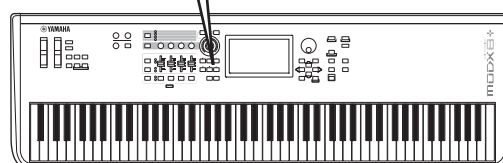
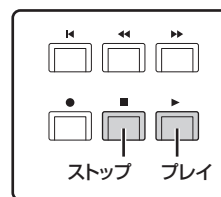
**ソングを再生する**

録音したソングを再生しながら、トラックのミュート/ソロやコントロールスライダーの活用方法についてご紹介します。

ソングの再生をスタートさせ、実際に音で確認しながら操作してみましょう。

ソングの再生

- 1 [▶](プレイ)ボタンを押して、ソングの再生を始めます。

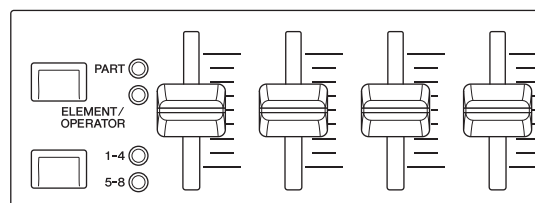
**NOTE**

音の大きさを[MASTER VOLUME]ノブで調節してください。

- 2 [■](ストップ)ボタンを押して、ソングの再生を止めます。

各パートのボリュームを操作する

コントロールスライダーを操作すると、パート1~4のボリュームを操作できます。



[PART]/[ELEMENT/OPERATOR]ボタンを押してPARTランプを点灯させてからスライダースelect [1-4]/[5-8]ボタンを押すと、パート5~8のボリュームが操作できる状態になります。

この他に、ノブ1~4 (5~8)にも、演奏中のソングのパートの設定を、リアルタイムに操作できるさまざまな機能が割り当てられています。詳しくは、リファレンスマニュアルをご参照ください。

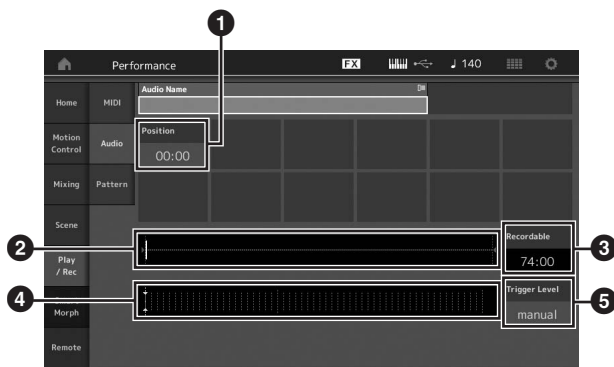
オーディオ録音する

MODX+本体での演奏をUSBフラッシュメモリーに、WAV形式(44.1kHz/24bit/ステレオ)のオーディオファイルとして録音できます。録音時の録音レベルは固定されており、連続で最大74分または録音先デバイスの上限の容量まで録音ができます。

注記

オーディオファイルの録音/再生/保存中は、MODX+の電源を絶対に切らないでください。録音/保存先のUSBフラッシュメモリーに正常にアクセスできなくなるおそれがあります。

- 1 USBフラッシュメモリーをMODX+の[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 2 パフォーマンスプレイ画面で画面左の[Play/Rec]タブをタッチします。
レコーディング画面が表示されます。
- 3 画面左内側の[Audio]タブをタッチします。
- 4 [●](レコード)ボタンを押して、オーディオレコードに入ります。
レコードセットアップ画面が表示されます。



- 1 ポジション(再生位置)
- 2 オーディオ全体の長さや現在の再生位置を表示
- 3 録音可能時間
- 4 レベルメーター
- 5 トリガーレベルの設定値

5 トリガーレベルを(5)設定します。

「Trigger Level」 = 「manual」 に設定した場合は、[▶](プレイ)ボタンを押すことで録音を開始します。「TriggerLevel」 = 「1~127」 に設定した場合は、設定した値を超える信号が入ってきたときに、録音が自動的に開始されます。設定したレベルは、レベルメーター(4)に青い三角形で表示されます。ノイズに影響されない範囲でできるだけ低く設定すると、アタック部分が切れずに録音できます。

6 [▶](プレイ)ボタンを押します。

「Trigger Level」 = 「manual」 に設定した場合は、[▶](プレイ)ボタンを押すと[●](レコード)ボタンが赤色に、[▶](プレイ)ボタンが緑色にそれぞれ点灯し、録音が始まります。

「Trigger Level」 = 「1~127」 に設定した場合は、設定した値を超える信号が入るまで録音待機状態になります。

7 鍵盤を演奏します。

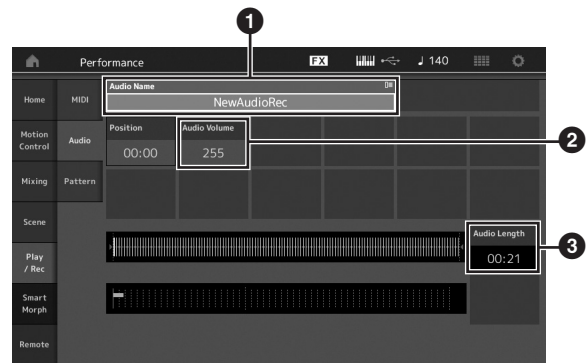
「Trigger Level」 = 「1~127」 に設定した場合は、設定した値を超える信号が入ってきたときに、録音が始まります。

8 演奏が終わったら[■](ストップ)ボタンを押します。 録音先デバイスにオーディオファイルが保存されます。

オーディオファイルの再生

本体または本体以外の機器で作成した、USBフラッシュメモリー上のオーディオデータ(Waveファイル)は、以下の手順により本体で再生できます。

- 1 USBフラッシュメモリーをMODX+の[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 2 パフォーマンス画面で、画面左の[Play/Rec]タブ → [Audio]をタッチします。
- 3 「Audio Name」をタッチし、画面左の[Load]メニューを選択します。
- 4 ロード元のUSBフラッシュメモリー、フォルダーを選択します。
- 5 USBフラッシュメモリー内のファイル(拡張子:.wav)を選択して、ロードを実行します。



- 1 オーディオネーム
- 2 オーディオボリューム(再生音量)
- 3 オーディオの長さ

6 [▶](プレイ)ボタンを押します。

オーディオファイルの再生が始まります。

7 「Audio Volume」(2)にカーソルを合わせ、データダイヤルで再生音量を調節します。

8 [■](ストップ)ボタンを押して再生を停止します。

NOTE

オーディオファイルを再生させながら、選択中のパフォーマンスの音色を演奏することができます。

マスターキーボードとして使う

MODX+では1つのパフォーマンスにつき8ゾーンのマスターキーボード機能を設定することができます。

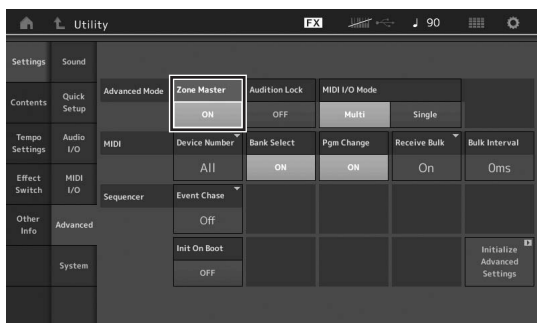
ライブセットと組み合わせることで、外部MIDI機器をコントロールするための設定を瞬時に切り替えできるので、たとえばライブステージでパフォーマンスを演奏しながら、多数の外部MIDI音源を次々に切り替えて演奏する、といったことが可能になります。

マスターキーボード(ゾーン)機能の設定をする

外部MIDI音源を複数使用するときは、マスターキーボード(ゾーン)機能を設定してパフォーマンスに保存しておくことで便利です。パフォーマンスを切り替えると同時に、外部MIDI音源のプログラムを変更することもできます。基本的な操作手順は以下のとおりです。

はじめにMODX+全体のマスターキーボード(ゾーン)設定を有効にします。

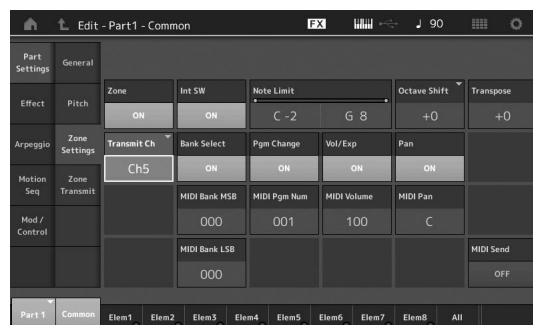
- 1 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開きます。
- 2 画面左の[Settings]タブ → [Advanced]タブをタッチします。
- 3 [Zone Master]ボタンをタッチし、オンにします。



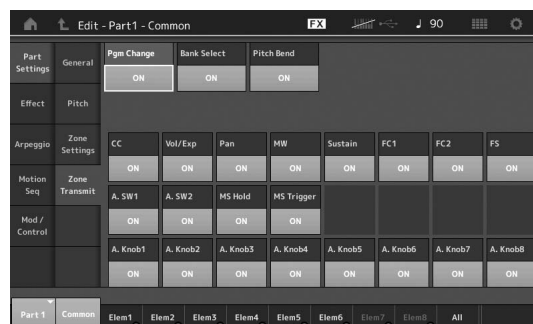
- 4 [EXIT]ボタンを押します。
元の画面に戻り、設定が保存されます。

次にパフォーマンスごとのマスターキーボード(ゾーン)設定をします。

- 1 [PERFORMANCE (HOME)]ボタンを押してパフォーマンスプレイ画面を開きます。
- 2 選択中のパフォーマンスの任意のパートにカーソルを合わせ、[EDIT]ボタンを押して、パートエディットに入ります。
- 3 画面左の[Part Settings]タブ → [Zone Settings]タブをタッチします。
- 4 [Zone]ボタンをタッチして、オンにします。
- 5 送信チャンネルやノートリミットなど、ゾーンに関する設定を行います。



- 6 続いて[Zone Transmit]タブをタッチして、送信スイッチの設定を行います。



これらの設定が終わったら、[STORE]ボタンを押してパフォーマンスを保存してください。

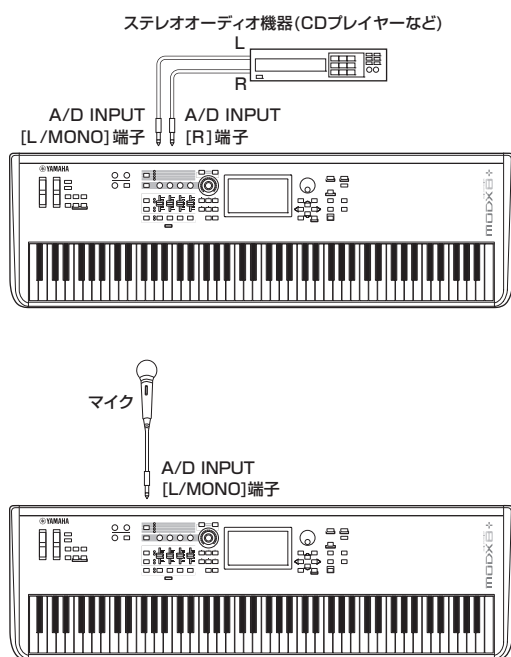
ゾーン設定について詳しくは、リファレンスマニュアルをご参照ください。

マイクやオーディオ機器を活用する

A/D INPUT [L/MONO]/[R]端子からの入力信号を鳴らしながら演奏する

MODX+では、A/D INPUT [L/MONO]/[R]端子にマイクや、CDプレーヤーなどのオーディオ機器、シンセサイザーなどの電子楽器を接続し、入力音声をオーディオ入力パート(A/Dインプットパート)として鳴らすことができます。ボリューム、パン、エフェクトなどの設定をし、他パートとミックスした上で、本体サウンドとして出力されます。

- 1 本体の電源がオフになっていること、およびA/D INPUT [GAIN] (ゲイン)ノブが最小になっていることを確認します。
- 2 本体リアパネルのA/D INPUT [L/MONO]/[R]端子へ、外部機器の端子を差し込みます。

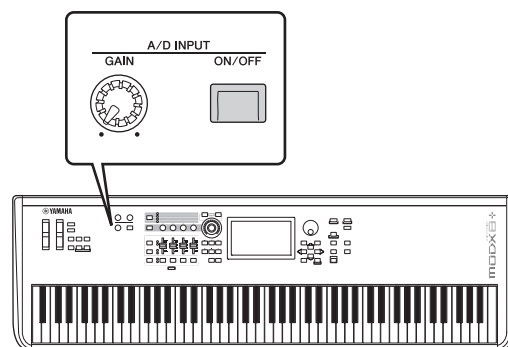


NOTE

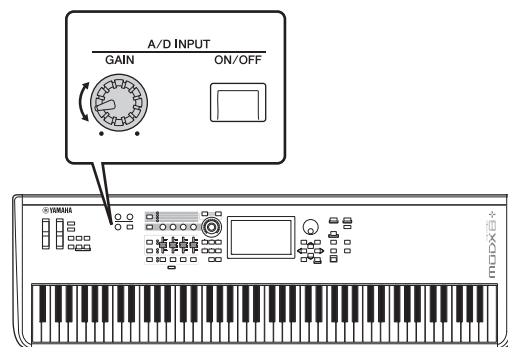
マイクは、ダイナミックマイクをご使用ください。コンデンサーマイクは使用できませんので、ご注意ください。

- 3 接続した機器の電源をオンにしたあと、本体の電源をオンにします。
- 4 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開いたあと、画面左の [Settings] タブ → [Audio I/O] タブをタッチします。

- 5 A/D INPUT [L/MONO]/[R]端子に接続した機器に従って「Mic」 / 「Line」を設定します。
マイクなどの出力レベルの低い機器を接続した場合は「Mic」(マイク)に、オーディオ機器、電子楽器などの出力レベルの高い機器を接続した場合は「Line」(ライン)に設定します。
- 6 A/D INPUT [ON/OFF]ボタンを押して、ボタンを点灯させます。
接続されたオーディオ機器からの入力信号が有効になります。



- 7 接続した外部機器の音を聞きながら[GAIN]ノブを回して入力レベルを調節します。



- 8 [PERFORMANCE (HOME)] ボタンを押して、接続した外部機器と一緒に使うパフォーマンスを選択します。

マイクで歌ったり、オーディオ機器を再生させながら、鍵盤を演奏してみましょう。

本体のさまざまな設定をする

ユーティリティー画面では、本体のさまざまな設定ができます。なかでも[Settings]タブを選択した状態では、システム全体に共通した設定を行います。ユーティリティー画面で変更された設定は、[EXIT]ボタンを押し、元の画面に戻るタイミングで保存されます。ここでは、システム全体の設定のうち、よく使われる機能を紹介します。

電源を入れたときの状態を設定する

電源を入れたときに、表示される画面の設定を行います。ライブセット画面かパフォーマンスプレイ画面のどちらかを選択できます。

- 1 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開いたあと、画面左の[Settings]タブ → [System]タブをタッチします。
- 2 「Power on Mode」で「Live Set (ライブセット画面)」か「Perform (パフォーマンスプレイ画面)」のどちらかを選択し、「Live Set」を選択した場合はさらにスロット番号を選んで、電源を入れたときに表示される画面を設定します。



- 3 [EXIT]ボタンを押します。
元の画面に戻り、設定が保存されます。

ボタンの半点灯状態を設定する

半点灯に対応したボタンのオン/オフの設定、または明るさの設定を行います。

- 1 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開いたあと、画面左の[Settings]タブ → [System]タブをタッチします。
- 2 「Half Glow」で「Off」「1/4」「1/2」のいずれかを選択します。
「Off」は半点灯設定をオフにします。
「1/4」は点灯状態を1とした場合、半点灯状態の明るさをその1/4の明るさに設定します。ライブ会場などの暗い場所ではこちらを設定してください。
「1/2」は点灯状態を1とした場合、半点灯状態の明るさをその半分の明るさに設定します。屋外など、半点灯状態と消灯状態の見分けが難しい場合はこちらを設定してください。
- 3 [EXIT]ボタンを押します。
元の画面に戻り、設定が保存されます。

さまざまな機能のオン/オフを設定する

ユーティリティー画面で[System]タブを選択した状態では、その他、以下の設定も行えます。

アニメーションのオン/オフ設定

画面が切り替わるときのアニメーションのオン/オフ設定を行います。

- 1 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開いたあと、画面左の[Settings]タブ → [System]タブをタッチします。
- 2 「Animation」で「ON」か「OFF」のどちらかを選択し、アニメーションのオン/オフを設定します。



- 3 [EXIT]ボタンを押します。
元の画面に戻り、設定が保存されます。

ブラー (ぼかし)効果のオン/オフ設定

画面を切り替えたときに直前の画面をぼかした状態で表示するブラー効果のオン/オフ設定を行います。

- 1 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開いたあと、画面左の[Settings]タブ → [System]タブをタッチします。
- 2 「Blur」で「ON」か「OFF」のどちらかを選択し、ブラー (ぼかし)効果のオン/オフを設定します。
- 3 [EXIT]ボタンを押します。
元の画面に戻り、設定が保存されます。

ビープ音のオン/オフ設定

画面操作時のビープ音のオン/オフ設定を行います。

- 1 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開いたあと、画面左の[Settings]タブ → [System]タブをタッチします。
- 2 「Beep」で「ON」か「OFF」のどちらかを選択し、ビープ音のオン/オフを設定します。
- 3 [EXIT]ボタンを押します。
元の画面に戻り、設定が保存されます。

スーパーノブの点滅オン/オフ設定

初期設定ではスーパーノブはビートに同期して点滅します。その機能のオン/オフ設定を行います。オフにすると点灯したままの状態となります。

- 1 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開いたあと、画面左の[Settings]タブ → [System]タブをタッチします。
- 2 「Knob Flash」で「ON」か「OFF」のどちらかを選択し、スーパーノブの点滅オン/オフを設定します。

タッチパネルのキャリブレーション

タッチパネルのタッチ位置と本体動作のずれを感じた場合は、必要に応じてタッチパネルのキャリブレーションを行ってください。

- 1 [UTILITY]ボタンを押したまま、[PART SELECT MUTE/SOLO]ボタンを押します。
[Calibrate Touch Panel]ボタンが選択された状態のユーティリティー画面が開きます。
- 2 [ENTER]ボタンを押します。
- 3 表示された白い四角いマークをタッチし、タッチパネルの位置を調整します。

NOTE

[UTILITY] → [Settings] → [System]でシステム設定画面を開き、「Calibrate Touch Panel」をタッチすることでも設定できます。

マスターチューンを変更する

ピアノなど、チューニングを変更できない他の楽器とアンサンブルする場合に、MODX+のチューニングを変更できません。

- 1 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開いたあと、画面左の[Settings]タブ → [Sound]タブをタッチします。

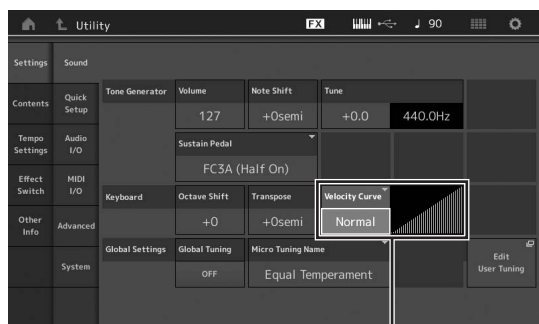


- 2 「Tune (チューン)」を選択し、データダイヤルを使って数値を変更します。
ここでは例として、440Hzを442Hzに変更します。MODX+でのチューニングのパラメーターはCent (セント、100セント=半音)という単位になっていますが、設定値の右側に目安として「Hz」についても表記されるので、こちらを確認しながら設定を変更します。データダイヤルを回して「+8.0」に変更します。ただし、より正確にチューニングする場合には、チューナーなどを使って合わせてください。
- 3 [EXIT]ボタンを押します。
元の画面に戻り、設定が保存されます。

ベロシティーカーブを変更する

鍵盤を弾く強さに対するベロシティーの出方を決める、ベロシティーカーブを設定します。本体画面に表示されるグラフィイメージの横軸は鍵盤を弾く強さ、縦軸が鍵盤から出力されるベロシティーを示しています。

- 1 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開いたあと、画面左の[Settings]タブ → [Sound]タブをタッチします。



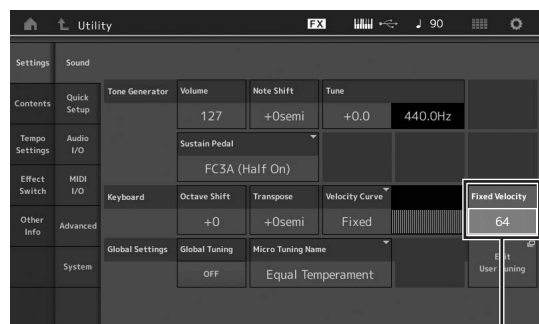
ベロシティーカーブ

- 2 「Velocity Curve (ベロシティーカーブ)」を選択し、カーブを設定します。

Normal (ノーマル)	鍵盤を弾く強さとベロシティーが比例する、もっとも一般的なカーブです。
Soft (ソフト)	全体に大きなベロシティーが出やすいカーブです。
Hard (ハード)	全体に大きなベロシティーが出にくいカーブです。
Wide (ワイド)	キータッチの弱い部分ではベロシティーをおさえ、強い部分ではベロシティーを出やすくしたカーブです。ダイナミックレンジが広く感じられます。
Fixed (フィックス)	鍵盤を弾く強さに関わりなく、一定のベロシティーで音源を鳴らしたい場合に使用します。

ベロシティーカーブをFixedに設定した場合

以下の「Fixed Velocity」で設定した値が、一定のベロシティー値となります。



ベロシティー値を設定

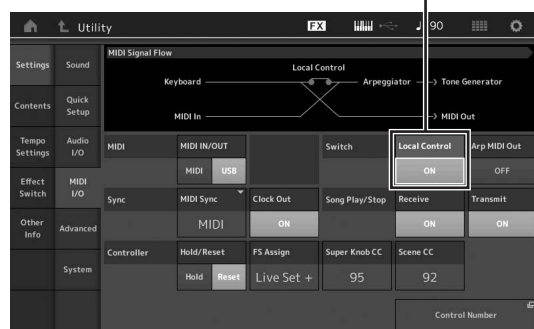
- 3 [EXIT]ボタンを押します。
元の画面に戻り、設定が保存されます。

ローカルコントロールのオン/オフ設定

ローカルコントロールオン/オフを設定します。ローカルコントロールオフにすると、本体の鍵盤/コントローラ部と音源部が内部的に切り離され、鍵盤を弾いても音が出なくなります。ただし、ここでの設定には関係なく本体の演奏情報はMIDI出力され、MIDI入力されたメッセージは本体音源部で処理されます。

- 1 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開いたあと、画面左の[Settings]タブ → [MIDI I/O]タブをタッチします。
- 2 「Local Control」で「ON」か「OFF」のどちらかを選択し、ローカルコントロールのオン/オフを設定します。
- 3 [EXIT]ボタンを押して、元の画面に戻ります。

ローカルコントロール



ライブセットの文字サイズを変更する

ライブセット画面やカテゴリサーチ画面の文字が小さくて見づらい場合、表示する文字のサイズを大きくすることができます。

[UTILITY]ボタン → [Settings]タブ → [System]タブ → 「Live Set Font」で設定します。

詳しくは、リファレンスマニュアルをご参照ください。

外部MIDI機器と接続して使う

市販のMIDI ケーブルやUSB ケーブルを使って、外部MIDI 機器と接続することができます。これにより、MODX+から外部MIDI機器をコントロールしたり、外部MIDI キーボードやシーケンサーでMODX+の音源を鳴らしたりできます。ここでは、外部MIDI機器との接続時に、意図通りに機器を使うために必要な設定について説明します。具体的な接続例などについて詳しくは、リファレンスマニュアルをご参照ください。

MIDI [IN]、[OUT]端子で外部MIDI機器と接続する

MIDI [IN]、[OUT]端子を使って外部MIDI機器と接続するときに、意図したとおりに機器を動かすためには、MIDIの送受信に関する以下の2項目を正しく設定する必要があります。

MIDI IN/OUT

外部機器とのMIDI通信をするときにMIDI [IN]、[OUT]端子と[USB TO HOST]端子のどちらを使うかを決めます。[UTILITY]ボタン → [Settings]タブ → [MIDI I/O]タブ → 「MIDI IN/OUT」 で設定します。

MIDI	MIDI [IN]、[OUT]端子を使います。
USB	[USB TO HOST]端子を使います。

NOTE

[USB TO DEVICE]端子を使って外部 MIDI 機器と接続する場合は、この設定には影響されず、常に MIDI 通信ができます。

MIDI I/O Mode

外部 MIDI 機器との通信時に、各パートの情報をどのチャンネルで送信するか、各チャンネルで受け取った情報をどのパートに渡すかを決めます。[UTILITY]ボタン → [Settings]タブ → [Advanced]タブ → 「MIDI I/O Mode」 で設定します。

Multi	各パートと各チャンネルが1対1対応します。例えば、パート1の情報はチャンネル1で送受信され、パート16の情報はチャンネル16で送受信されます。
Single	キーボードコントロールがオンのすべてのパートの情報が、1つのチャンネルで送受信されます。キーボードコントロールがオフのパートの情報は送受信されません。どのチャンネルで情報を送受信するかは、「MIDI I/O Ch.」で指定します。
Hybrid	キーボードコントロールがオンのすべてのパートの情報は、「Single」のときと同じように送受信されます。キーボードコントロールがオフのパートの情報は、「Multi」のときと同じように送受信されません。

[USB TO DEVICE]端子で外部MIDI機器と接続する

[USB TO DEVICE]端子に外部 MIDI機器(MIDIキーボードなど)を接続して、MODX+本体内部の鍵盤であるかのように扱うことができます。

使用できるMIDI機器

- USBクラスコンプライアント対応のMIDI機器
USB MIDIキーボードなど
- 動作確認済みのヤマハMIDI機器
CP1、CP4/40 STAGE、CP88/73、MODX、MONTAGE、MOTIF XF、MOXF、MX、reface、YC

注記

[USB TO DEVICE]端子の定格は、最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

MIDI通信時の特別な動作

本体内部の鍵盤に近い扱いにするために、[USB TO DEVICE]端子で接続した機器とのMIDI通信は、特別な動作をします。

- MIDI通信は一方のみ(外部 MIDI 機器から送信し、MODX+で受信する)です。
- 「MIDI IN/OUT」、 「MIDI I/O Mode」、 「MIDI I/O Ch.」 の設定に関係なく、すべてのMIDI情報が受信されます。
- キーボードコントロールがオンのパート群については、対応するすべてのチャンネルの情報が共有されます。例えば、パート1~3のキーボードコントロールがオンのとき、チャンネル1~3のどれで受信しても、パート1~3すべてに情報が届きます。
- キーボードコントロールがオフのパートは、各パートに対応するチャンネルの情報のみを受信します。
- 「MIDI I/O Mode」 が 「Single」 の場合のみ、「MIDI I/O Ch.」 で指定されたチャンネルに送信された一部のコントロールチェンジは、MIDI [IN]/[OUT]端子や[USB TO HOST]端子での通信と同様、各パートには送られず、Commonのパラメーターとして受信されます。該当するコントロールチェンジについては、リファレンスマニュアルの「MIDI I/O Mode」の項目をご参照ください。

コンピューターと接続して使う

MODX+とコンピューターを接続することで、DAWやシーケンサーなどの音楽制作アプリケーションとMODX+を組み合わせ、音楽制作の幅を大きく広げることができます。

NOTE

DAWとは、デジタルオーディオワークステーション(Digital Audio Workstation)の略で、オーディオの録音や編集、ミキシングなど一連の作業ができるアプリケーションソフトのことを指します。代表的なDAWソフトウェアとして、Steinberg Cubase、Ableton Live、Apple Logicなどがあります。

コンピューターとの接続準備

MODX+をコンピューターと接続するためには、USBケーブルとYamaha Steinberg USBドライバーが必要です。次の手順で操作してください。送受信できるデータは、オーディオデータとMIDIデータの両方です。

1 以下のURLから、最新のYamaha Steinberg USBドライバーをダウンロードします。

ダウンロードボタンを押したあと、ファイルの実行および解凍をします。

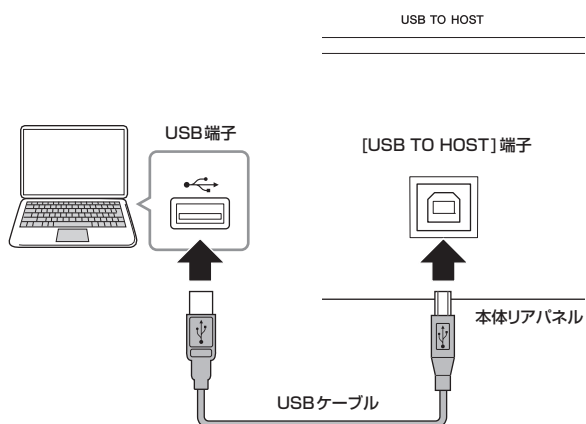
<https://jp.yamaha.com/support/>

NOTE

- 動作環境については、上記URLをご覧ください。
- Yamaha Steinberg USBドライバーは、改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。詳細および最新情報については、上記URLをご確認ください。

2 Yamaha Steinberg USBドライバーをコンピューターにインストールします。

ダウンロードしたファイルに付属されているインストールガイドをご参照ください。手順の中の、機器の[USB TO HOST]端子をUSBケーブルでコンピューターと接続する箇所については、下図を参考にしてください。

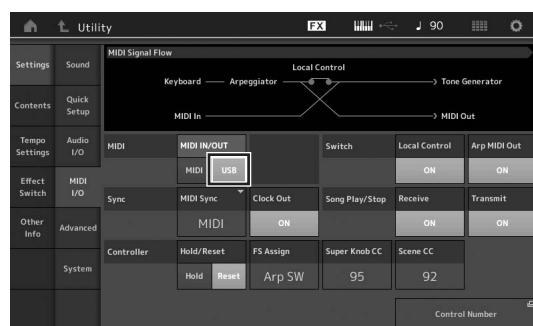


3 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開きます。

4 画面左の[Settings]タブ → [MIDI I/O]タブをタッチします。

5 「MIDI IN/OUT」を「USB」に設定します。

本体を、[USB TO HOST]端子を通してMIDIを送受信する状態に切り替えます。



6 目的に合わせて、オーディオの入出力設定を行います。

[UTILITY] → [Settings] → [Audio I/O]で設定できます。

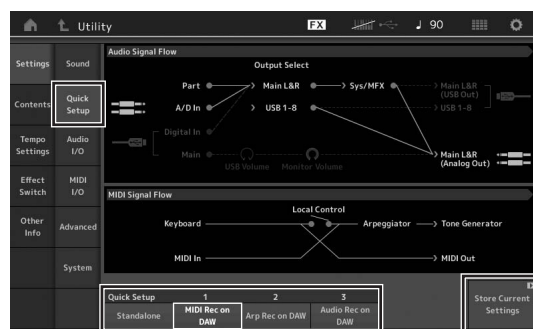
またクイックセットアップ機能を使って、オーディオとMIDIに関する設定を保存しておく、次回から簡単にその設定を呼び出せて便利です。

画面左の[Quick Setup]タブをタッチし、クイックセットアップ画面を開きます。

[Store Current Settings]をタッチすると、「Quick Setup」の1～3のいずれかに設定を保存できます。

NOTE

クイックセットアップで設定されるパラメーターについては、リファレンスマニュアルをご参照ください。



クイックセットアップ1～3

[USB TO HOST]端子ご使用時の注意

[USB TO HOST]端子でコンピューターと接続するときは、コンピューターや本体の停止(ハングアップ)によるデータの損失を防ぐため、以下のことを行ってください。

注記

- USBケーブルはABタイプをお使いください。USB3.0ケーブルは、ご使用できません。
- 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行ってください。
 - すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - 本体からデータが送信されていないか確認してください。(鍵盤を演奏したりソングを再生させたりしても、本体からデータが送信されます。)
- 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行ってください。

オーディオチャンネルについて

MODX+のオーディオ信号の出力先は、[USB TO HOST]端子とOUTPUT [L/MONO]/[R]端子です。コンピューターと直接接続する場合は[USB TO HOST]端子を使います。この場合、扱えるオーディオチャンネルは、最大10チャンネル(5ステレオチャンネル)です。各チャンネルにどの信号を出力するかは、[EDIT] → [Part Settings] → [General]画面の「Part Output」で設定します。

MODX+のオーディオ信号の入力は、[USB TO HOST]端子とA/D INPUT [L/MONO]/[R]端子から行います。

[USB TO HOST]端子からのオーディオ信号は最大4チャンネル(2ステレオチャンネル)で、ミキシング画面またはパフォーマンスエディット画面で出力レベルを設定し、OUTPUT [L/MONO]/[R]端子(2チャンネル)に出力されます。また、A/D INPUT [L/MONO]/[R]端子からのオーディオ信号も最大2チャンネル(1ステレオチャンネル)で、本体のA/Dインプット部に送られます。

詳しくはリファレンスマニュアルをご参照ください。

各MIDIポートの用途

[USB TO HOST]端子でコンピューターと接続すると、用途の違う3つのMIDIポートがコンピューターに認識されます。

MODX+の場合、各ポートの用途は次のとおりです。用途に合わせて、コンピューター側でポートを設定してください。

ポート1：この楽器の音源部とコンピューター間の通信

コンピューターからこの楽器の音源部を鳴らしたい場合や、コンピューターでこの楽器の演奏情報を受け取りたい場合は、コンピューター側でポート1を選びます。

ポート2：DAWリモート機能

この楽器でDAWソフトウェアをリモート操作するとき、コンピューター側でポート2を選びます。DAWリモート機能の詳しい設定方法や使い方については詳しくは、リファレンスマニュアルをご参照ください。

ポート3：この楽器をUSB-MIDIインターフェースとして使う

USB端子がない外部MIDI機器を、この楽器のMIDI [IN]/[OUT]端子を経由してコンピューターと接続するときに、コンピューター側でポート3を選びます。「MIDI IN/OUT」(54ページ)が「USB」のとき、この楽器のMIDI [IN]/[OUT]端子は音源部からは切り離され、ポート3と直接つながっています。

NOTE

- これらのポートは、「MIDI IN/OUT」(54ページ)が「USB」のときのみ有効です。
- 各ポートごとに、16チャンネルのMIDIデータを扱うことができます。

コンピューターを活用した音楽制作

MODX+とコンピューターを接続することで、DAWソフトウェアと連携して以下のような使い方ができます。

- MODX+の演奏をコンピューター上のDAWソフトウェアにMIDI録音やオーディオ録音する
- DAWソフトウェアのソング再生をMODX+の音源で行う

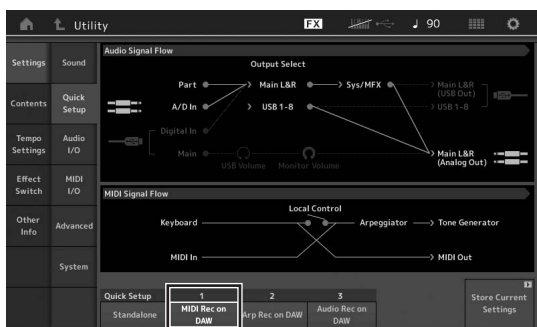
ここでは、すでに本体とコンピューターとの接続(55ページ)は済ませたものとして、DAWソフトウェアとMODX+を組み合わせた使い方の例を紹介します。

DAWに本体の演奏をMIDI録音する (アルペジオ録音をしない場合)

MODX+本体の演奏をDAWにMIDI録音する方法です。実際に鍵盤で演奏した情報のみが記録されるため、アルペジオのフレーズは録音されません。

MODX+側の設定

- 1 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開きます。
- 2 画面左の[Settings]タブ → [Quick Setup]タブをタッチし、クイックセットアップ画面を開きます。
- 3 「Quick Setup」の1 (MIDI Rec on DAW) を選択します。



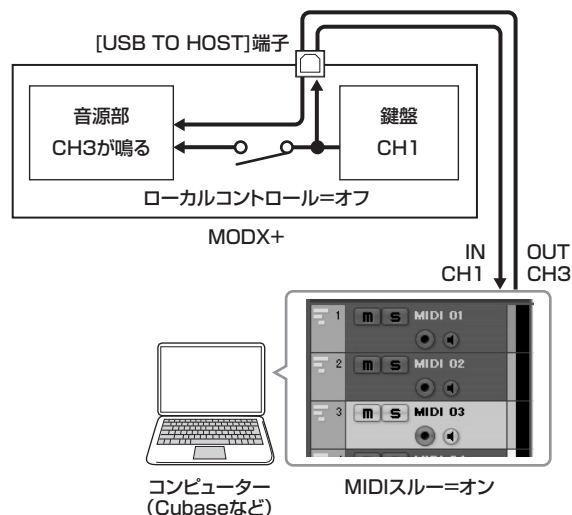
- 4 [EXIT]ボタンを押して、録音するパフォーマンスを選びます。

DAWソフトウェア側の設定

- 1 MIDIスルーをオンにします。

MIDIスルーとは、キーボードから入力されたMIDIデータが、レコーディング中のトラックの設定に従って再び外部に出力され、MIDI音源を鳴らす設定のことです。たとえば、図のようにMODX+からCH1でデータが入力された場合でも、MIDIスルーをオンにしていると、レコーディングトラックの設定に従ってCH3で再び出力さ

れ、CH3の音源が鳴ります。この設定にすることで、再生時と同じ音を聴きながらレコーディングできます。



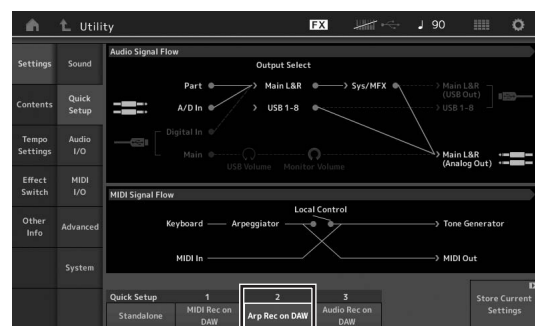
- 2 DAW側でMODX+の演奏を録音します。

DAWに本体の演奏をMIDI録音する (アルペジオ録音をする場合)

MODX+のアルペジオをDAWにMIDI録音する方法です。

MODX+側の設定

- 1 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開きます。
- 2 画面左の[Settings]タブ → [Quick Setup]タブをタッチし、クイックセットアップ画面を開きます。
- 3 「Quick Setup」の2 (Arp Rec on DAW) を選択します。



- 4 [EXIT]ボタンを押して、録音するパフォーマンスを選びます。

DAWソフトウェア側の設定

「DAWに本体の演奏をMIDI録音する(アルペジオ録音をしない場合)」と同様です。

DAWのソングを本体音源を使って鳴らす

MODX+本体を、DAWソフトウェアのMIDIマルチ音源として利用する方法です。コンピューターに負荷をかけずに、クオリティーの高いMIDI音源として利用できます。

MODX+側の設定

- 1 パフォーマンスを選びます。
- 2 パフォーマンスプレイ画面から[Mixing]タブをタッチして、ミキシング画面を開きます。
- 3 曲に合わせてパート1～16のミキシングを設定します。

DAWソフトウェア側の設定

- 1 MODX+の音を鳴らすトラックは、MIDI出力ポートをMODX+のポート1に設定します。
- 2 各トラックにMIDIデータを入力します。
各トラックのMIDIチャンネルに対応した音源の設定はMODX+側のミキシングモードで行います。

MODX+からDAWソフトウェアをコントロールする(DAWリモート機能)

USBケーブルでMODX+とコンピューターを接続している場合、MODX+でDAWソフトウェアをリモート操作できます。
詳しい設定方法や使い方は、リファレンスマニュアルをご参照ください。

MEMO

本体の設定をセーブ/ロードする

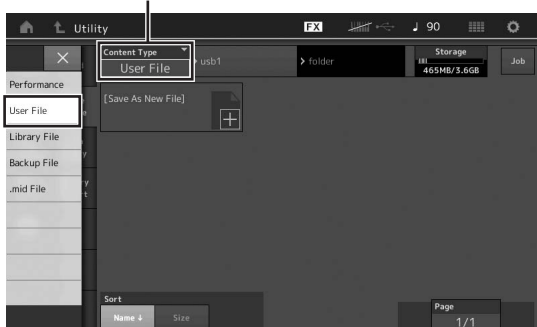
ユーティリティー画面では、システム全体の設定の他に本体で作成したパフォーマンス、ライブセットなどのデータをUSBフラッシュメモリーに保存(セーブ)したり、USBフラッシュメモリーからデータを読み込んだり(ロード)します。

ここでは、MODX+のユーザーメモリー上のすべてのデータを保存(セーブ)する方法と、再度本体に読み込む(ロード)方法を説明します。

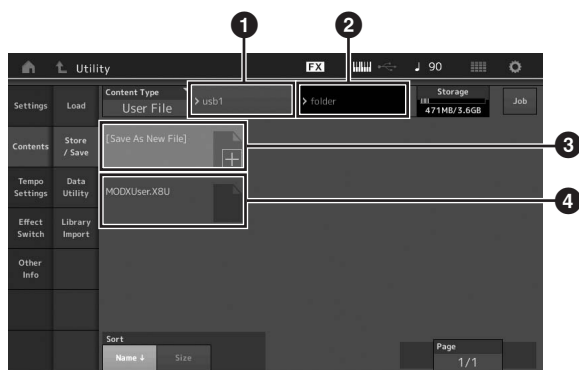
本体の設定をUSBフラッシュメモリーにセーブする

- 1 USBフラッシュメモリーをMODX+の[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 2 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開いたあと、画面左の[Contents]タブ → [Store/Save]タブをタッチします。
- 3 「Content Type」で「User File (ユーザーファイル)」を選択します。

コンテンツタイプを選択



- 4 保存先のUSBフラッシュメモリー、フォルダーを選択します。



- 1 親フォルダー名
- 2 USBフラッシュメモリー内の保存先として、現在設定されているフォルダー名
- 3 新規保存先
- 4 すでに保存されているファイルの一覧

- 5 [Save As New File]の「+」をタッチします。

NOTE

すでに保存されているファイルを上書きする場合はそのファイル名をタッチします。

- 6 文字入力画面が表示され、保存するファイルの名前を設定します。

名前の設定方法について詳しくは、「基本操作と画面表示」の「文字入力」(21ページ)をご参照ください。

- 7 文字入力画面の「Done」を選択すると、セーブが実行されます。

NOTE

すでに保存されているファイルを上書きする場合は、手順5のあとに実行確認の画面が表示されるので、「YES」を選択するとセーブが実行されます。

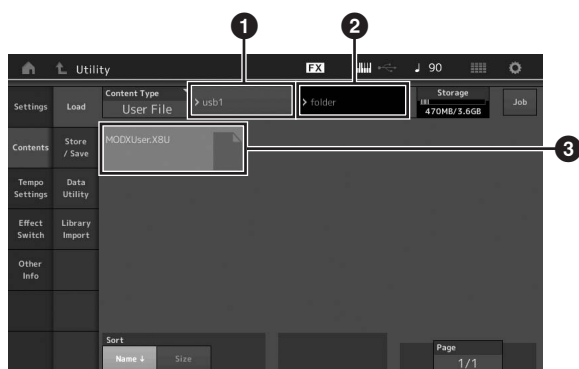
USBフラッシュメモリーにセーブした本体の設定をロードする

注記

ロードを実行すると、本体に保存されていたデータは消えてしまいます。大切なデータは、あらかじめUSBフラッシュメモリーに保存(セーブ)しておくことをおすすめします。

- 1 USBフラッシュメモリーをMODX+の[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 2 [UTILITY]ボタンを押してユーティリティー画面を開いたあと、画面左の[Contents]タブ → [Load]タブをタッチします。
- 3 「Content Type」で「User File (ユーザーファイル)」を選択します。
- 4 ロード元のUSBフラッシュメモリー、フォルダーを選択します。

5 USBフラッシュメモリー内のファイル(拡張子: .X8U)を選択して、ロードを実行します。



- ① ロード元のUSBフラッシュメモリー
- ② USBフラッシュメモリー内のロード元として、現在設定されているフォルダー名
- ③ すでに保存されているファイルの一覧

[USB TO DEVICE]端子 ご使用上の注意

本機には[USB TO DEVICE]端子があります。[USB TO DEVICE]端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

- USBフラッシュメモリー(※1)
- USBクラスコンプライアント対応のMIDI機器(※2)
- 動作確認済みのヤマハMIDI機器(※2)

上記以外のUSB機器(USBハブ、マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。

本機では、USB1.1～3.0の機器がご使用できますが、機器への保存や機器からの読み込みにかかる時間は、データの種類や本機の状態により異なります。

※1 動作確認済みUSBフラッシュメモリーについては、ご購入の前にインターネット上の下記URLでご確認ください。

<https://jp.yamaha.com/support/>

「資料/データ」から検索

※2 使用可能なMIDI機器の詳細や、接続時の設定や動作については、「外部MIDI機器と接続して使う」(54ページ)をご覧ください。

注記

[USB TO DEVICE]端子の定格は、最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

■ USB機器の接続

[USB TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。

注記

- USBフラッシュメモリーの抜き差しは、再生や録音中、ファイル操作中(保存/コピー/削除/フォーマットなど)、およびUSB機器へのアクセス中には行わないでください。楽器本体の機能が停止したり、USBフラッシュメモリーやデータが壊れたりするおそれがあります。
- USBフラッシュメモリーの抜き差しは、数秒間隔を空けて行ってください。

USBフラッシュメモリーの取り扱いについて

本機にUSBフラッシュメモリーを接続すると、楽器本体で制作したデータをUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーのデータを楽器本体で再生したりできます。

■ 接続できるUSBフラッシュメモリーの数

同時に使用できるUSBフラッシュメモリーは、1つです。

■ USBフラッシュメモリーのフォーマット

USBフラッシュメモリーは本機でフォーマットすることをおすすめします。他の機器でフォーマットしたUSBフラッシュメモリーは、本機で正しく動作しない場合があります。

注記

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

NOTE

フォーマットの方法は、リファレンスマニュアルをご参照ください。

■ 誤消去防止

USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■ USBフラッシュメモリー接続時に電源を切るには

電源を切る場合は、再生/録音やファイル操作(保存/コピー/削除/フォーマットなど)によるUSBフラッシュメモリーへのアクセス中でないことを確認してください。USBフラッシュメモリーやデータが壊れるおそれがあります。

シフト機能一覧

[SHIFT]ボタンと他のボタンを組み合わせることで、以下のショートカット機能が実現されます。

操作	機能
[SHIFT] + [KNOB POSITION 1]	ノブに割り当てられたAssign 1~8の値をValue 1に記録
[SHIFT] + [KNOB POSITION 2]	ノブに割り当てられたAssign 1~8の値をValue 2に記録
[SHIFT] + [OCTAVE-]	トランスポーズ値を-1(減らす)
[SHIFT] + [OCTAVE+]	トランスポーズ値を+1(増やす)
[SHIFT] + [OCTAVE-] + [OCTAVE+]	トランスポーズ値を0に戻す
[SHIFT] + [DEC/NO]	選択しているパラメーター値を-10(減らす) ライブセット画面では前のページを表示
[SHIFT] + [INC/YES]	選択しているパラメーター値を+10(増やす) ライブセット画面では次のページを表示
[SHIFT] + [ENTER]	テンポセッティング画面に移行
[SHIFT] + [PERFORMANCE (HOME)]	オーバービュー画面に移行
[SHIFT] + [LIVE SET]	ライブセット登録画面に移行
[SHIFT] + [UTILITY]	クイックセットアップ画面に移行
[SHIFT] + [CATEGORY]	選択中のパートのパートカテゴリサーチ画面を開く
[SHIFT] + スライダーセレクト[1-4]/[5-8]	スライダーファンクション[PART]/[ELEMENT/OPERATOR]ボタンがPARTの場合はPart 9またはPart 13を選択
[SHIFT] + [EDIT]	Copy/Exchangeダイアログの表示
[SHIFT] + SCENE [1]~[8]	シーン1~8をSCENE [1]~[8]ボタンにそれぞれ記録
[UTILITY] + [PART SELECT MUTE/SOLO]	タッチパネルキャリブレーション設定に移行
[SHIFT] + [AUDITION]	パフォーマンスプレイ画面またはライブセット画面表示中に、パネルロック/パネルロック解除
[SHIFT] + カーソル	カテゴリサーチ画面(24ページ)表示中に、カテゴリの変更 <ul style="list-style-type: none"> • [SHIFT]+左/右：メインカテゴリを変更 • [SHIFT]+左+右：メインカテゴリをAllに設定 • [SHIFT]+上/下：サブカテゴリを変更 • [SHIFT]+上+下：サブカテゴリをAllに設定

メッセージリスト

メッセージ	説明
** will be deleted.	操作を実行することによりデータが削除される場合に表示されます。
** will be overwritten.	セーブ時に同じ名前のファイル/フォルダーがすでに存在している場合に表示されます。セーブを実行するとデータは上書きされます。**にはセーブしようとしているファイル/フォルダー名が表示されます。
Activate the source controller to assign.	今から操作するコントローラーにパラメーターを割り当てることができます。割り当てを希望するコントローラーを操作してください。
Advanced settings will be initialized.	[Advanced]タブで行われた設定を初期化します。
All data and libraries will be initialized. Unsaved user data will be lost.	工場出荷時の設定に戻します。必要なデータは、前もってUSBフラッシュメモリーに保存することをおすすめします。
All data is initialized upon power-on.	電源を入れたとき、工場出荷状態に戻すように設定されました。
All settings will be initialized. User data is kept.	本体の設定を初期化します。ユーザーデータは削除されません。
All sound will be stopped during optimization.	本体メモリーの修復を開始します。
All user data will be initialized. Unsaved user data will be lost.	ユーザーデータを初期化します。必要なデータは、前もってUSBフラッシュメモリーに保存することをおすすめします。
Are you sure?	各操作を実行したときの、確認を求める表示です。
Arpeggio full.	アルペジオパートスイッチが、これ以上オンにできないときに表示されます。
Assignable Knob Full.	スーパーノブの設定を追加しようとしたとき、すべてのアサインノブがすでに割り当て済みの場合に表示されます。
Audio Rec stopped due to lack of memory space.	USBフラッシュメモリーの容量がいっぱいのため、オーディオ録音が自動停止した場合に表示されます。新しいUSBフラッシュメモリーを用意するか、不要なファイルを消去してから操作をやりなおしてください。
Auto power off disabled.	オートパワーオフ機能が解除されます。
Bulk data protected.	バルクデータ受信のプロテクトがかかっています。
Can't process.	処理に失敗しました。
Completed.	ロード、セーブ、フォーマット、ジョブなどの実行が完了したときに表示されます。
Connecting to USB device...	USBフラッシュメモリーを接続中です。
Control Assign Full.	すべてのコントロールアサインが使用中の場合に表示されます。
Copy protected.	著作権保護されているデジタルオーディオソースのため、ファイルセーブなどができません。
Current user data will be overwritten by **.	ファイルの読み込み時にユーザーデータがすでに存在している場合に表示されます。読み込みを実行するとユーザーデータは上書きされます。**にはロードしようとしているユーザーファイル名が表示されます。
Data memory full.	(ライブラリーファイル読み込み時)本体メモリーがいっぱいで、ライブラリー内のコンテンツデータが保存できない場合に表示されます。
Device number is off.	デバイスナンバーがオフなので、バルクデータを送受信できません。
Device number mismatch.	デバイスナンバーが異なるので、バルクデータを送受信できません。
File is not found.	選択したタイプのファイルがありません。
File or folder already exists.	同じ名前のファイルまたはフォルダーがすでに存在しています。
File or folder path is too long.	開こうとするファイルやフォルダーのパス名が長すぎて開けません。
Folder is not empty.	データの入っているフォルダーを消去しようとした場合に表示されます。
Illegal bulk data.	バルクデータ、バルクリクエスト受信中にエラーが生じました。
Illegal file name.	ファイル名が無効の場合に表示されます。
Illegal file.	目的のファイルがMODX+では扱えない、またはロードできない場合に表示されます。
Keybank full.	ロードの実行時に、キーバンク数の合計が最大数を超える場合に表示されます。
Library full.	ライブラリー数の合計が最大数を超える場合に表示されます。
MIDI buffer full.	一度に大量のMIDIデータを受信したので処理できませんでした。
MIDI checksum error.	受信したシステムエクスクルーシブのチェックサムが違います。
Modified: Common AsgnKnob?	パートエディットのコントロールアサイン画面で、スーパーノブと関連したアサインノブの設定を追加または変更した場合、コモン/オーディオエディットのコントロールアサイン設定が自動的に追加または変更されたときに表示されます。

メッセージ	説明
No data.	選択したトラックや設定した範囲にデータがないときに表示されます。範囲を選びなおしてください。
No read/write authority to the file.	ファイルの読み取り権限および書き込み権限がありません。
Now initializing all data...	工場出荷時の設定に書き換え中です。
Now initializing...	一部のデータ初期化中に表示されます。
Now loading...	ファイルロード中に表示されます。
Now receiving MIDI bulk data...	MIDIバルクデータ受信中に表示されます。
Now saving...	ファイルセーブ中に表示されます。
Now transmitting MIDI bulk data...	MIDIバルクデータ送信中に表示されます。
Part Full.	すべてのパートが使用中の場合に表示されます。
Please connect USB device.	USBフラッシュメモリーを接続してください。
Please keep power on.	フラッシュROMへのデータの書き込み中です。表示中は絶対に電源を切らないでください。表示中に電源を切ると、ユーザーデータが失なわれたり、システムが壊れて次に電源を入れたときに正常に立ち上がらなくなる恐れがあります。
Please reboot to enable the new Audio I/O Mode.	オーディオの入出力設定の変更を有効にするために、本機を再起動してください。
Please reboot to maintain internal memory.	本体メモリーの修復を行いますので、本機を再起動してください。
Please stop audio play/rec.	オーディオの録音または再生を停止してから操作してください。
Please stop sequencer.	シーケンサー (ソング) を停止してから操作してください。
Please wait...	処理を実行中です。しばらくお待ちください。
Recall latest edits.	あるパフォーマンスをエディットしているときに、ストアしないまま別のパフォーマンスを選ぶと、エディット中のデータは失なわれてしまいます。このような場合に、リコール機能を実行すると、元のデータ(エディット中の状態)を呼び戻すことができます。
Redo last recording.	アンドゥで一度取り消した操作をもう一度やり直します(リドゥ)。
Sample is protected.	サンプルにプロテクトがかかっているため、書き換えができません。
Sample is too long.	サンプルのサイズが大きすぎてロードが実行できない場合に表示されます。
Sample memory full.	サンプル用のメモリーがいっぱいで、ロードなどが実行できない場合に表示されます。
Scene stored.	[SCENE]ボタンにシーンがストア(保存)されました。
Song data overload.	ソングの負荷が大きすぎて再生できない場合に表示されます。
Song full.	ソング数の合計が最大数を超える場合に表示されます。
Touch the white square.	(タッチパネルのキャリブレーション時)表示された白い四角いマークをタッチするよう促すために表示されます。
Turn on Memory Switch to memorize ** into this scene.	機能をシーンとして記録するには、該当機能の[Memory] (Memory Switch)をあらかじめオンしておく必要があります。
Undo last recording.	直前に行った録音を取り消します(アンドゥ)。
Unsupported USB device.	このUSBデバイスは本機に対応していません。
USB connection terminated.	USBフラッシュメモリーに異常な電流が流れたので接続を遮断しました。接続しているUSBフラッシュメモリーを外したうえで、パネル上のなんらかのボタンを押してください。
USB device is full.	USBフラッシュメモリーの容量がいっぱいでファイルがセーブできない場合に表示されます。新しいUSBフラッシュメモリーを用意するか、不要なファイルを消去してから操作をやりなおしてください。
USB device is write-protected.	書き込み禁止状態になっているUSBフラッシュメモリーへの書き込みを行おうとした場合に表示されます。
USB device read/write error.	USBフラッシュメモリーへのリード/ライト中にエラーが発生しました。
USB device will be formatted.	USBフラッシュメモリーをフォーマットします。
Waveform full.	ウェーブフォーム数の合計が最大数を超える場合に表示されます。

困ったときは

「音が出ない」「音色がおかしい」などといった場合は、まず以下の項目をチェックしてください。また、USBフラッシュメモリーにデータのバックアップをしてから(60ページ)、イニシャライズ オールデータ (19ページ)を実行することで解決できることもあります。それでも直らないときは、お買い上げのお店、または巻末の問い合わせ窓口にご連絡ください。

タッチパネルの反応が悪い

- タッチパネルのタッチ位置と本体動作がずれていませんか？
タッチパネルのキャリブレーションを行ってください。

[UTILITY] + [PART SELECT MUTE/SOLO] → [ENTER]

[UTILITY] → [Settings] → [System] → [Calibrate Touch Panel]

音が鳴らない

- コントロールスライダーがすべて最少になっていませんか？
- 本体に外部アンプやスピーカー、ヘッドホンが接続されていますか？
本体にはスピーカーが内蔵されていません。音を出すためには、外部アンプやスピーカー、ヘッドホンなどを接続してください(18ページ)。
- 本体と、本体に接続した外部オーディオ機器の電源は、オンになっていますか？
- 本体と、本体に接続した外部オーディオ機器のマスターボリュームは、十分に上がっていますか？
[FOOT CONTROLLER]端子にフットコントローラーを接続している場合は、動かしてみてください。
- ローカルコントロールがオフになっていませんか？
このパラメーターがオフの場合、鍵盤を弾いても内部音源は鳴りませんのでご注意ください。

[UTILITY] → [Settings] → [MIDI I/O] → [Local Control]

- 未使用のパートが選択されていませんか？
音色を割り当てるか、他のパートを選択してください。
- 各パートのミュートスイッチがオンになっていませんか？
ミュートスイッチがオンに設定してあると、鍵盤を弾いても音が鳴りませんのでご注意ください。

[PERFORMANCE (HOME)] → パートの [Mute]

[PART SELECT MUTE/SOLO] → [Mute] → パート選択

- 各パートのキーボードコントロールがオフになっていませんか？

[PERFORMANCE (HOME)] → パートの [Kbd Ctrl]

- 選択中のパートの「Arp Play Only」(アルペジオ プレイ オンリー)がオンになっていませんか？
このパラメーターをオンにすると、該当パートはアルペジエーターのノートオンでのみ発音する状態になります。

[PERFORMANCE (HOME)] → パート選択 → [EDIT] → [Part Settings] → [General] → [Arp Play Only]

[PERFORMANCE (HOME)] → パート選択 → [EDIT] → [Arpeggio] → [Common] → [Arp Play Only]

- 外部MIDIコントローラーによって、MIDIボリュームやエクスプレッションが下がってはいませんか？
- エフェクトやフィルターの設定は適切ですか？
特にフィルターをかける場合、カットオフ周波数によっては音が出ない場合があります。

[PERFORMANCE (HOME)] → [EDIT] → [Effect]

[PERFORMANCE (HOME)] → パート選択 → [EDIT] → [Effect]

- ・ ノーマルパート(AWM2)、ドラムパートの場合

[PERFORMANCE (HOME)] → パート選択 → [EDIT] → エLEMENT/キー選択 → [Filter]

- ・ ノーマルパート(FM-X)の場合

[PERFORMANCE (HOME)] → パート選択 → [EDIT] → オペレーター選択 → [Pitch/Filter]

- パートのインサージョンエフェクトがボコーダーに設定されていませんか？
ボコーダーに設定されている場合は、A/D INPUT [L/MONO]/[R]端子の設定を適切な値に設定し、A/D INPUT [L/MONO]/[R]端子に音声を入力しながら発音させてください。またその際、パネルのA/D INPUT [GAIN]ノブが最小になっていないか確認してください。

[EDIT] → パート選択 → エLEMENT/キー/オペレーター [Common] → [Effect] → [Routing]

- ボリュームやレベルが最小になっていませんか？

[UTILITY] → [Settings] → [Sound] → Tone Generator [Volume]

[EDIT] → [General] → [Volume]

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Part Settings] → [General] → [Volume]

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Part Settings] → [General] → [Dry Level]

- ・ ノーマルパート(AWM2)、ドラムパートの場合

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー選択 → [Amplitude] → [Level/Pan] → [Level]

- ・ ノーマルパート(FM-X)の場合

[EDIT] → パート選択 → オペレーター選択 → [Level] → [Level]

- エlementスイッチ、ノートリミット、ベロシティリミット、ベロシティオフセットの設定は適切ですか？

- ・ ノーマルパート(AWM2)、ドラムパートの場合

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Part Settings] → [General]

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー選択 → [Osc/Tune]

- ・ ノーマルパート(FM-X)の場合

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Part Settings] → [General]

- パートの各Element/オペレーターのミュートスイッチがオンになっていませんか？

[EDIT] → パート選択 → 各Element/オペレーターのミュートスイッチ確認

- (ノーマルパート(FM-X)の場合)キャリアのレベルが0になっていませんか？

[EDIT] → パート選択 → オペレーター選択 → [Level] → [Level]

- パートの出力設定がオフになっていませんか？

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Part Settings] → [General] → [Part Output]

A/D INPUT端子からの音が出ない

- 接続しているマイクのスイッチはオンになっていますか？

- 接続しているマイクはダイナミックマイクですか？

- マイクまたは外部オーディオ機器と本体を接続するケーブルは正しく接続されていますか？

- A/D INPUT [GAIN]ノブが最小になっていませんか？

- A/D INPUT [ON/OFF]ボタンがオン(ランプが点灯)になっていますか？

- A/D INPUT [L/MONO]/[R]端子の接続状態と「Mono/Stereo」の設定が合っていますか？

[EDIT] → [Audio In] → [Mixing] → A/D In [Input Mode]

- 「Mic/Line」設定は適切ですか？

マイクなどの出力レベルの低い機器を接続した場合は「Mic」(マイク)に、オーディオ機器、電子楽器などの出力レベルの高い機器を接続した場合は「Line」(ライン)に設定します。

[UTILITY] → [Settings] → [Audio I/O] → [A/D Input]

- A/Dインプットパートのボリュームが最小になっていませんか？

[EDIT] → [Audio In] → [Mixing] → A/D In [Volume]

- A/Dインプットパートのエフェクトの設定は適切ですか？

[EDIT] → [Audio In] → [Routing]

- A/Dインプットパートの出力設定は適切ですか？

[UTILITY] → [Settings] → [Audio I/O] → Output

- ボコーダーエフェクトを使用する設定になっていませんか？

インサクションエフェクトにボコーダーを使用する設定になっている場合、A/D INPUT [L/MONO]/[R]端子からの入力音は鍵盤を弾かないと鳴らないことがあります。

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Effect] → [Routing]

音が鳴り続けて止まらない

- [ARP ON/OFF]ボタンがオンになっている場合、オフにしてみてください。
- ソング画面の場合は、[■](ストップ)ボタンを押してください。
- ディレイなどのエフェクトで音が鳴り続けている場合は、エフェクトの設定を変えるか、音色を選び直してください。
- クリック音が鳴り続けている場合は、以下の設定を確認してください。「always」(オールウェイズ)に設定されていれば常に鳴っていますので、「always」以外に設定してください。

[UTILITY] → [Tempo Settings] → Click [Mode]

音が歪む

- エフェクトの設定は適切ですか？
エフェクトタイプや設定によっては、音が歪む場合があります。

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Effect]

- フィルターの設定は適切ですか？
フィルターをかける場合、レゾナンスによっては音が歪む場合があります。

・ノーマルパート(AWM2)、ドラムパートの場合

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー選択 → [Filter]

・ノーマルパート(FM-X)の場合

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Pitch/Filter]

- ボリュームを上げすぎていませんか？

[UTILITY] → [Settings] → [Sound] → Tone Generator [Volume]

[UTILITY] → [Settings] → [Audio I/O] → [Output]

[EDIT] → [General] → [Volume]

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Part Settings] → [General] → [Volume]

・ノーマルパート(AWM2)、ドラムパートの場合

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー選択 → [Amplitude] → [Level/Pan] → [Level]

・ノーマルパート(FM-X)の場合

[EDIT] → パート選択 → オペレーター選択 → [Level] → [Level]

音が途切れる

- 全体の発音数が最大同時発音数(AWM2は128音、FM-Xは128音)を超えていませんか？

同時に複数の音(和音)が発音できない

- 発音方式が「モノ(mono)」になっていませんか？
和音を鳴らしたい場合は「ポリ(Poly)」に設定してください。

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Part Settings] → [General] → [Mono/Poly]

ピッチがずれている

- チューンの設定が、0から大きく離れていませんか。

[UTILITY] → [Settings] → [Sound] → Tone Generator [Tune]

- 各パートのノートシフト、デチューンが0以外に設定されていませんか？

・ノーマルパート(AWM2)、ドラムパートの場合

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Part Settings] → [Pitch] → [Note Shift]

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Part Settings] → [Pitch] → [Detune]

・ノーマルパート(FM-X)の場合

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Pitch/Filter] → [Pitch] → [Note Shift]

[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Pitch/Filter] → [Pitch] → [Detune]

- パートのピッチがずれている場合、マイクロチューニング設定で特殊な音律が選ばれていませんか？
 - ・ノーマルパート(AWM2)の場合
[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Part Settings] → [Pitch] → [Micro Tuning Name]
 - ・ノーマルパート(FM-X)の場合
[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Pitch/Filter] → [Pitch] → [Micro Tuning Name]
- パートのピッチがずれている場合、LFOピッチモジュレーションデプスが強くかかりすぎてはいませんか？
 - ・ノーマルパート(AWM2)の場合
[EDIT] → パート選択 → エlement選択 → [Element LFO] → [Pitch Mod]
 - ・ノーマルパート(FM-X)の場合
[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Mod/Control] → [2nd LFO] → [Pitch Modulation]
- パートのピッチがずれている場合、コースチューンやファインチューンがずれていませんか？
 - ・ノーマルパート(AWM2)、ドラムパートの場合
[EDIT] → パート選択 → エlement/キー選択 → [Osc/Tune] → [Coarse]
[EDIT] → パート選択 → エlement/キー選択 → [Osc/Tune] → [Fine]
 - ・ノーマルパート(FM-X)の場合
[EDIT] → パート選択 → オペレーター選択 → [Form/Freq] → [Coarse]
[EDIT] → パート選択 → オペレーター選択 → [Form/Freq] → [Fine]
- パートのピッチがずれている場合、コントローラーのデスティネーションがピッチに設定されていませんか？
[EDIT] → パート選択 → [Mod/Control] → [Control Assign] → [Destination]

エフェクトがかからない

- エフェクトスイッチがオフになっていませんか？
[UTILITY] → [Effect Switch]
- バリエーションセンド、リバーブセンドの値が最小になっていませんか？
[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Effect] → [Routing] → [Var Send]
[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Effect] → [Routing] → [Rev Send]
- バリエーションリターン、リバーブリターン、リバーブの値が最小になっていませんか？
[EDIT] → [Effect] → [Routing] → [Var Return]
[EDIT] → [Effect] → [Routing] → [Rev Return]
- パートの全エlement/キー/が、インサージョンエフェクトをスルー (Thru)するように設定されていませんか？
[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Effect] → [Routing] → [Element 1-8]
- (システムエフェクトの場合)各エフェクトで選択されているエフェクトタイプが、ノーエフェクト(No Effect)に設定されていませんか？
- (インサージョンエフェクトの場合)各エフェクトで選択されているエフェクトタイプが、スルー (Thru)に設定されていませんか？
- インサージョンスイッチの設定は適切ですか？
[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Effect] → [Ins A]/[Ins B]
- インサージョンエフェクトが掛けられるパート数を超過していませんか？
パート9~16までのうち、インサージョンエフェクトが掛けられるのは4パートまでです。
[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Effect] → [Ins Assign]

アルペジオが鳴らない

- [ARP ON/OFF]ボタンはオンになっていますか？
- アルペジオスイッチがオンになっているパート数を確認してください。
同時にアルペジオをかけられる最大パート数は8です。
- アルペジオのノートリミットやベロシティリミットは、適切に設定されていますか？
[EDIT] → パート選択 → エlement/キー/オペレーター [Common] → [Arpeggio] → [Common]
- アルペジオタイプがオフ(Off)に設定されていませんか？
[EDIT] → パート選択 → [Arpeggio] → [Individual] → [Name]

- 各パートのアルペジオスイッチの設定を確認してください。
アルペジオスイッチがオフに設定してあると、パネルの[ARP ON/OFF]ボタンをオンにしてもアルペジオは再生されません。

[PERFORMANCE (HOME)] → パート選択 → [Arp On]

- [Arp Bypass]ボタンがオンになっていませんか？

[UTILITY] → [Effect Switch]

アルペジオが止まらない

- 鍵盤から指を離してもアルペジオ再生が止まらない場合は、アルペジオ ホールド スwitchの設定をオフにしてください。

[EDIT] → パート選択 → エLEMENT/キー /オペレーター [Common] → [Arpeggio] → [Common] → [Hold]

[▶](プレイ)ボタンを押してもソング再生がスタートしない

- 選んでいるソングにデータは入っていますか？

ソングを録音できない

- ソング用の容量が少なくなっていますか？

ソングのメモリー容量は、128ソングです。したがって、128ソングを超えるとソングフル(Song full)となって録音ができなくなります。

本体と接続したコンピューターとの通信がうまくできない

- コンピューター側でのポート設定はできていますか？
- ユーティリティー画面で、使用する端子(MIDI、USB)を選んでいませんか？

[UTILITY] → [Settings] → [MIDI I/O] → MIDI [MIDI IN/OUT]

バルクdumpデータがうまく送信/受信できない

- バルク受信(レシーブバルク)をプロテクトしていませんか？
バルク受信をオンに設定してください。

[UTILITY] → [Settings] → [Advanced] → MIDI [Receive Bulk]

- 本体のバルクdump機能を使って記録したデータを受信するときは、送信時と同じデバイスナンバーに設定する必要があります。

[UTILITY] → [Settings] → [Advanced] → MIDI [Device Number]

- デバイスナンバーの設定値が、接続しているMIDI機器のデバイスナンバーと一致していますか？

[UTILITY] → [Settings] → [Advanced] → MIDI [Device Number]

USBフラッシュメモリーにセーブできない

- USBフラッシュメモリーにライトプロテクトがかかっていますか？
- USBフラッシュメモリーの空き容量は足りていますか？

コンテンツ画面に入り、デバイスをUSBフラッシュメモリーに設定してください。画面の右上に表示されるストレージの空き容量が0.0KBになっていないか確認してください。

[UTILITY] → [Contents] → [Load]/[Store/Save]

- USBフラッシュメモリーは、本体と動作確認済みのものを使用されていますか？(61ページ)

ディスプレイ内に、点灯しない点や点灯したままの点がある

- カラーLCDの特性です。故障ではありません。

仕様

鍵盤	MODX8+: 88鍵GHS鍵盤(イニシャルタッチ付) MODX7+: 76鍵セミウェイテッド鍵盤(イニシャルタッチ付) MODX6+: 61鍵セミウェイテッド鍵盤(イニシャルタッチ付)		
音源部	音源方式	Motion Control Synthesis Engine AWM2: 8エレメント FM-X: 8オペレーター、88アルゴリズム	
	最大同時発音数	AWM2: 128音(ステレオ/モノ波形いずれも)、FM-X: 128音	
	マルチティンバー数	内蔵音源16パート、オーディオ入力パート(A/D*1、USB*1) *1 ステレオパート	
	波形メモリー	プリセット: 5.67 GB相当(16bitリニア換算)、ユーザー: 1.75 GB	
	パフォーマンス数	2,227	
	フィルター	18タイプ	
	エフェクター	リバーブ×12タイプ、バリエーション×88タイプ、 インサージョン(A、B)×88タイプ*2、マスターエフェクト×26タイプ *2 A/Dパートインサージョンは83タイプ <各エフェクトタイプにプリセットプログラム搭載> マスターEQ (5バンド)、1stパートEQ (3バンド)、2ndパートEQ (2バンド)	
	シーケンサー部	シーケンサー容量	約130,000音(1パターンまたは1ソング)
ストア領域		約520,000音(パターン)、約520,000音(ソング)	
音符分解能		四分音符/480	
テンポ(BPM)		5~300	
パターン		パターン数	128パターン
		トラック	16シーケンサートラック
レコーディング方式		リアルタイムリブレース、リアルタイムオーバーダブ	
ソング		ソング数	128ソング
		トラック	16シーケンサートラック、テンポトラック、シーントラック
レコーディング方式		リアルタイムリブレース、リアルタイムオーバーダブ、リアルタイムパンチ	
再生		MODXオリジナルフォーマット、SMFフォーマット0,1	
アルペジエーター		パート	最大8パート同時オン可
	プリセット	10,239タイプ	
	ユーザー	256タイプ	
モーションシーケンサー	レーン	最大8+1系統	
その他	ライブセット数	プリセット: 256、ユーザー: 2,048	
	主な操作子	マスターボリューム、A/Dインプットゲインノブ、USBボリューム、 ピッチベンドホイール、モジュレーションホイール、 コントロールスライダー×4、ノブ×4、スーパーノブ、データダイアル	
	ディスプレイ	7インチ ワイドVGA TFTカラー LCD (タッチパネル付)	
	接続端子	[USB TO DEVICE]、[USB TO HOST]、MIDI [IN]/[OUT]、 FOOT CONTROLLER [1]/[2]、FOOT SWITCH [ASSIGNABLE]/[SUSTAIN]、 OUTPUT [L/MONO]/[R] (標準フォーンジャック)、 [PHONES] (ステレオ標準フォーンジャック)、 A/D INPUT [L/MONO]/[R] (標準フォーンジャック)	

その他	USBオーディオ インターフェース	サンプリング 周波数	44.1kHz
		入出力 チャンネル数	入力：4チャンネル（ステレオ2チャンネル） 出力：10チャンネル（ステレオ5チャンネル）
		消費電力	16W（電源アダプター PA-150B使用時）
		寸法・質量	MODX8+: 1,333 (W) × 404 (D) × 160 (H) mm、13.8kg MODX7+: 1,144 (W) × 331 (D) × 134 (H) mm、7.4kg MODX6+: 937 (W) × 331 (D) × 134 (H) mm、6.6kg
	付属品	電源アダプター (PA-150Bまたはヤマハ推奨の同等品)、取扱説明書(本書)、保証書、 CUBASE AI DOWNLOAD INFORMATION (CUBASE AIダウンロードについて)	

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

索引

A

A/D INPUT [GAIN] (A/Dインプットゲイン)ノブ	10
A/D INPUT [L/MONO], [R] (A/Dインプット左/モノラル、右)端子	17
A/D INPUT [ON/OFF] (A/Dインプット オン/オフ)ボタン	10
ABS (オーディオビートシンク)	17
[ARP ON/OFF] (アルペジオ オン/オフ)ボタン	11
[ASSIGN] (アサイン)ボタン	12
[ASSIGN 1]、[ASSIGN 2] (アサインナブルスイッチ1、2)ボタン	11
[AUDITION] (オーディション)ボタン	15

C

[CATEGORY] (カテゴリー)ボタン	15
[CONTROL ASSIGN] (コントロールアサイン) ボタン	13

D

DAW	55
[DC IN] (DCイン)端子	17
[DEC/NO] (デック/ノー)ボタン	14

E

[EDIT] (エディット)ボタン	14
[ENTER] (エンター)ボタン	14
[EXIT] (エグジット)ボタン	14

F

FM	38
FOOT CONTROLLER [1]、[2] (フットコントローラー 1、2)端子	17
FOOT SWITCH [ASSIGNABLE]、[SUSTAIN] (フットスイッチ アサインナブル、サステイン)端子	17
Frequency Modulation (フリケンシーモジュレーション)	38

G

GM音色	22
GMバンク	22

I

[INC/YES] (インク/イエス)ボタン	14
------------------------	----

K

KNOB POSITION (ノブポジション) [1]、[2]ボタン	13
------------------------------------	----

L

[LIVE SET] (ライブセット)ボタン	15
------------------------	----

M

[MASTER VOLUME] (マスターボリューム)ノブ	10
MIDI [IN]、[OUT]端子	17
MIDIポート	56
MIDI録音	45
[MOTION SEQ HOLD] (モーションシーケンサーホールド)ボタン	11
[MOTION SEQ ON/OFF] (モーションシーケンサー オン/オフ)ボタン	11
[MOTION SEQ TRIGGER] (モーションシーケンサートリガー)ボタン	11

O

OCTAVE (オクターブ)[-]/[+]ボタン	11
OUTPUT [L/MONO]、[R] (アウトプット左/モノラル、右)端子	17

P

[PART SELECT MUTE/SOLO] (パートセレクト ミュート/ソロ)ボタン	15
[PERFORMANCE (HOME)] (パフォーマンス(ホーム))ボタン	14
[PHONES] (ヘッドホン)端子	17
Power on Mode (パワーオンモード)	51

R

[RHYTHM PATTERN](リズムパターン)ボタン	13
------------------------------	----

S

SCENE (シーン) [1/5][2/6][3/7][4/8]ボタン	12
[SHIFT] (シフト)ボタン	14
SSS	23
[STORE] (ストア)ボタン	14

U

[USB TO DEVICE]端子	17, 61
[USB TO HOST]端子	17, 56
[USB VOLUME (MONITOR)] (USBボリューム(モニター))ノブ	10
[UTILITY] (ユーティリティ)ボタン	14

Y

Yamaha Steinberg USBドライバー	55
---------------------------	----

ア

アルペジオ	28
アルペジオタイプ	43
アンドゥー	47

イ

イニシャルサイズパフォーマンス	25
-----------------	----

エ

エフェクト	39
エレメントエディット	38
エレメントコモンエディット	38
エンベロープフォロワー	17, 44

オ

オーディオチャンネル	56
オーディションフレーズ	25
オートパワーオフ	19
オペレーター	38
オペレーターエディット	38
オペレーターコモンエディット	38

カ

カーソル	20
カーソルボタン	14
カテゴリーサーチ	24

キ

キーエディット	38
キーコモンエディット	38
キャリア	38

ク

クイックセットアップ	55
------------	----

ケ	
鍵盤	10
鍵盤入力	21
コ	
工場出荷時の状態	19
コントローラー	29
コントロールスライダー 1~4 (5~8/9~12/13~16)	12
コンペア機能	40
シ	
シーケンサートランスポートボタン	13
シーン機能	34
シーンセレクト[1-4]/[5-8]ボタン	12
シングルパートパフォーマンス	22
ス	
スーパーノブ	13, 31
[Φ](スタンバイ/オン)スイッチ	17
ストア	37
スプリット	42
スライダーセレクト[1-4]/[5-8]ボタン	12
スライダーファンクション[PART](パート)/ [ELEMENT/OPERATOR](エレメント/オペレーター)ボタン	12
セ	
セーブ	60
ソ	
ゾーン	49
ソロ機能	27
ソング	45, 47
タ	
タッチパネルLCD (液晶ディスプレイ)	13
テ	
データダイアル	14
テンキー入力	21
電源	18
ト	
トラック	45
ドラムパート	22
ノ	
ノーマルパート(AWM2)	22
ノーマルパート(FM-X)	22
ノブ	30
ノブ1~4 (5~8)	12
ノブファンクション[TONE]/[EG/FX]/[EQ]/[ARP/MS]ボタン	12
ハ	
パートエディット	38
パートコントロール状態	30
パネルロック	62
パフォーマンス	22
パフォーマンスエディット	37
パフォーマンスエディット画面	37
パフォーマンスコントロール状態	30
パフォーマンスプレイ	26
パフォーマンスプレイ画面	20
パンチイン/アウト録音	46
ヒ	
ピッチベンドホイール	10

フ	
フォーマット	61
フラグ	23
プリセットバンク	22
ヘ	
ヘッドホン	18
マ	
マイク	50
マスターチューン	52
マスターボリューム	10
マルチパートパフォーマンス	22
ミ	
ミキシング	33
ミュート機能	27
メ	
メッセージリスト	63
モ	
モーションシーケンサー	28
モジュレーションホイール	10
モジュレーター	38
ユ	
ユーザーバンク	22
ラ	
ライブセット	23, 35
ライブセット(Live Set)画面	20
ライブラリーバンク	22
リ	
リアルタイム録音	45
リズムパート	43
リズムパターン	43
リドゥー	47
レ	
レイヤー	41
ロ	
ローカルコントロール	53
ロード	60

ユーザーサポートサービスのご案内

■ ユーザー登録のお願い

弊社では、ユーザーの方々にサポートし、関連情報をご提供するために、本製品をご購入いただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。

ユーザー登録手続きは、下記ウェブサイトよりお願いします。

ヤマハ音楽制作機器ウェブサイト

<https://jp.yamaha.com/mp/>

* ユーザー登録には、製品本体のシリアル番号(SER No.)が必要になります。

* ご登録いただいた「ご住所」、「お名前」、「メールアドレス」などを変更された場合は、上記ウェブサイトよりお手続きください。

■ 質問の受付

ヤマハデジタル製品は、常に新技術/高機能を搭載し技術革新を進める一方、お使いになる方々の負担とわずらわしさを軽減できるような製品づくりを進めております。また取扱説明書の記載内容も、よりわかりやすく使いやすいものにするため、研究/改善いたしております。

しかし、一部高機能デジタル製品では、取扱説明書だけでは説明しきれないほどのいろいろな知識や経験を必要としてしまうものがあります。

実際の操作に関して、基本項目は取扱説明書に解説いたしておりますが、「記載内容が理解できない」、「手順通りに動作しない」、「記載が見つからない」といったさまざまな問題が起こる場合があります。

そのようなお客様への一助となるよう、弊社では**シンセサイザー・デジタル楽器**ご相談窓口を開設いたしております。お気軽にご利用いただけますようご案内申し上げます。お問い合わせの際には、「製品名」をお知らせください。

製品の仕様や取り扱いに関するお問い合わせ

お買い上げの販売店またはお客様コミュニケーションセンターへご連絡ください。

お客様コミュニケーションセンター シンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口

フリーダイヤル  0120-145-808

携帯電話、IP電話からは050-3852-4083

受付：月曜日～金曜日 10:00～17:00

(祝日、センター指定休日を除く)

<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハ楽器音響製品お客様サポート LINE公式アカウント

月曜日～金曜日 10:00～16:00

(祝日、センター指定休日を除く)



付属DAWソフトウェアについては、Steinberg社のホームページをご覧ください。Steinberg社のホームページでは、製品に関するサポート情報や、最新のアップデートのダウンロード、FAQなどを下記URLにて公開しております。

<https://japan.steinberg.net/>

付属DAWソフトウェアの[ヘルプ(Help)]メニューからSteinberg社のホームページにアクセスできます。(ヘルプメニューには、付属DAWソフトウェアのPDFマニュアルや追加情報なども掲載されています。)

◆ウェブサイトのご案内

・ヤマハ シンセサイザー・音楽制作サイト

<https://jp.yamaha.com/mp/>

・ヤマハ サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町10-1

* 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

◆ GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

◆ GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

ソースコード配布について

本製品の最終出荷日から3年間は、製品のソースコードのうちGNU General Public Licenseに基づいてライセンス供与された部分については、ソースコードを配布させていただきます。以下の住所にお問い合わせください。

〒430-8650 浜松市中央区中沢町10-1

ヤマハ(株)

電子楽器事業部 電子楽器戦略企画グループ

ソースコードの配布自体は無償ですが、ソースコードの送料につきましてはご負担いただきます。

- ・弊社(または弊社認定の関係者)以外の第三者による、この製品のソフトウェアに対する変更や追加、削除などによって発生したいかなる損害に対しても、弊社は一切責任を負いません。
- ・弊社により一般に公開されたソースコードの再利用は保証されておりません。ソースコードに関して弊社は一切責任を負いません。
- ・また、ソースコードは以下のURLでも配布しております。
<https://download.yamaha.com/sourcecodes/synth/>

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、または修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本製品には保証書が付いています。「販売店印・お買い上げ日」が記入されている場合は、記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。記入されていない場合は、購入を証明する書類(領収書、納品書など)とあわせて、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店または修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

● 修理に関するお問い合わせ

お買い上げの販売店または修理ご相談センターへご連絡ください。

※修理をご依頼いただくときは、製品名、品番などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

修理ご相談センター

フリーダイヤル  0120-149-808

携帯電話、IP電話からは050-3852-4106

受付：月曜日～金曜日 10:00～17:00

(祝日、センター指定休日を除く)

FAX

● 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海): 03-5762-2125

● 西日本(北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄): 06-6649-9340

● 修理品お持込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

* お電話は、修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2丁目1-1 JMT京浜E棟A-5F

FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011

大阪市浪速区難波中1丁目13-17 ナンバ辻本ビル7F

FAX 06-6649-9340

*名称、住所、電話番号、営業時間などは変更になる場合があります。

